

大 学 院 履 修 案 内

平 成 20 年 度
(2 0 0 8 年 度)

慶 應 義 塾 大 学
文 学 研 究 科

振 鈴 表

時 限	授業振鈴時間	定期試験振鈴時間 ^(注)
第1時限	9:00 ~ 10:30	9:30 ~ 10:30
第2時限	10:45 ~ 12:15	10:45 ~ 12:15
第3時限	13:00 ~ 14:30	13:00 ~ 14:30
第4時限	14:45 ~ 16:15	14:45 ~ 16:15
第5時限	16:30 ~ 18:00	16:30 ~ 18:00
第6時限	18:10 ~ 19:40	18:15 ~ 19:45
第7時限	19:50 ~ 21:20	

(注) 修士課程科目のうち学部設置科目と併設している科目については、定期試験期間中に定期試験を行うことがあります。

緊急時における授業の取扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京―高尾間） ・京浜東北線（大宮―大船間） ・東急（電車に限る）
のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとします。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常通り授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

※交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられる場合の授業の取扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休業とします（3回戦以降もこれに準じます）。

ただしアート・マネジメント分野（修士課程）および情報資源管理分野（修士課程）図書館情報学専攻（後期博士課程）については、通常通り授業を行います。

雨天等により試合が中止になるときは、神宮球場の判断によります。

神宮球場テレフォンサービス……TEL 03-3236-8000

本案内は、大学院文学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を申告してください。

履修申告を期日に行わない者は、退学の処置にすることがあります（学則 161 条）。

申告後の履修科目変更、追加、取消は認めません。又、履修届の閲覧も認めませんので「履修届」の本人用控え（コピー）を手許に残し、後日送付する確認表と合わせて確認の上、年度末まで必ず保管して下さい。この確認を怠った為に生じた不利益（申告漏れ、科目間違い等）については学校側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは提示により指示します）で、この期間経過後は、確認を終了したものと見做します。

申告をしていない授業科目を受験しても一切無効であり、単位は取得できません。

目 次

学事関連スケジュール	4
一般注意事項	6
履修申告方法	17
履修要項	28
講義要綱	33
修士課程設置	
哲学・倫理学専攻	34
美学美術史学専攻	45
史学専攻	55
国文学専攻	65
中国文学専攻	76
英米文学専攻	79
独文学専攻	90
仏文学専攻	95
図書館・情報学専攻	100
後期博士課程設置	
哲学・倫理学専攻	110
美学美術史学専攻	113
史学専攻	117
国文学専攻	121
中国文学専攻	122
英米文学専攻	123
独文学専攻	125
仏文学専攻	128
図書館・情報学専攻	130
全研究科共通（修士・後期博士課程共通）	133
他大学大学院との相互科目履修に関する協定	163
関係規程抜粋	165
学位請求論文製本表紙見本	174

平成20年度（2008年度）学事関連スケジュール（三田）

春 学 期	4月1日（火） 12:30～	成績証明書発行開始
	3日（木） 10:45～12:15	情報処理教育室設置講座ガイダンス（516番教室）
	5日（土） 10:45～12:15	国際センター在外研修プログラムガイダンス（528番教室）
	14:45～15:45	教育実習事前指導Ⅰ（2008年度実習予定者）（517番教室）
	7日（月） 9:00～	大学院入学式（西校舎ホール）
	11:30～13:00	履修案内等資料配布（133番教室） ※アート・マネジメント分野（修士）、情報資源管理分野（修士）、図書館・情報学専攻（後期博士）は除く。
	12:30～13:00	アート・センターガイダンス（524番教室）
	13:30～	文学研究科全体ガイダンス（教室は当日掲示します） ※アート・マネジメント分野（修士）、情報資源管理分野（修士）、図書館・情報学専攻（後期博士）は除く。
	16:30～18:00	教職課程ガイダンス（大学院生対象）（517番教室）
	18:00～18:30	アート・マネジメント分野（修士）資料配布（313番教室前） 情報資源管理分野（修士）、図書館・情報学分野（後期博士）資料配布（314番教室前）
	18:10～19:10	教育実習ガイダンス（2009年度実習予定者）（南館ディスタンスラーニング室）
	18:30～	アート・マネジメント分野（修士）ガイダンス（313番教室） 情報資源管理分野（修士）、図書館・情報学分野（後期博士）ガイダンス（314番教室）
	8日（火）	春学期授業開始
	11日（金） 10:00～16日（水）14:00	Webによる履修申告期間
	11日（金） 10:00～24日（木）16:45	Webによる履修申告科目一覧提出期間（学事センター文学研究科窓口）
	16日（水） 8:45～14:00	用紙による履修申告日（学事センター前受付ボックス）
	19日（土） 9:00（予定）	学事 Web システム履修科目確認画面稼働開始
	23日（水）	開校記念日【休講】
	30日（水）	在学科等納入期限（全納または春学期分納）
	5月上旬（詳細後日掲示）	履修申告科目確認表送付（本人宛）
	上・中旬	健康診断
	7日（水）～	修士課程2年生 修了見込証明書発行開始 後期博士課程3年生 教育課程終了（単位取得退学）見込証明書発行開始
	7日（水）～9日（金）〈予定〉	履修エラー修正期間（期間は履修申告科目確認表に記載） ◆期間外の修正は受けません◆
	下旬	早慶野球戦
	7月10日（木）	春学期土曜代替講義日
	11日（金）	春学期補講日
	15日（火）	春学期授業終了
	16日（水）～28日（月）	春学期末試験（この期間の授業はありません）
	29日（火）～9月21日（日）	夏季休業（8月9日（土）～8月15日（金） 三田キャンパス一斉休業）

一 般 注 意 事 項

I 学 生 証 (身 分 証 明 書)

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 通学定期券の発売区間は、「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は、必ず学事センター窓口にて区間変更手続きを行ってください。なお、通学区間が適正でない場合、通学定期券の発売が停止されます。
4. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4 cm，横3 cm カラー光沢仕上げ、最近3ヶ月以内に撮影したもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は、原則当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
5. 返 却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板に注意してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある共通掲示板および学部共通掲示板をご覧ください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係ある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。休講・補講、呼出しについては、インターネット

トに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。また、試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。

Ⅲ 試験・レポート・成績

1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

2. レポート

レポート提出は、教室および研究室等で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要な事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日…… 8時45分～16時45分

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

3. 学位請求論文（修士論文・博士論文）

履修案内 28～30 ページを参照してください。

4. 成績通知

学業成績表は9月中旬および3月中旬に本人宛に発送します。（ただし、取得した科目の成績が成績証明書に記載されるのは翌年度の4月以降となります。）

また、指定された期間内に限り学業成績表を Web 閲覧することも可能です。利用にあたっては keio.jp の慶應 ID・パスワードと学事 Web システムのパスワードが必要となります。閲覧期間等の詳細は別途お知らせします。

Ⅳ 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・退学届・就学届

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ時は、改めて許可を得なければなりません。

休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出してください。

なお、病気を理由に休学をしていた場合には併せて復学を認める医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印の上、学生証を添えて指導教授の許可を得たうえで学事センター窓口に退学届を提出してください。

2. 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」(学則第124条)

詳しくは履修案内30ページを参照の上、学事センター文学研究科係に問い合わせてください。

3. 住所変更届(本人・保証人)、保証人変更届、改姓(名)届、国籍変更

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターへ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

- ・住所変更届：在学カード
- ・保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書(本人・保証人押印)、保証人住民票
- ・改姓(名)届：改姓(名)届、在学カード、誓約書(本人・保証人押印)、戸籍抄本、学生証再交付願
- ・国籍変更：戸籍謄本(コピーでも可)、住民票

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されない場合は、極めて重要な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書発行、申込み、受け取りはいずれの場合にも学生証が必要です。在学料等が未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】

証明書種類		三田	手数料	備考
在学証明書	和文	●	200円	4月1日 12時30分～発行
	英文	●		
成績証明書	和文	●		
	英文	●		
修士課程修了見込証明書	和文	●	200円	5月7日～修士課程2年生のみ発行
	英文	●		
修士課程修了見込証明付成績証明書		和文	400円	
履修科目証明書	和文	●	200円	6月2日～発行
	英文	○		
健康診断証明書		和文	200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断書		英文	—	大学保健管理センターで発行します (詳細は保健管理センターにお問合せください)
教育課程終了見込証明書 (単位取得退学見込証明書)	和文	○	200円	後期博士課程単位取得退学予定者のみ
	英文	○		
特殊証明書	各種資格試験等受験用単位取得証明書		200円	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書			
	科目等履修生・研究生に関する各種証明書			
その他	学割証(JR各社共通)		無料	定期健康診断を未受診の場合には発行できません
	通学証明書			学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	厳封を必要とするもの(和文・英文)		○	—

凡例 ● 自動発行機で即日発行 ○ 窓口で即日発行 ○ 窓口で数日後発行 × 発行不可

＝注意事項＝

【証明書自動発行機で即日発行する証明書】

<和文>

- ① 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも学籍を失った場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断が未受診の場合には、学割証の発行はできません。
- ② 厳封が必要な場合は、学事センター窓口で申し出てください(自動発行機で発行した証明書は厳封できません)。
- ③ 健康診断証明書は6月中旬以降、当該年度の定期診断受診者に発行されます。なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

<英文>

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

【学事センター窓口で日数を要して発行する証明書】

特殊証明書等（例：英文履修科目証明書，他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、あらかじめ所属するキャンパスの学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には、申請してから和文証明書は標準3日，英文証明書は標準7日を要しますので、余裕をもって所属するキャンパスの学事センター窓口にお越しください。

【証明書自動発行機稼働時間】

- ・三田キャンパス 学事センター事務室内：月曜日～金曜日 8時45分～16時45分
 （休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）
- 南校舎1階：月曜日～土曜日 9時～20時
 （休業期間中の土曜日および休日・大学休業日は除く）

- 注1）自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。
- 注2）メンテナンス，故障等により自動発行機を停止することがありますので，HP・掲示板等で確認してください。
- 注3）料金は改定される場合があります。

【前学籍証明書の発行】

証明書種類		手数料	補記（日程等）	
学 部	前学籍成績証明書	400円	1978年3月31日以降の学部卒業生	
				和文
	英文			
前学籍卒業証明書	和文			
修 士	前学籍成績証明書		和文	1991年3月31日以降の修士修了者
			英文	
	前学籍修了証明書	和文		
		英文		

- ① 所属地区にかかわらず，三田・日吉・矢上・湘南藤沢の証明書自動発行機でも発行可能です。
- ② 英文の証明書発行については，2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機にて発行します。その他の学生については，従来どおり学事センター塾員証明書窓口での発行となります。ただし，2004年4月以降，窓口で英文証明書の申請・交付を受けたことがある場合は，その翌日から証明書自動発行機での発行が可能となります。

該当学部・大学院	発行可能卒業・修了年月日	
文・経・法・商・社	学 部	1978年3月31日以降
	大学院	1991年3月31日以降
理工（工）	学 部	1983年3月31日以降
	大学院	1984年3月31日以降
総合・環境・看護・政メ・健マネ	学 部	1990年4月1日以降
	大学院	1990年4月1日以降

VI 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

月～金曜日…… 8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

※土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日は閉室となります。また、8月中旬および年末年始期間も閉室します。

※事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 学事センター窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み（学部設置の科目）
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行
- (11) 修士課程修了後および後期博士課程単位取得退学後の各種証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

3. 教室使用申請について

三田キャンパス

- (1) 受付窓口（利用者により受付窓口が異なりますのでご注意ください）

	利 用 者		
	研 究 会	学 生 団 体	外部団体
授業期間	三田学事センター	三田学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	三田学事センター	使用できません	管財部管財担当

(2) 授業期間中の教室使用申請

- ① 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
- ② 申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
- ③ 「申請者控」は、研究会は学事センター、学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- ④ 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

(3) 休業期間中の教室使用申請

- ① 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当専任教員の印またはサインが必要となります。
- ② 学生団体の場合は、原則として使用できません。
- ③ 申請は使用予定日の3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
- ④ 「申請者控」は、学事センターでお受け取りください。
- ⑤ 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

VII 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当（三田）専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（三田研究室棟または南館）
- 他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

VIII 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生総合センターの窓口業務について紹介します。

学生生活支援窓口

- 学生談話室 A・B の使用申込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の4日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

- 学生食堂（山食、西校舎学生食堂（生協食堂）、北館学生食堂（ザ・カフェテリア））の使用申込み受付
公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、学生食堂をパーティー等で利用する場合は、学生生活支援担当が予約受付窓口となります。予約後2週間以内に学内集会届を提出し正式申込をしてください。学内集会届が提出されなかった場合、予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後、学生食堂に直接相談してください。なお、日曜・祝日は利用できません。

- 学外行事届、団体割引の受付

公認学生団体や研究会で、合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前（土・日・祝日を除く）までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引が必要な場合は申し出てください。なお、届け出があった活動は傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、許可を受ける必要があります。

○備品使用申請の受付

ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○車輦入構申請の受付

塾生の車輦入構は認められていませんが、やむを得ず車輦入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8時45分～21時です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として利用できます。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお、DENGONに掲示するには学生総合センター窓口へ申し出て掲示物受付簿を記入してください。

○大学生生活懇談会について

学生総合センター「大学生生活懇談会」では、講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページをご参照ください。

○遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。

○その他窓口配付・閲覧関係

窓口には財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますのでご自由に閲覧してください。

○奨学金

奨学金窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

・慶應義塾大学大学院奨学金〔給付〕

5月中旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と第二種（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

・指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借り入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分の一部について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報などを、南校舎地下1階の学生総合センター就職・進路支援、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。また、ホームページでは、これら企業からの求人票、説明会案内を検索し、閲覧することができます。

修士1年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援、就職・進路支援—

月～金曜日…… 8時45分～16時45分（休業期間中の11時30分～12時30分は閉室）

※都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

—学生相談室—

月～金曜日…… 9時30分～16時30分

土曜日……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。

この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など、教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハンググライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用を円滑に行うため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

IX 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

慶應義塾大学学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

なお、アート・マネジメント分野（修士課程）、情報資源管理分野（修士課程）、図書館・情報学専攻（後期博士課程）在籍の学生で、定期健康診断を期間内に受けることができず、企業等で既に健康診断等を受けられた方は、保健管理センター（三田分室）にその旨、お申し出ください。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳などを確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種をすることをお勧めします。

また、風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）などの感染症予防についてもかかりつけの医師とご相談ください。

学内集団感染予防のため、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<保健管理センター（三田分室）>

受付時間 月～金 8:45～16:15（診療時間とは異なりますので、ご注意ください）

TEL：03-5427-1607 E-mail：hc@info.keio.ac.jp

履修申告方法

履修申告期間

Webによる履修申告	4月11日（金）10:00～16日（水）14:00
	※「Webによる履修申告」を行った学生は、必ず「学事webシステム」上の「登録科目一覧」画面をプリントアウトし、右上の「指導教員欄」に指導教授の承認印が押された用紙を、 <u>4月24日（木）16:45までに</u> 、 <u>三田学事センター文学研究科担当窓口</u> に提出すること。
用紙による履修申告	4月16日（水）8:45～14:00

(注) ① 秋学期科目も含めて、春学期の上記履修申告期間に履修申告を行います。

(秋学期には履修申告期間はありません)

② 学事 Web システムもしくは履修申告用紙どちらか一方のみで申告を行ってください。

第1 履修申告について

1 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、二つの方法を併用することは出来ません。履修する全ての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください）。

2 注意事項

- (1) 履修申告を期日に提出しない者は、退学の処置にすることがあります（学則第161条）。
- (2) 履修申告用紙提出後の科目登録の確認を5月上旬頃行います。学事センターから履修申告科目確認表を郵送しますので、手元に残した履修申告用紙の控えと科目名、担当者名、曜日、時間、分野等を必ず確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。**履修の確認は修正期間（5月7日～9日を予定）までに行い、修正すべき点または疑問点があれば、修正期間に必ず申し出なければなりません。**この確認を怠ったために生じた不利益（申告漏れ、科目間違いなど）は各自の責任となります。
- (3) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。
- (4) 履修申告をしていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。
- (5) 留学（学則124条）が認められた者および留学予定の者の履修申告については、学事センター文学研究科係まで問い合わせてください（P.30「留学について」参照）。
- (6) 修士課程の学生は、後期博士課程設置科目を履修することはできません。

第2 履修申告にあたっての注意事項

1 A欄・B欄について

履修申告欄は、A・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは以下のとおりです。

〈A欄に記入する科目〉

所属課程・所属専攻設置の科目

〈B欄に記入する科目〉

上記以外の科目（認定科目，研究所等設置科目，自由科目として申告する科目）

なおB欄で申告する際は、「2分野表」のB欄分野番号を指定の上，登録してください。

2 分野表

【修士課程在籍者】

修了必要 単位数	種 類	B欄 分野番号	分野コード	A欄・B欄の区別
32単位	文学研究科 修士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p. 34～参照)	—	01-01-01	A欄で申告すると自動的に01-01-01 の分野で登録されます。
	上記以外の認定科目 ※指導教授の許可が必要 です	12	01-02-01	B欄で，B欄分野番号を指定した上 で登録してください。
	他 大 学 交 流 科 目	—	01-03-01	履修上限：8単位まで（課程修了に 必要な単位として認定） 他大学大学院設置科目履修申告用紙 に記入の上，期間内に提出してくだ さい。許可された科目の履修申告は 学事センターが行います。
—	自 由 科 目	99	09-01-01	B欄で，B欄分野番号を指定した上 で登録してください。

【後期博士課程在籍者】

修了必要 単位数	種 類	B欄 分野番号	分野コード	A欄・B欄の区別
12単位	文学研究科 後期博士課程所属専攻 設置科目 (履修案内p.110～参照)	—	01-01-01	A欄で申告すると自動的に01-01-01 の分野で登録されます。
	上記以外の認定科目 ※指導教授の許可が必要 です	12	01-02-01	B欄で，B欄分野番号を指定した上 で登録してください。
—	自 由 科 目	99	09-01-01	B欄で，B欄分野番号を指定した上 で登録してください。

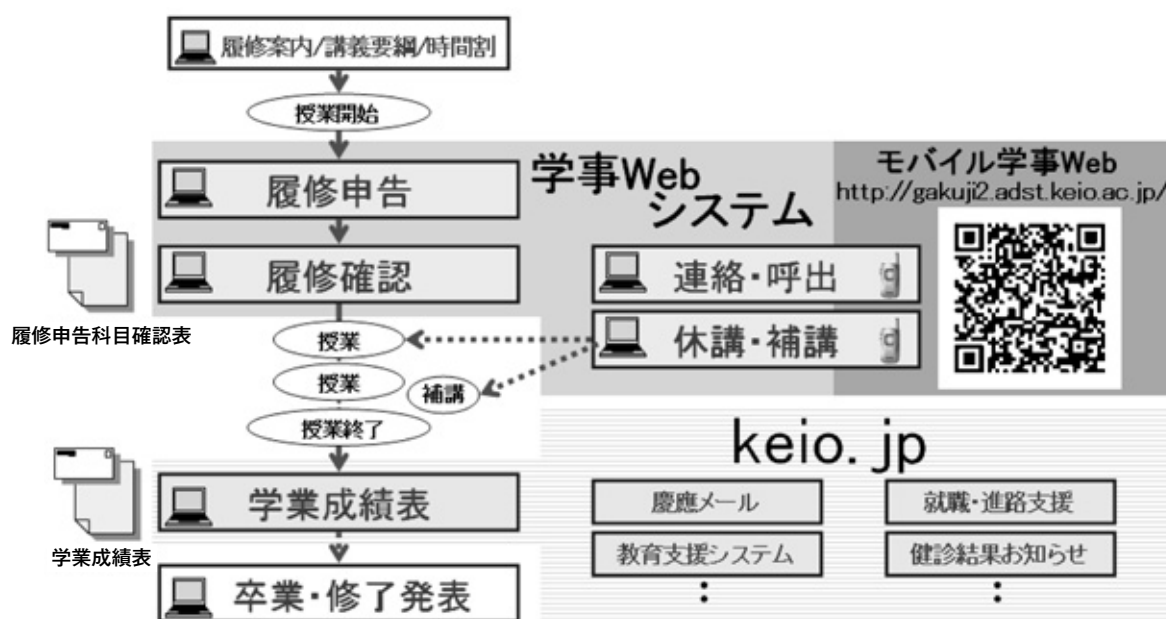
第3 Web システム概要

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスの利用ができます。

現在、ポータルサイト「塾生の皆様へ」で履修案内 / 講義要綱 / 時間割、卒業・修了発表など様々な情報を公開しています。また、ログインを必要とするシステムとして、「学事 Web システム」「keio.jp」の2つのシステムにて、履修申告、休講・補講情報、学業成績表など各種の機能を提供しています。一部の機能では、携帯電話などの携帯端末から利用できるサービスもあります。

各システムのログインに必要な ID・パスワードは、「学籍番号 / 学事 Web パスワード」と「慶應 ID / パスワード」の二種類があり、それぞれのシステムで必要となる ID・パスワードが異なります。利用するシステムに対応した ID・パスワードでご利用ください。なお、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのユーザ名・パスワードとは異なりますのでご注意ください。

各システムで提供している機能の中で特に授業に関連する機能を中心に以下の図に示します。



Web システムで提供する主な機能

各システムの操作方法や設定方法は、各システムのマニュアル HP にて詳しく説明しています。

その他にも新しい機能を随時提供する可能性があります。その場合は、「塾生の皆様へ」や「keio.jp」トップページなどで随時告知いたします。

「塾生の皆様へ」：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

「keio.jp」トップページ：<http://keio.jp/>

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。 最新のお知らせや各種ホームページのリンクなどを提供しています。
主な提供サービス	<p>■ 授業 / 履修 / 試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 ・卒業・修了発表 (学籍番号のみ公開) など <p>■ 学生生活 / 進路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窓口利用案内 ・イベントや奨学金についての情報 など <p>その他, 各種の情報を提供しています。詳細は上記 URL を参照ください。</p>

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/Password	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	履修申告や登録済科目の確認, 休講・補講情報の確認などができます。 学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学生証持参の上, 学事センター窓口までお越しください。
主な提供サービス	<p>■ 履修申告</p> <p>時間割や登録番号から科目を選択し, 履修申告を行うシステムです。学部・研究科もしくはキャンパスごとに決められた履修申告期間なら何度でも履修申告内容の修正が行えます。 履修申告期間については, P.17 を参照ください。 受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し, 必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。</p> <p>■ 履修確認</p> <p>履修中科目の一覧を表示します。学部・研究科もしくはキャンパスごとに決められた期間に利用できます。ただし, 表示される履修中科目の内容は, ある日付の暫定的な内容となります。正確な履修中科目の一覧を確認したい場合は, 本人宛に送付する履修申告確認表を必ず確認してください。</p> <p>■ 休講・補講</p> <p>休講・補講のある授業の一覧が表示されます。履修中の科目の休講・補講のみを表示, もしくは1週間や1ヶ月など一定期間中のキャンパスごとの休講・補講を表示することもできます。 休講・補講は, 携帯端末からも利用できます。 ただし, 公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので, 必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。 また, 代替講義日の休講は通常講義と異なり, 学事 Web システムの休講情報は対応していませんので, 塾生ページ (http://www.gakuji.keio.ac.jp/) および, 各キャンパスの掲示板で確認してください。</p> <p>■ 連絡・呼出</p> <p>事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は, 学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡や呼出がない場合は, 何も表示されません。 連絡・呼出は, 携帯端末からのログイン時にも表示されます。</p>

共通認証システム (keio.jp)	
URL	http://keio.jp/
ID/Password	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp/
概要	<p>共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。</p> <p>利用するには、慶應 ID の取得(アクティベーション)が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために慶應 ID・パスワードの他に第2パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。</p>
主な提供サービス	<p>■ 学業成績表閲覧 ※学事 Web パスワードを第2パスワードとして利用</p> <p>学部生は保証人，大学院生は本人へ郵送した学業成績表の原本から，個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は，学部・研究科，学年などで異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知いたします。</p> <p>■ 健診結果お知らせ ※学事 Web パスワードを第2パスワードとして利用</p> <p>当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。</p> <p>結果は必ず確認してください。(結果閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします)</p> <p>結果についてのご質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p>■ 就職・進路支援システム</p> <p>進路希望，進路届，就職体験記，求人票など</p> <p>■ その他</p> <p>・慶應メール ・教育支援システム 他</p> <p>(詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)</p>
慶應 ID 取得	<p>まだ慶應 ID を取得していない方は、「アクティベーション」を行ってください。アクティベーションの際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードを利用します。</p> <p>アクティベーション方法の詳細は，以下を参照ください。</p> <p>http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</p> <p>アクティベーションは1度しか利用できません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は，各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>

Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにするなどのセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

第4 履修申告用紙による方法

Web による履修申告がやむを得ず出来ない場合には、以下の日程で履修申告用紙（マークシート）を配布します。下記期日に必ず提出してください。

配布日 : 4月10日(火)・11日(水) 8時45分～16時45分
提出日 : 4月16日(水) 8時45分～14時
提出場所: 学事センター

なお、履修申告提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また、履修申告用紙の閲覧、履修科目の紹介にも応じませんので、各自提出する履修申告用紙の控え（コピー）を必ず手元に残すようにしてください。

1 記入時の注意事項

研究科、専攻（分野）、学年、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。修士または博士どちらかに○印をつけてください。なお、学科・組の記入は必要ありません。

- (1) 登録番号は、時間割に記載されている5桁の数です。科目名・教員名・番号が正しく書けていてもマークを間違えると登録されません。
- (2) 一度記入した科目の訂正・変更等は、消しゴムを使用せず、無効マーク欄を塗りつぶして改めて記入してください。
- (3) 提出期限外の受付は一切できません。

2 履修科目の記入方法

(1) A欄記入上の注意

ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。

複数の教員が担当する科目は時間割最上段に記載されている教員名を記入します。

イ 形態〔春・秋・通年〕を○で囲み、登録番号をマークします。

(2) B欄記入上の注意

ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。

複数の教員が担当する科目は時間割最上段に記載されている教員名を記入します。

イ 「分野表」(p. 18)を参照し、B欄分野番号を記入します。

ウ 形態〔春・秋・通年〕を○で囲み、登録番号・B欄分野番号をマークします。

(3) A・B欄共通の注意

科目名・教員名・登録番号などを記入しても、マークの塗り忘れがあると科目は登録されませんので注意してください。

(4) 無効マーク

無効マークをマークすると、その枠内の登録内容について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、無効マークを利用してください。

(5) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべくこの欄無効マークを使用して無効にした上で正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参の上、学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

3 指導教員の承認印について

履修申告用紙の指導教授印欄に指導教授の承認印が必要です。履修申告用紙の「指導教員」欄および認定科目（B欄分野番号12）の科目名欄に指導教授の承認印を受けたものを4月24日（木）16:45までに提出してください。指導教授の承認印のないものは受けつけません。（※指導教授の承認印がマーク欄にかからないように注意してください。）

第5 プロジェクト科目Ⅰ，Ⅱ（修士課程・後期博士課程共通，文学研究科・社会学研究科共通）

平成19年度より文学研究科，社会学研究科の共通科目としてのプロジェクト科目が開設されました。これはグローバルCOE「論理と感性の先端的教育研究拠点」によるもので、複数の教員の指導のもとで研究活動に参加する授業科目です。半期ずつの科目となっていますが、併せて通年での登録を原則とします。

プロジェクト（A）：脳と進化

このプロジェクト科目は論理と感性を、実験心理学、機能脳画像、動物実験による系統発生的比較研究から解明しようとすることを目的としています。したがって、実験を主にした研究ということになります。心理学や脳科学の予備知識のない大学院生でも履修できるように個別指導を行います。また、GCOEの教育講座などでも必要な知識・技術を身につけられます。

（担当者：渡辺茂，小嶋祥三，梅田聡）

プロジェクト（B）：遺伝と発達

このプロジェクト科目では、双生児研究による論理的判断と感性的判断の遺伝的素因の研究を行います。また、発達、とくに発達障害研究による論理的判断と感性的判断の獲得過程の問題に取り組めます。したがって、実験による研究が主になります。青年期・成人期の双生児コホートから、ゲノム研究のための縦断データを収集することも行います。機能脳画像による実験も積極的に行います。

（担当者：安藤寿康，藤澤啓子，山本淳一〔秋〕）

プロジェクト (C)：認知と言語

このプロジェクト科目では人間の記憶や判断における分析的・論理的過程と非分析的・感性的過程の働き方について認知心理学的手法によって研究し、また、言語知識の獲得・使用が論理と感性にどのような効果を持つか、母語の特性とどのように相互作用するのかなども研究します。担当教員と共同研究をしている海外の大学、研究機関との連携した実験も行います。実験的な研究以外に、言語についての理論的な研究も行い、言語機能の初期状態と安定状態の予備的モデルを構築することも行います。また、成人と乳児を対象にした事象関連電位による研究、成人を対象とした fMRI による脳研究も行う予定です。

(担当者：伊東裕司，大津由紀雄，今井むつみ)

プロジェクト (D)：哲学・文化人類学

このプロジェクト科目では、倫理判断、美的判断における論理と感性の役割を分析・研究します。そのうちのひとつでは、絵画における立体や位置の認知・推論についての文化的歴史的要因による偏りについての理論を構築することを目指します。また、文化人類学的研究では、科学と合理性と伝統的世界観、心の病等の問題の検討を通じて、どのような環境で論理と感情が破綻をきたし、また調和するのか、その条件を文化的多様性と関連づけて考察します。したがって、この科目には、分析的な研究、実験的な研究、ならびに、調査および現地事例観察を主体とする研究が含まれます。

(担当者：飯田隆，宮坂敬造，遠山公一，北中淳子，樽井正義 [秋])

プロジェクト (E)：論理・情報

このプロジェクト科目では、日常の推論の論理モデルに言語的情報・図形的情報・感性情報がどのように反映できるのかを解析します。また、感性的直観と論理思考との関係、および図形的推論と言語的推論の論理研究について理論モデルを構築し、これまでの認知や情報科学・人工知能分野におけるモデルと比較検討します。これらは理論的な研究ですが、メンタルモデル理論とメンタルロジック理論等の認知心理学的データに対する批判的検討を試みたり、機能脳画像研究を通じて近年明らかにされてきた脳内デュアルシステムに対する論理的考察を行なう等の実験科学的観点の研究も取り入れます。論理と直観、論理と感性、エピステーメとしての論証的知識とドクサや実践的知識、等の伝統的な対立項に対して現代的な観点から再検討を加えます。

(担当者：岡田光弘，西脇与作，納富信留，エアトル ヴォルフガング)

プロジェクトに登録するには担当教員の許可が必要です。研究内容の詳細は本科目のガイダンスに参加して説明を聞いてください。

第6 他大学大学院との相互科目履修

修士課程在学中に、8単位を上限として早稲田大学大学院文学研究科・学習院大学大学院人文科学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科の設置科目を履修することができます。また哲学・倫理学専攻の修士課程では、上記の相互履修科目と合わせて8単位までの範囲で上智大学大学院哲学研究科の設置科目を履修することができます。

また、この科目は課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末 (P.163～164) に記載されている協定を参照してください。

<他大学大学院との交流手続の方法>

① 「大学院交流学生履修届」(A・B・Cの三票が1枚になったA4縦の青紙)

② 「他大学大学院設置科目履修申告用紙」(A4横の白紙)

以上2枚の所定用紙を学事センター文学研究科担当窓口で受け取る。



「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)に必要事項(学籍・氏名・住所・科目)を記入し、「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)の指導教授承認印欄に指導教授の印をもらう。



相手校で講義担当者の当該授業に出席して、「大学院交流学生履修届」(A・B・C全票)の担当者欄に講義担当者の承認印を受けた上で、指示された期間中に相手校事務室へ提出する。

相手校事務室で相手校の割印を受けた「大学院交流学生履修届」(A票)のみを受け取る。

【履修届受付期間：2008年4月9日(水)～4月16日(水)※】

※ただし、上智大学大学院の授業開始は4月11日(金)です。履修届受付期間は4月11日(金)～となります。



履修が許可された場合、三田学事センター文学研究科窓口にて、5月7日(水)より「大学院交流学生履修届」(A票)を確認の上、相手校発行の「交流学生登録証」をお渡します。

<注意事項>

- ① 相手校の学科目を履修する場合は、必ず予め指導教員の承認をうけてください。
これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。
- ② 万一、履修を途中でやめるときは、速やかに講義担当者、相手方教務部および指導教員、三田学事センター文学研究科担当に連絡してください。ただし、履修申告の削除はできません。

履 修 要 項

第 1 課程修了にいたるまでの要件

課程修了の認定は、研究科委員会が行う。(学則第 109 条)

1 修士課程

文学研究科修士課程に 2 年以上在籍し、32 単位以上の授業科目を修得し、かつ研究上必要な指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 11 条・15 条・109 条参照)

2 後期博士課程

文学研究科後期博士課程に 3 年以上在籍し、原則として各年度 2 科目 4 単位以上を 3 年にわたり履修、指導教授の担当する 2 科目を含め、合計 6 科目 12 単位以上の授業科目を修得した上、学位論文(博士論文)の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 18 条・19 条・109 条参照)

なお、上記要件のうち、学位論文の審査及び最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(「第 4 単位取得退学および在学期間延長について」参照)

第 2 学位請求論文の提出について

1 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 3 条)

第 3 条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文 3 部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条 ①)

・修士論文提出及び学位申請に関しての手順は次のとおりです。

(1) 修士論文題目届提出 (11月中旬予定)

指導教授と相談の上、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙にて論文題目を届出てください。詳細については 10 月中旬に掲示板にて指示します。

なお、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず文章(様式任意・指導教授承認印が必要)にて学事センターに申し出てください。

(2) 論文提出 (1月下旬予定)

提出日、提出方法については掲示板上にて指示します。なお、論文題目については(1)で提出した題目(副題目も含む)と同じものとします。

(3) 修士論文面接 (2月下旬～3月上旬予定)

提出された論文をもとに面接が行われます。面接時間等については掲示もしくは論文提出時にお知らせします。

2 博士論文の提出と博士学位の授与

(1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院後期博士課程を修了したものに与えられる。（学位規定第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条②）

なお課程による博士学位は原則として、修了に必要な単位を取得し、在学中に学位論文を提出し、かつ文学研究科委員会にて受理され、合格した場合に与えられますが、**後期博士課程入学後6年以内**に学位論文が文学研究科委員会にて受理されれば、課程博士として申請することができます。

これは、在学期間内の文学研究科委員会にて論文受理後、審査の途中で退学を希望する場合や、博士課程入学後6年の期間内に学位論文が提出され、同期間内の文学研究科委員会にて受理された場合などが該当します。

(2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院後期博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（同第8条）

- ・博士論文を提出する場合は、学事センターで手続方法等について確認してください。

3 論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく下記の体裁に整えるよう協力をお願いします。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。

（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

- ② 表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

- ③ 表紙はハードカバーで黒を原則とし、白文字を使用してください。

- ④ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きに係わらず縦書きとしてください。

一部英単語が入る場合は、英単語のみ横書きとし、他の日本語は縦書きとしてください。

- ⑤ 表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

4 三田メディアセンターからの学位論文利用許諾協力依頼

三田メディアセンター(図書館)では学位論文を保存し、利用に供しております。メディアセンターが利用者に提供するサービスのうち以下の項目については、事前に著作権者からの許諾を必要としています。学位論文を学事センターに提出する際に、「学位論文利用許諾書」に必要事項を記入の上、一緒に提出してください。なお、学位授与にいたらなかった場合は、メディアセンターが責任をもつ

て廃棄いたします。

許諾を必要とする項目

- ・修士論文提出者：「館外への貸出」、「複写」、「電子媒体の公衆送信」※
- ・博士論文提出者：「論文全体の2分の1以上の分量の複写」、「電子媒体の公衆送信」※
(※は将来的に可能性がある利用方法です)

第3 留学・休学・退学

1 留学について（学則第124条）

留学を希望する場合は原則として、出発3ヶ月前までに次の学内手続きをしてください。

- ① 学事センター窓口で国外留学申請書の交付をうけ、必要事項を記入してください。
- ② 国外留学申請書に記載されている必要書類を用意してください。
- ③ ①と②を合わせて学事センターに提出して検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定を受けてください。（交換，奨学金，その他の認定）
- ④ 国際センターの認定後，①と②の書類を持参して指導教授と面接し，留学の許可を得てください。
- ⑤ ④による許可を受けた上で，①と②の資料を学事センターに再び提出してください。
- ⑥ 上記の手続きを経た外国の大学院またはそれに準ずる機関への留学が，研究科委員会で教育上有益であると判断された場合は，休学することなく留学することができます。（学則第124条1項）
また，この場合は1年間に限り留学期間を在学年数に算入することができます。（学則第124条2項）
なお，留学中に外国の大学院で履修した授業科目の単位のうち10単位を越えない範囲で，修得単位が課程修了に必要な単位として認定されることがあります。（学則第124条3項）
留学期間の在学年数への算入と単位の認定（いずれかひとつの場合も含む）を希望する場合は，帰国後，就学届を提出する際，その旨を所定用紙にて申し出て研究科委員会の承認を得なければなりません。なお，その際単位認定希望者は，単位修得を証明する書類を添付してください。
- ⑦ 研究科委員会で上記の留学として認定されなかった場合には，休学による留学になります。この場合には留学期間は在学年数に算入されず，外国の大学院で修得した単位も上記の単位認定はされません。
- ⑧ 留学期間を延長する場合，延長理由を詳細に明記したうえで，上記と同様の手続きをとってください。
- ⑨ 帰国した場合は，速やかに就学届等の必要書類を学事センターに提出してください。
- ⑩ 留学期間中の在学料等については学事センター窓口にお問い合わせください。

2 休学について（学則第125条）

休学を希望する場合は，指導教授と面接の上，休学する年度の11月末日（2008年度は11月28日（金））までに休学届を学事センターに提出してください。

海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて（文学研究科）

・在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。 なお、留学は①「交換留学」②「奨学金による留学」③「私費留学」の3つに区別しています。	・語学研修（その他左記の留学として認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書を添付してください） ・一身上の都合による休学
期 間	申 請 期 間	「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2008.9.22~2009.9.21	休学は1年単位の申請となります（4月1日~翌年3月31日）。 *休学の開始日がいつであっても、その年度は在学期間に算入されません。 *複数年度にわたって休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 *休学願の提出締切はその年度の11月末日です（ただし、履修申告をせずに休学する場合は、履修申告期間最終日までに休学願を提出してください）。
	延 長	2回まで可能（最長で留学開始日から3年間まで） それ以降は「休学」となります。 *「留学」を延長する場合は「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、直近の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。
学 費 ・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	【交換留学・奨学金による留学】 留学1年目は減免措置はありません。「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6カ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します。また、留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6カ月以上3年以内の場合は、留学開始日から2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。 【私費留学】（留学開始日が平成18年4月1日以降の者のみ適用） 「私費留学」により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の在学料および実験実習費について、年額の4分の1を学期毎に免除します。免除される期間は最長6学期までです。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとします。詳細は、学事センター窓口にて確認してください。	*語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。 *ただし、上記以外で特別事情のある者および1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。詳細は、学生総合センターに確認してください。
	渡 航	「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単 位 取 得 ・ 認 定	は 留 学 期 間 履 修 を	年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした「通年」科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（ただし、同一科目名・同一担当者に限る※）。必ず「留学」前に各科目担当者へ「留学」終了後に継続して履修する意志があることを伝えてください。 ※教職課程センター設置科目については、継続が認められる場合があります。教職課程センター窓口にて確認してください。	休学中の年度は履修できません。 【年度始めに休学申請をした場合】 履修申告は不要です。休学届を履修申告期間最終日までに提出してください。 【年度途中に休学申請をした場合】 4月に履修申告した科目は全て削除されます。
	単 位 認 定	10単位を超えない範囲で、学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。	単位認定はありません。
就 学 後		「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される学事関連スケジュール表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師による病気が回復した旨の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される学事関連スケジュールを参照してください。
へ 在 学 算 年 入 数		「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は「留学」終了後、必要な書類等をそろえて学事センター窓口申し出てください。ただし、遡及修了は認められません。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。

3 退学について（学則第 126 条）

病気その他の事由により退学したい者は、指導教授と相談のうえ、速やかに「退学届」に学生証を添えて学事センターに提出してください。

4 再入学について（学則第 127 条）

退学した者が再入学しようとする場合には、事情を考慮した上で認めることがあります。再入学にあたっては、入学考査料および入学金が必要となります。「再入学を伴う退学」が承認されても、無条件で再入学が認められることにはなりません。

文学研究科において、退学後再入学を希望する場合には、退学の時点で文学研究科委員会における承認が必要となります。具体的な手続きに関しては、指導教授および学事センターに問い合わせてください。

5 退学処分について（学則第 128 条・第 161 条）

- (1) 修士課程において4年、後期博士課程において6年の在学最長年限を超える者は学則第128条により退学処分となります。ただし、休学期間は在学年数に算入しません。
- (2) 大学の学則もしくは諸規則に違反したと認められた場合、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない場合などには学則第161条により退学処分となります。

第4 単位取得退学および在学期間延長について（後期博士課程のみ）

1 単位取得退学

大学院後期博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として教育課程を終了することができます。

在学期間延長中に年度の途中または年度末で単位取得退学を希望する場合は、指導教授の承認を得たうえで、2月末日までに「単位取得退学届」を提出してください。（所定用紙は、学事センター文学研究科窓口で受け取るか、ホームページからダウンロードしてください。）

なお、3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

2 在学期間延長許可願について

3年間の在学中に後期博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、在学最長年限を超えない範囲で、1年を単位として在学期間の延長を許可することができます（通常3回まで）。2月末日までに指導教授の承認を得たうえで、「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。（所定用紙は、学事センター文学研究科窓口で受け取るか、ホームページからダウンロードしてください。）

なお、在学期間延長中の休学・留学は、在学期間延長の回数にカウントされますので注意してください。

講義要綱・シラバス

文学研究科設置科目の単位数は、全て2単位です。

修士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊講義Ⅰ（春学期）

科学の中の確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

科学の理論と観察の両方で確率や統計が用いられる場合が多い。この授業では確率のもつ様々な側面を取り上げ、考えてみたい。確率の基本を解説した上で、関連する論文を読みながら、議論したい。

哲学特殊講義Ⅱ（秋学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の継続で、確率に関する主要論文をさらに検討し、確率の非古典的な使われ方をさぐってみる。

哲学特殊講義Ⅲ（春学期）

現代論理とその応用

教授 岡田 光弘

講師 竹村 亮

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通線形論理、証明論、ダイナミック論理、状況意味論等を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学、認知科学、AI等への応用を行う。又、フッサール論理哲学、現象学的論理学、アリストテレスの論理学等についても現代論理的観点から検討する。

哲学特殊講義Ⅳ（秋学期）

現代論理とその応用

教授 岡田 光弘

講師 竹村 亮

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通線形論理、証明論、ダイナミック論理、状況意味論等を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学、認知科学、AI等への応用を行う。又、フッサール論理哲学、現象学的論理学、アリストテレスの論理学等についても現代論理的観点から検討する。

秋学期にはゲーム論的意味論（対話的論理ともしばしば呼ばれる）についての解説及び検討も加える。

哲学特殊講義Ⅴ（春学期）

あるコギトの系譜

講師 北村 晋

授業科目の内容：

2500年以上にもわたって連綿とその歴史を紡ぎ出してきた西洋の哲学思想は、現在、未曾有の局面を迎えつつあるようにも見える。事実、19世紀末のニーチェによる「神の死」と「ニヒリズムの到来」の宣告に次いで、今世紀に入ると「人間の死」（フーコー）や「哲学の終焉」（ハイデガー）までもが宣せられているのである。ところがその一方で、昨今の思想界では、「ポスト構造主義」「ポストモダン」「ポスト形而上学」といったさまざまなトレンドがファッションのごとくに喧伝されている。このような状況を引き起こした哲学思想における近代とは、いったい何なのか。その近代の極北にあって、われわれは何を考え何を問題にすべきなのだろうか。そもそもロゴス（ことば・論理）の営為たる哲学は、現代において何を問題としうるのだろうか。

この授業では、一般にデカルトの「コギト・エルゴ・スム（私は考える、ゆえに私は在る）」という原理とともに始まったとされる西洋近代・現代の哲学思想を、主として「弁証法的媒介の論理」と「現象学的方法」という相反する二つの視座から再考してみたい。その際取り上げるのは、デカルトをはじめとしてカント、ヘーゲル、フッサール、ハイデガー、サルトル、レヴィナス、アンリ、デリダ、マリオンなどの思想家たちである。ただし、これらの思想家の全体像を扱う余裕はないので、実際にはいくつかの個別的テーマに即して検討することになる。

哲学特殊講義Ⅵ（秋学期）

講師 北村 晋

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅴ」と同じ。

哲学特殊講義Ⅶ（春学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

フッサール現象学にかかわるドイツ語文献の精読を中心に、参加者による研究発表を随時おり込みながら授業を行ないます。今年度の使用テキストは以下の通りです。

哲学特殊講義Ⅷ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅶ」と同じ。

哲学特殊講義Ⅹ（春学期）

もう一つの現代論理学入門

講師 串田裕彦

授業科目の内容：

述語論理及びペアノ算術のモデル理論について解説、演習を行う。また、(公理的)集合論の復習をも並行して行う。理論の安易な応用や定理の意味の理解ばかりを強調することは、ただ要領よくすべてをこなしていく虚無的な態度と紙一重に思われる。この授業では、むしろ具体的な数学的証明に習熟し、それを通じ数学的命題とはいかなるものかについて実感を得ることを第一の眼目としたい。ペアノ算術（自然数論）のモデル論は、そのような数学的現実に触れるのに格好の題材である。従って、受講者には多量の課題をこなしてもらおう予定である。

授業では基本的な事項から始めるので、論理学や数学基礎論に興味と意欲をもった学生であれば誰でも履修することができる。

哲学特殊講義Ⅺ（秋学期）

講師 串田裕彦

授業科目の内容：

春学期の講義の続きです。

哲学特殊講義Ⅻ（春学期）

超越論的自我論の系譜

講師 湯浅正彦

授業科目の内容：

カントによって創始された超越論的哲学の基礎である超越論的自我論を、その淵源であるデカルト哲学、カント哲学の「精神」を体現したフィヒテ哲学との連関のうちで考察します。併せて、超越論的自我論の現代哲学における継承・展開の様相を、「心の哲学」の或る傾向や、D. ヘンリッヒを領袖とするハイデルベルク学派の自己意識論のうちに探ります。

哲学特殊講義Ⅼ（秋学期）

超越論的自我論の系譜

講師 湯浅正彦

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅺ（春学期）」を参照

哲学特殊講義ⅭⅢ（春学期）

旧約聖書へブル語原典研究

講師 津村俊夫

授業科目の内容：

春学期は、Lambdin の文法書に基づいてへブル語文法の基礎を復習し、秋学期には、創世記、サムエル記などの散文テキスト（抜粋）を講読し、次年度の詩文テキスト

の講読につなげて行く。

哲学特殊講義ⅭⅣ（秋学期）

講師 津村俊夫

授業科目の内容：

「哲学特殊講義ⅭⅢ」参照。

哲学特殊講義ⅭⅤ（春学期）

『イデーⅠ』を読む

教授 齋藤慶典

授業科目の内容：

フッサール『純粹現象学と現象学的哲学のための諸考案・第1巻』（通称『イデーⅠ』、1913年刊）より、今年度はその第3編「純粹現象学の方法態度と問題探究のために」、第4章「ノエシス・ノエマ的構造の問題探求のために」を取り上げ、「現象学」という発想がそもそもいかなるものなのか、その可能性と問題点を徹底して洗い出したいと思います。授業は、あらかじめ分担を定められた担当者によるテキスト当該部分のレジュメと問題提起をもとに、参加者全員によるディスカッションを中心に行ないます。テキストは以下の邦訳版を使用し、必要に応じて原著を参照します（ただし、受講者のドイツ語能力を前提にはしません）。

哲学特殊講義ⅭⅥ（秋学期）

教授 齋藤慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義ⅭⅤ」を参照してください。

哲学特殊講義演習Ⅰ（春学期）教授 齋藤慶典
理工学部 専任講師 荒金直人**授業科目の内容：**

博士課程「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

哲学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）教授 齋藤慶典
理工学部 専任講師 荒金直人**授業科目の内容：**

博士課程「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

哲学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

Model Theoretic Semantics

言語文化研究所 准教授 タンクレディ クリストファー D.

授業科目の内容：

This class will focus on formal semantics. In particular it will address questions relating to the proper construction of a model theoretical approach to semantics for dealing

with epistemic and deontic modalities and with propositional attitude attributions.

哲学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

Model Theoretic Semantics

言語文化研究所 准教授 タンクレディ クリストファー D.

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

哲学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

9世紀バグダードにおいてギリシア哲学の移入を先導した、アラブ最初の哲学者アル＝キンディーの主著『第一哲学』をアラビア語原典で講読します。アラビア語をまったく知らない学生にアラビア文字のイロハと、テキストを読む上で必要最低限の文法の手ほどきをしたあとは、教室で一緒に辞書を繙いて、手取り足取りそれぞれご家庭教師のごとく教え導くことになるでしょう。

授業科目：哲学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅴ」と同じ。

哲学原典研究Ⅰ（春学期）

Things in Themselves, Phenomena, and the Primary/
Secondary Distinction

教授 飯田 隆

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

In this seminar, we are going to examine the Kantian doctrine of things in themselves through reading Rae Langton's book KANTIAN HUMILITY (1998, Oxford: Clarendon Press) and discussing it.

Kant's distinction between things in themselves and phenomena has baffled many interpreters and often provoked harsh dismissals from distinguished philosophers. In her book, Rae Langton has presented not only a new and exciting interpretation of this notorious doctrine, but also a philosophically sophisticated defence of it. Her arguments are based on the metaphysical distinction between intrinsic and relational properties of substances, which raises many philosophically interesting questions apart from the matters relating to an interpretation of Kant.

One of the exciting prospects Langdon claims for her interpretation is that Kant offers us a conception of the distinction between primary and secondary qualities which is superior even to modern-day counterparts. We are going to see what this claim involves and examine whether it is true.

There is almost no prerequisite for a student to read the book and participate in the discussion except some ability and willingness to observe conceptual distinctions and follow philosophical arguments. In particular, it is not necessary to have any knowledge about Kantian philosophy, although it helps to have some elementary knowledge about a general outline of it.

哲学原典研究Ⅱ（秋学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学原典研究Ⅲ（春学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究Ⅳ（秋学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究Ⅴ（春学期）

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡

教授 納 富 信 留

講師 栗 原 裕 次

授業科目の内容：

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全10巻の大著である。昨年度に引き続き、第5巻の後半（正確な箇所は要問合せ）からこの作品を読み進め、いよいよ頂点をなす「善のイデア」論（6～7巻）に挑む。その際、J. Burnet や J. Adam 以来一世紀を経て新たに出版された最新の校訂（S. R. Slings の OCT 版）を用いる（旧版と

の異同に特に注意する)。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回相当量(2章ずつ)を読みながら、議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。Procli diadoci, *In Platonis Rem publicam commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1889). その翻訳・訳註として, Proclus. *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A. J. Festugière, tome I: dissertations I-IV (p.1-111), Paris, 1970. Proclo. *Commento alla Repubblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo greco a fronte, Milano, 2004 を参照する。

哲学原典研究Ⅵ (秋学期)

プラトン『国家』講読

教授 堀 江 聡
教授 納 富 信 留
講師 栗 原 裕 次

授業科目の内容 :

春学期に引き続いてプラトン『国家』を読みすすめる。第6巻途中から始まるはずであるが、箇所の詳細は担当者に問い合わせること。

倫理学特殊講義ⅠA (春学期)

教授 谷 寿 美

授業科目の内容 :

“La Russie et l’Eglise Universelle” 1889 Paris: Savine
露訳 Россия и Вселенская Церковь 1911. Москва
を中心とするロシア宗教思想関連の文献を講読していきます。

倫理学特殊講義ⅠB (春学期)

J. S. ミルとイギリス哲学

講師 大久保 正 健

授業科目の内容 :

この講義の目的は、19世紀英国の思想家 J. S. ミルの哲学思想を手がかりにして西洋の哲学や倫理学の伝統を考えることです。この作業を通じて、西洋哲学の骨格や論争点を理解します。近景はイギリス哲学、遠景は古代ギリシア以来の西洋哲学です。その際、ローマ帝国以来の宗教であるキリスト教と哲学の関係もお話します。前期は、思想史的な話、後期はテキストの読みとりを重視した講読になります。

倫理学特殊講義ⅠC (春学期)

「神秘主義」の諸相

講師 鶴 岡 賀 雄

授業科目の内容 :

「神秘主義 mysticism」という言葉は古い歴史をもつが、近代の用法では、宗教の本質をなすものとみなされることが多かった。しかし「神秘主義」はいわゆる宗教以外のさまざまな文化領域にも見出されるだろう。この講義では、「神秘主義」を構成する諸側面の紹介(春学期)、および「神秘主義」をめぐる諸理論の紹介と検討(秋学期)を通じて、「神秘主義」とはそもそも何なのかについて考えてみたい。講義は秋学期に引き継がれるが、春学期のみの受講も可能。

倫理学特殊講義ⅡA (秋学期)

教授 谷 寿 美

授業科目の内容 :

「倫理学特殊講義ⅠA」と同じ。

倫理学特殊講義ⅡB (秋学期)

J. S. ミルとイギリス哲学

講師 大久保 正 健

授業科目の内容 :

「倫理学特殊講義ⅠB」と同じ。

倫理学特殊講義ⅡC (秋学期)

「神秘主義」をめぐる諸理論

講師 鶴 岡 賀 雄

授業科目の内容 :

春学期の「「神秘主義」の諸相」を引き継ぎ、「神秘主義」なるものをめぐるさまざまな理解、理論の紹介と検討をしてみたい。それによって、現代の状況下で「神秘主義」をどのように捉え、評価しうるかを考えてみたい。秋学期からの受講も可能にしたい。

倫理学特殊講義ⅢA (春学期)

中世の存在論と倫理学

教授 山 内 志 朗

授業科目の内容 :

Etienne Gilson, *L’etre et l’essence*, seconde ed., J. Vrin, 1987. を購読していく。

倫理学特殊講義ⅢB (春学期)

Immanuel Kant: *Critique of Practical Reason* I

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容 :

This class is meant to be a successor to last year’s seminar on the Groundwork, but it is of course open to those who did not

participate. In the spring term we concentrate on the question whether Kant changed his strategy to vindicate the moral law or whether he is using the same type of argument and just shifts the emphasis. In any case, the connection between freedom, autonomy and the moral law is still crucial for Kant's moral theory. Kant thinks that we are bound by the moral law, because we are free. We need to find out, what reason Kant has for making this paradoxical sounding claim. This can be achieved by getting clear about important metaphysical assumptions concerning ontology and natural theology Kant is subscribing to. We will therefore have to consult passages from Kant's lectures on metaphysics which he gave around the time of the publication of his second critique and in which he makes these assumptions explicit.

倫理学特殊講義ⅢC (春学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容:

この授業では、現代の英語圏での議論を参照しながら、「幸福」をめぐる問題を検討します。現代の英語圏では、「幸福と何か」をめぐる問題として提出されている理論を、心的状態説、欲求実現説、客観説の3つに分類しています。まずは、この3つの説がどのようなものなのかを、Shelly Kagan や Derek Parfit の文献を読むことで概観し、議論の出発点となる枠組みを獲得します。その後、春学期では、T. M. Scanlon, Amartya Sen や L.W.Sumner などの文献を読みながら、客観説を検討します。

倫理学特殊講義ⅣA (秋学期)

中世の存在論と倫理学

教授 山内 志朗

授業科目の内容:

「倫理学特殊講義ⅢA」の続講。

倫理学特殊講義ⅣB (秋学期)

Immanuel Kant: Critique of Practical Reason II

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容:

In the autumn term we focus on the so-called dialectics of pure practical reason. According to Kant the good will is not good because it is directed to a certain object external to it, but nevertheless the good will has an object, namely the highest good. We will have to understand what this highest good is and what dimensions it has. An important question, for example, is whether Kant is thinking of a political or social dimension or whether it is construed in individualistic terms.

In the context of the dialectics Kant claims that we need to

believe in God and in the immortality of the soul to guarantee the rationality of moral conduct. This move has often been ridiculed by his critics, most prominently by Heine and Schopenhauer. Certainly a difficult problem arises from this strategy in that this thesis might undercut his ethical core idea that we should do the right thing simply because it is the right thing and for no other reason. We will have to see, whether Kant has the means to solve this problem. It is possible that he is simply modifying the scholastic doctrine of the theological virtues here within his sketches of a moral religion and a rational theology. We shall also discuss his theory of moral feeling, in particular in relation to moral sense theorists.

Again, Kant's lectures on metaphysics will provide important clues for addressing these exegetical puzzles.

倫理学特殊講義ⅣC (秋学期)

幸福をめぐる問題

商学部 教授 成田 和信

授業科目の内容:

春学期に引き続いて、現代の英語圏の議論を参照しながら、幸福をめぐる問題を検討します。秋学期には、L.W.Sumner や James Griffin や Stephen Darwall などの文献を読みながら欲求実現説を吟味します。さらに、「個人的関係」や「生きがい」や「主観的価値」といった周辺概念へも話を拡大し、考察を深めていければよいと思っています。

倫理学特殊講義演習ⅠA (春学期)

倫理学の諸問題

教授 谷 寿美

教授 山内 志朗

准教授 エアトル, ヴォルフガング

准教授 柘 植 尚 則

准教授 奈良 雅 俊

授業科目の内容:

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

倫理学特殊講義演習ⅠB (春学期)

休 講

倫理学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

倫理学の諸問題

教授 樽井正義
教授 谷寿美
教授 山内志朗
准教授 エアトル, ヴォルフガング
准教授 柘植尚則
准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

「倫理学特殊講義演習ⅠA」と同じ。

倫理学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

社会哲学・生命倫理学研究

教授 樽井正義

授業科目の内容：

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

倫理学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘植尚則

授業科目の内容：

この授業では17～19世紀の近代イギリス道徳哲学について考察する。近代イギリス思想が共通の課題としたのは「人間本性」であった。多くの思想家が人間本性について考察し、それに基づいて倫理・法・政治・経済・社会について考察を進めている。こうした考察は「道徳哲学」と呼ばれており、それが近代イギリス思想の一つの伝統であった。授業では、近代イギリス道徳哲学の古典を講読し、それについて議論しながら、人間本性論を中心に近代イギリス道徳哲学の諸潮流について検討する。本年度は、Adam Smith, *The Theory of Moral Sentiments* を取り上げる。

倫理学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

近代イギリス道徳哲学研究

准教授 柘植尚則

授業科目の内容：

「倫理学特殊講義演習Ⅲ」と同じ

倫理学原典研究Ⅰ（春学期）

リクールの倫理思想の研究

准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

リクールの『他としての自己—自身』を原書で講読します。昨年度に引き続き、第7研究「自己と倫理的目標」を講読します。

倫理学原典研究Ⅱ（秋学期）

リクールの倫理思想の研究

准教授 奈良雅俊

授業科目の内容：

倫理学原典研究Ⅰに引き続き、リクールの『他としての自己—自身』を原書で講読します。

倫理学原典研究Ⅲ（春学期）Things in Themselves, Phenomena, and the Primary/
Secondary Distinction教授 飯田隆
准教授 エアトル, ヴォルフガング**授業科目の内容：**

In this seminar, we are going to examine the Kantian doctrine of things in themselves through reading Rae Langton's book *KANTIAN HUMILITY* (1998, Oxford: Clarendon Press) and discussing it.

Kant's distinction between things in themselves and phenomena has baffled many interpreters and often provoked harsh dismissals from distinguished philosophers. In her book, Rae Langton has presented not only a new and exciting interpretation of this notorious doctrine, but also a philosophically sophisticated defence of it. Her arguments are based on the metaphysical distinction between intrinsic and relational properties of substances, which raises many philosophically interesting questions apart from the matters relating to an interpretation of Kant.

One of the exciting prospects Langdon claims for her interpretation is that Kant offers us a conception of the distinction between primary and secondary qualities which is superior even to modern-day counterparts. We are going to see what this claim involves and examine whether it is true.

There is almost no prerequisite for a student to read the book and participate in the discussion except some ability and willingness to observe conceptual distinctions and follow philosophical arguments. In particular, it is not necessary to have any knowledge about Kantian philosophy, although it helps to have some elementary knowledge about a general outline of it.

倫理学原典研究Ⅳ（秋学期）

Introduction to Moral Theory

准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容：

What makes an action right or wrong? What makes a person good or bad? These are just two of the typical questions moral theory tries to answer. It is surprising how many different strategies there are for doing this and the seminar tries to give an overview of the most important of them. We will look at the following suggestions: 1) The divine command theory says that right conduct is nothing but compliance with orders issued by God. 2) Moral relativism maintains that the standards in line of which we judge people and their conduct are, for example, essentially tied to the specific culture they are a part of. 3) For natural law theory, by contrast, it is nature which provides these therefore universally valid standards. 4) Kantianism goes beyond what is natural and focuses on the specific value rational beings or persons have, i.e. their dignity. 5) Utilitarianism in all its variants tries to ground morality on its consequential relationship to happiness. 6) Virtue ethics suggests that what is primary in ethics is the notion of excellence as far as the character of a person is concerned: in this vein, it is the virtuous person who sets the standard for good conduct. 7) Moral particularism maintains that there are no general standards in the first place and insists that each case is in an important sense different. This may look bewildering, but examining the strengths and weaknesses of all these suggestions will hopefully enable us to understand how a good moral theory must look like.

美学美術史学専攻

美学特殊講義Ⅰ（春学期）

デイドロの絵画論1

講師 佐々木 健一

授業科目の内容：

デイドロは近代美術評論の先駆者の1人に数えられる。それは主として歴大なサロン評に基づく評価だが、かれにはその批評経験に立脚し、その基礎づけを行なった『絵画論』がある。そこに展開されている思想は、デイドロの哲学全体と深く関連し、更に時代の思潮、その中での美学の位置の問題へとつながる射程をもっている。この授業では、テキストを丹念に読みつつ、そこに含まれる問題を掘りおこし、最後に『絵画論』の美学の総括を試みる。

美学特殊講義Ⅱ（秋学期）

デイドロの絵画論2

講師 佐々木 健一

授業科目の内容：

デイドロは近代美術評論の先駆者の1人に数えられる。それは主として歴大なサロン評に基づく評価だが、かれにはその批評経験に立脚し、その基礎づけを行なった『絵画論』がある。そこに展開されている思想は、デイドロの哲学全体と深く関連し、更に時代の思潮、その中での美学の位置の問題へとつながる射程をもっている。この授業では、テキストを丹念に読みつつ、そこに含まれる問題を掘りおこし、最後に『絵画論』の美学の総括を試みる。

美学特殊講義演習ⅠA（春学期）

古典詩論研究3

講師 藤田 一美

授業科目の内容：

古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊講義演習ⅠB（春学期）

教授 大石 昌史

授業科目の内容：

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。修士論文の作成については随時指導する。

本年度のテーマは、ガイダンスおよび第1回目の授業時に説明する。

美学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

古典詩論研究4

講師 藤田 一美

授業科目の内容：

春学期につづき、古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

教授 大石 昌史

授業科目の内容：

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の修士論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美術史特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

修士論文作成を目指す学生を対象に、美術史学の研究方法を講義します。

美術史特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

「美術史特殊講義Ⅰ」と同じ。

美術史特殊講義Ⅲ（春学期）

空間表現・遠近法について

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

今年度は、空間表現、特に線遠近法の成立、その実際と理論史について学ぶことを課題とする。テキストを講読すること、実際の作品を分析すること、さらに履修者による発表を軸に授業を進める。パノフスキーの『象徴形式としての遠近法』を予め読んでおくことを前提とする。

美術史特殊講義Ⅳ（秋学期）

空間表現・遠近法について

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

今年度は、空間表現、特に線遠近法の成立とその実際と理論について学ぶことを課題とする。テキストを講読すること、実際の作品を分析すること、さらに履修者による発表を軸に授業を進める。パノフスキーの『象徴形式としての遠近法』を予め読んでおくことを前提とする。

美術史特殊講義Ⅴ（春学期）

美術と色彩論

教授 前田 富士男

授業科目の内容：

昨年にひきつづき、近代の色彩論の特性について多面的に検討する。ゲーテの「色彩論」はじめ、多くの論考にふれ、美術史学と色彩研究との関連に照明をあてる。

美術史特殊講義Ⅵ（秋学期）

近代美術と精神病

教授 前田 富士男

授業科目の内容：

美術史特殊講義Ⅴの受講を前提とする。ドイツ表現主義を中心に“Kunst und Wahn”問題を検討する。

美術史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

准教授 内藤 正人

授業科目の内容：

既存の論文・文献史料の講読を通じて、美術史的な論文作成への多様なアプローチを学ぶ。また、折に触れて実作品や資料の検討などの実践学習を重ねながら、個々の専門性をさらに高める訓練をおこない、論文作成を指導する。

美術史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

准教授 内藤 正人

授業科目の内容：

「美術史特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

美術史特殊講義演習Ⅲ（春学期）

休講

美術史特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

休講

音楽学特殊講義Ⅰ（春学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義Ⅱ（秋学期）

音楽学の方法論

教授 三宅 幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊講義Ⅰ」と同じ。

音楽学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

作曲家研究の分野と方法

准教授 西川 尚生

授業科目の内容：

作曲家研究の諸分野（伝記研究、様式研究、作品成立史の研究、演奏実践の研究、受容研究等）とその方法論について学ぶ。毎回、古典的作曲家（バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン等）に関する基本文献を講読し、作曲家研究の現状と問題点について考察するが、それと並行して履修者には各人の研究テーマに即した課題を与え、口頭発表をしてもらう予定である。

音楽学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

音楽文献学の方法

准教授 西川 尚生

授業科目の内容：

音楽作品を扱う上で重要な、いわゆる史料批判（Quellenkritik）の方法についての講義と実習をおこなう。手稿譜と歴史的印刷譜の調査・研究の方法、および楽譜校訂の方法を身につけてもらうことが目的だが、具体的には以下のような項目を含むものとなるだろう。

講義

- ・自筆譜の文献学的調査：用紙（透かし）、インク、ラストラール
- ・筆跡と作曲年代の問題（筆跡年代学）
- ・自筆譜（スケッチ、草案譜、浄書譜）の読解
- ・筆写譜におけるオーセンティシティー
- ・楽譜出版社と版番号
- ・歴史的印刷譜におけるオーセンティシティー
- ・音楽作品の真偽判定
- ・「全集版」の校訂

実習

- ・三田メディアセンター所蔵の貴重資料（リストの歌曲自筆譜、ベートーヴェンの第9交響曲初版譜）と担当者所蔵の手稿譜を使つての調査実習
- ・楽譜校訂

芸術学研究ⅠA（春学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦隆

授業科目の内容：

バッハ《平均律クラヴィーア曲集第一巻》全曲を取り

あげ、その音楽的発想と書法を分析する。

芸術学研究ⅠB（春学期）

近現代における文化芸術消費の特質と構造

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

近現代における文化芸術消費の特質と構造について検討する。この問題あるいは関連領域にはボードリヤールやブルデューらによる論考がつねに参照されるが、今年度はツーリズムを切り口に、歴史的・具体的な事例をもとに考察することにする。博覧会、フェスティバル、美術館劇場のその他のケースを検証する中で、それらが芸術創造に照射した部分がどこにあったのかを考えることも、講義のねらいである。

芸術学研究ⅡA（秋学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦隆

授業科目の内容：

春学期に同じ。

芸術学研究ⅡB（秋学期）

芸術パトロネージの諸相

教授 美山 良夫

授業科目の内容：

近現代における芸術パトロネージの諸相とその背景について、まず概念の整理からはじめて、具体的な事例を検証してその広がりや射程を確認する。西洋の事例や観念から説かれることが多いが、ここでは日本における文化学術パトロネージの事例に焦点をあて、そこに通底するものがなにかを検証することを今年度の主たるテーマにする。「公共性」の理解、芸術教育の展開をふまえ、今日の芸術創造をうながす部分がどこにあるのかを考えることも、講義のねらいである。

芸術学研究Ⅲ（春学期）

イタリア語論文の購読

名誉教授 末吉 雄二

授業科目の内容：

イタリア語による論文の読解力を高め、中世よりバロックにいたるイタリア美術の様々な問題に対する関心を涵養する事を目的とする。短い論文を多読することで観念の多様性を確保したい。

芸術学研究Ⅳ（秋学期）

イタリア語論文の購読

名誉教授 末吉雄二

授業科目の内容：

「芸術学研究Ⅲ」と同じ。

芸術学研究Ⅴ（春学期）

美術と先端技術

講師 布山毅

授業科目の内容：

美術分野の研究やプロジェクトにおける、デジタルメディアの利用方法の解説と、基礎技術の習得。特にデジタル画像や映像の扱い方についてワークショップ形式の演習を通じて学ぶ。また、時間軸を持つ視覚芸術分野が、デジタル技術の進化に呼応してどのように変容しているかをテーマに、さまざまな作品の事例紹介を行う。

芸術学研究Ⅵ（秋学期）

新しいメディアと美術の実践

講師 内田まほろ

授業科目の内容：

本講義では新しいメディア、マテリアルがもたらす美術（空間、写真、デザインを含む）の枠組み、作品、アーカイヴ、キュレーションのあり方を実践的なレベルでとらえる知識、技術、能力を身につけることを目的とする。

講義では、デジタルメディアの基本概念を理解するとともに、それを利用した作品とそのキュレーション、批評方法を、具体的な例や実践的なワークショップを通して身につける。後半は履修者の専門研究対象をもとにアーカイヴの作成、キュレーション、プレゼンテーションを行なう。

アート・マネジメント特殊講義Ⅰ（春学期）

休講

アート・マネジメント特殊講義Ⅱ（春学期）

休講

アート・マネジメント特殊講義Ⅲ（春学期）

教授 美山良夫

授業科目の内容：

アートを社会にひらき、その力を活かすとともに、アートの創造につなげるためには、さまざまなフェーズで、リソース（資源）のより高度なマネジメントが必要です。ここではそのリソースを、人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱のひとつにかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について

検討します。

文化装置としての美術館・劇場の運営／経営、プログラム評価の理念と実践、各セクターによるアート支援の根拠とプログラムの更新、文化施設・団体の会計管理、パブリック・リレーションとコミュニケーション戦略などが切り口になります。

基本的な文献と事例の理解と検討のほか、ゲストを招聘して討論を予定しています。具体的な内容は、学生のバックグラウンドを勘案して決定します。

アート・マネジメント特殊講義Ⅳ（春学期）

美術館、博物館の生き残る道

講師 鈴木隆敏

授業科目の内容：

美術界及び国立、公立、私立美術館、博物館の現状とさまざまな問題点を検討し、指定管理者制度、独立行政法人、公益法人などの改革の中で、生き残る道をさぐる。

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休講

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅱ（春学期）

休講

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 美山良夫

授業科目の内容：

アート・マネジメントにおけるリソースを人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱にかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について、検討します。

問題・課題の抽出、分析、まとめサイクルの繰り返しになりますが、受講者はあらかじめ、指示されるケース、データを読み込んだり、ゲストを迎えてのディスカッションの前には関連領域について一定の理解をもつことが求められます。

アート・マネジメント特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

都市と共存する美術館のあり方をめぐって

総合政策学部教授 上山信一

DMC機構 特別研究教授 岩淵潤子

授業科目の内容：

昨今、美術館のあり方がしばしば議論になる。収支や入館者数、さらにもちろん内容についてである。しかしこれらは単に「美術館の問題」として片づけられない。実は行政の組織や制度、あるいは日本人の社会意識や経済構造と深くかかわっている場合が多い。この授業ではこ

うした広い文脈の中で美術館と都市の共存のあり方、都市の資源としての美術館のあり方を多角的に探る。

アート・マーケティング特殊講義Ⅰ（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義Ⅱ（春学期）

講 師 川 又 啓 子

授業科目の内容：

本講義の目的は、①マーケティングの戦略体系の基礎を理解し、②美術、音楽、演劇などのアート分野におけるマーケティング実践を事例（ケース）を通して学ぶことである。①と②によってアート・マネジャーとしてのノウハウ、能力を高めることが最終的な到達点となる。講義、ケース分析、グループ・フィールド・ワークを中心に授業を進める予定である。

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅰ（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅱ（春学期）

講 師 川 又 啓 子

授業科目の内容：

「アート・マーケティング特殊講義Ⅱ」と同じ。

知的資産特殊講義（春学期）

アートのリスクマネジメントと保険

講 師 箱 守 栄 一

授業科目の内容：

美術展、舞台芸術、オペラ等のアートに係るリスクマネジメントと保険につき解説します。特にリスクマネジメント手法の確立されている美術展を中心に解説します。契約書の中のLiability条項につき理解し、保険条件との関係を解説します。

知的資産特殊講義演習（春学期）

著作権及び周辺領域に関する発展的検討

講 師 伊 藤 真

授業科目の内容：

著作権やその周辺領域（主にミュージアム・グッズで問題となりやすい肖像権やパブリシティ権）について、いわば発展的・応用問題的な検討を行う。

講義の進め方については、事前に架空の具体的な事例を設定した課題を事前に出題し、それについて順番に数名の受講者に報告（レポート）していただき、受講者の間で討議・検討を行う形を考えている。

また、後半では、事例演習として、屋外モニュメントの製作依頼契約を想定して、発注者と作者との間の契約

書の作成を試みる。受講者に発注者と制作者との間に立つディレクターの立場に立っていただき、私が仮想の発注者やアーティストを演じて、どのような事柄に注意を払って交渉を進め、契約書にまとめていくかを模擬体験していただく形で講義を進行させてみたい。

いずれも、答えの存在する問題を学習するのではなく、受講者間の討議・検討を通じて、著作権法等の理解を進めるとともに問題解決のための思考能力を身につけていくことを目標とする。

芸術著作権演習Ⅰ（春学期）

著作権に関する基礎

講 師 北 村 行 夫

講 師 大 井 法 子

授業科目の内容：

著作権及び著作隣接権について基本的な理解を身につけることを本講義の目標とします。

芸術著作権演習Ⅱ（春学期）

芸術著作権に関する契約

講 師 大 井 法 子

授業科目の内容：

一般的な契約の基礎をふまえて、アートマネジメントにおいて必要な契約を理解することを本講義の目標とします。

芸術資源デザイン演習Ⅰ（春学期）

休 講

芸術資源デザイン演習Ⅱ（秋学期）

芸術関連文献資料検索および目録記述をめぐって

教 授 美 山 良 夫

授業科目の内容：

美術及び舞台芸術とそれらの運営研究に必要な情報（統計データ、内外の研究論文その他）、データベース、資料アーカイブおよび研究機関アクセスなどについての実習。また芸術作品の目録（カタログ）の種類とその理解についての演習をおこなう。資料所蔵機関への見学（履修者の状況を勘案）を別途おこなうことがある。また論文の執筆に必要な要素と準備についての演習を含む。

芸術資源デザイン演習Ⅲ（秋学期）

近代芸術資料研究とアーカイブ運用

教 授 前 田 富 士 男

教 授 林 温

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

芸術家自身の手になる制作品（たとえば絵画、楽譜、

原稿、手稿、書簡、日記、ノート、メモなどは、ひろく一次資料と呼ばれる。制作論の関心に立つと、こうした一次資料とともに、制作活動を支えた資料（たとえば収集品、蔵書、定期刊行物記事、写真など）、すなわち制作関連資料も見落とせない。本授業は、一次資料と制作関連資料を統括するアーカイブ・デザインの構築をめぐる講義、討論、見学を行う。

芸術資源デザイン演習Ⅳ（春学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅰ（秋学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅱ（秋学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅲ（秋学期）

教授 美山良夫
DMC機構 特別研究教授 金子哲理
講師 桜井武

授業科目の内容：

この演習は、アート・マネジメント、アート・マーケティング、芸術資源デザイン、知的資産の科目群を学びながら、その知識の確認と実践的な展開をトレーニングする場として位置づけられます。各自が具体的なプロジェクトを構想し提案、その提案についてさまざまな角度から検討します。

この演習は、修士論文のテーマ策定にもつながります。

アート・プロジェクト総合演習Ⅳ（秋学期）

教授 美山良夫
DMC機構 特別研究教授 金子哲理
講師 桜井武

授業科目の内容：

アート・プロジェクト総合演習Ⅰと同等の内容です。修士論文のテーマの検討や指導を含むことがあります。

史学専攻

史学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 神崎忠昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中近世のラテン語文献などを講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 神崎忠昭

授業科目の内容：

「史学特殊講義Ⅰ」と同じ。

史学特殊講義Ⅲ（春学期）

18世紀フランス社会における諸変化

教授 藤田苑子

授業科目の内容：

「18世紀フランス社会における諸変化」を中心テーマとして、論文、文献の講読をする。

史学特殊講義Ⅳ（秋学期）

18世紀フランス社会における諸変化

教授 藤田苑子

授業科目の内容：

「18世紀フランス社会における諸変化」を中心テーマとして、論文、文献の講読をする。

古文書学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 井奥成彦
講師 原淳一郎

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解説、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大阪藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世書状の解読能力を高める指導を行う。

古文書学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解説、特に初見での「速読能力」を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大阪藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世書状の解読能力を高める指導を行う。

日本史特殊講義ⅠA（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

『令集解』の講読を中心に律令制の成立過程や諸制度の運用の実態について考える。

日本史特殊講義ⅡA（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅠA」と同じ。

日本史特殊講義ⅠB（春学期）

休 講

日本史特殊講義ⅡB（秋学期）

休 講

日本史特殊講義ⅢA（春学期）

キリシタン史

准教授 浅見 雅一

授業科目の内容：

キリシタン関係史料の講読を行なう。修士論文の指導も併せて行う。

日本史特殊講義ⅣA（秋学期）

キリシタン史

准教授 浅見 雅一

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅢA」と同じ。

日本史特殊講義ⅢB（春学期）

教授 井奥 成彦

授業科目の内容：

近代日本の社会経済史関係文献及び史料の講読。

日本史特殊講義ⅣB（秋学期）

教授 井奥 成彦

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅢB」と同じ。

日本史特殊講義ⅢC（春学期）

日本近世の社会構造

講師 磯田 道史

授業科目の内容：

日本近世の社会構造について講義する。日本近世の社会について、家族社会学、歴史人口学の成果などもふまえて、論じる。

日本史特殊講義ⅣC（秋学期）

日本近世の社会構造

講師 磯田 道史

授業科目の内容：

「日本史特殊講義ⅢC」と同じ。

日本史特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 三宅 和朗

授業科目の内容：

昨年度に引き続き『肥前国風土記』（松浦郡値嘉郷条から）を講読する。『肥前国風土記』講読が終了し次第、『豊後国風土記』の講読。両風土記を手がかりに、古代の地域社会の具体像を点検していきたい。

日本史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 三宅 和朗

授業科目の内容：

「日本史特殊講義演習ⅠA」と同じ。

日本史特殊講義演習ⅠB（春学期）

講師 末柄 豊

授業科目の内容：

既刊・未刊を取り合わせ中世後期の史料を講読し、史料に関する理解を深めつつ、中世社会の特質について考えていきます。

日本史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

講師 末柄 豊

授業科目の内容：

同ⅠBと同じ

日本史特殊講義演習ⅢA（春学期）

教授 井奥 成彦

講師 原 淳一郎

授業科目の内容：

- ・受講者による研究進行状況の報告と修士論文作成に向けての指導を行う。
- ・19世紀江戸研究の基本的史料である下記のテキストを使用し、近世庶民文化の理解を深める。毎回受講者による史料解読と内容に関連する報告をおこない、それをもとに討論をする。

日本史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 田代 和生

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告と修士論文作成に向けての指導を行う。

日本史特殊講義演習ⅢB（春学期）

近代民衆のアイデンティティ形成

教授 柳田 利夫

授業科目の内容：

近代における民衆意識の生成について共同研究を行なう

日本史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

近代民衆のアイデンティティ形成

教授 柳 田 利 夫

授業科目の内容：

近代における民衆意識の生成について共同研究を行なう

東洋史特殊講義ⅠA（春学期）

『国語』の講読

教授 桐 本 東 太

授業科目の内容：

『国語』の講読を通して中国古代人の理念・思考を考察する。

東洋史特殊講義ⅠB（春学期）

移民史研究の新しい方法論について

教授 吉 原 和 男

授業科目の内容：

華僑・華人を含むアジア系移民を対象とする歴史学、人類学、社会学の近年における研究動向を把握して、新しい方法論について検討する。キーワードは「トランスナショナリズム」、「ディアスポラ」、「グローバリゼーション」である。

東洋史特殊講義ⅠC（春学期）

休 講

東洋史特殊講義ⅡA（秋学期）

『国語』の講読

教授 桐 本 東 太

授業科目の内容：

『国語』の講読を通して中国古代人の理念・思考を考察する。

東洋史特殊講義ⅡB（秋学期）

移民史研究の新しい方法論について

教授 吉 原 和 男

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義ⅠB」と同じ。

東洋史特殊講義ⅡC（秋学期）

<経書>関連史料と中国環境史

講師 原 宗 子

授業科目の内容：

中国古典のうち、環境史関連の情報が得られる文献として、従来から利用されてきた「史」や「子」に属する書籍以外を扱ってみよう。特に「経書」の類及びそれに関わる新出土資料は、その政治思想としてのバイアスの払い方に、十分な配慮が必要だから、環境史史料一般の

扱い方を復習しつつ、行間の読み方を考えてゆく。

東洋史特殊講義ⅢA（春学期）

近代イランの法制改革

講師 近 藤 信 彰

授業科目の内容：

19世紀を通じてなされたイランの法制改革を理想と現実の両面から跡づけ、立憲革命にいたる流れを明らかにする。主にペルシア語史料の講読を行なう。

東洋史特殊講義ⅢB（春学期）

オスマン帝国における宗教と民族

講師 石 丸 由 美

授業科目の内容：

オスマン帝国を特徴づけるものとして、多民族、多宗教社会であることをあげることができる。こうしたオスマン社会の特性を、特に非ムスリム、非トルコの側からみることで、明らかにしていく。

具体的にはトルコ語文献講読を通して、オスマン社会の多民族性、多宗教性を考察する。

東洋史特殊講義ⅢC（春学期）

イスラーム史におけるユダヤ教徒とイスラーム教徒

言語文化研究所 准教授 野 元 晋

授業科目の内容：

イスラームの大征服以来、中東・北アフリカ世界においてユダヤ教徒とキリスト教徒は政治的被支配者としてムスリム（イスラーム教徒）と「共生」してきましたが、その関係は地域と時代において様々でした。聖典クルアーンも何回も言及していることから明らかなように、イスラームは当初からユダヤ教、キリスト教を初めとする他の宗教との対話と対立を通して、自己の教義を確立してきました。ここからユダヤ教徒、キリスト教徒は中東イスラーム文明を語り考察するに際しては不可欠な要素と言えます。

この授業（春）では春学期には中東におけるユダヤ教徒の共同体の歴史をとりあげますが、まずカイロのシナゴグで11世紀から13世紀を中心に蓄積され、19世紀後半以降脚光を浴びるに至った「ゲニーザ文書」に注目します。この文書群は前近代の中東世界のユダヤ教徒の法廷、経済生活、政治との関係から家庭生活まで様々な分野に関わり、同時にムスリムやキリスト教徒の社会生活についても貴重な資料を提供しています。ついで聖典クルアーン以来のムスリムのユダヤ教観、ユダヤ教徒観の変遷に注目していきます。

東洋史特殊講義ⅣA（秋学期）

近代イランの法制改革

講師 近藤 信彰

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義ⅢA」と同じ。

東洋史特殊講義ⅣB（秋学期）

講師 石丸 由美

授業科目の内容：

「東洋史特殊講義ⅢB」と同じ。

東洋史特殊講義ⅣC（秋学期）

続イスラーム史におけるユダヤ教徒とイスラーム教徒

言語文化研究所 准教授 野元 晋

授業科目の内容：

イスラーム史におけるユダヤ教徒とキリスト教徒をとりあげる講義の後編としてキリスト教徒の歴史をテーマとします。ムスリム・アラブによる7世紀の大征服以降、中東・北アフリカの多くの地域ではイランなど一部を除き、キリスト教徒は人口の面ではしばらくの間マジョリティーでした。この状態はことにエジプト・シリアなどで長く続きますが、その転機となったのは西欧の「十字軍」が中東世界で活動した時代、11世紀末から13世紀末であったと言われています。本講義では、以前の時代にも目配りしつつ、その転換の時代にムスリムは如何なるキリスト教観・教徒観を、キリスト教徒は如何なるイスラーム観、ムスリム観を持っていたかを探ります。またさらに両者が互いに抱いていた観点が如何に社会生活や国家との関わりに影響を与えたかも考察したいと想います。

東洋史特殊講義演習ⅠA（春学期）

中国近現代都市社会史

講師 小浜 正子

授業科目の内容：

20世紀前半の上海に関する史料を講読し、都市社会について論ずる。

東洋史特殊講義演習ⅠB（春学期）

中国近現代地域史の諸問題Ⅰ

講師 山本 真

授業科目の内容：

中国近現代史、特に地域史に関する重要な先行研究・文献を授講者とともに検討する。

東洋史特殊講義演習ⅠC（春学期）

移民の歴史人類学的研究

講師 三尾 裕子

授業科目の内容：

移民に関する理論的な研究及び事例研究を主に文化人類学、歴史人類学という角度から行う。

理論的な研究については、トランスナショナリズム、グローバリゼーション、ディアスポラなどについての文化人類学的な基礎的研究を概観し、基礎固めとする。また人やモノの移動がもたらす広域的な世界の成立を、今日のグローバリゼーションだけでなくより多文的に、かつ歴史的な連続の中に位置づけて考察する。事例研究では、主に中国系移民を取り上げる。

東洋史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

中国近現代都市社会史

講師 小浜 正子

授業科目の内容：

20世紀前半の上海に関する史料を講読し、都市社会史について論ずる。

東洋史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

中国近現代地域史の諸問題Ⅱ

講師 山本 真

授業科目の内容：

中国近現代史、特に地域史に関する重要な先行研究・文献を授講者とともに検討する。

東洋史特殊講義演習ⅡC（秋学期）

移民の歴史人類学的研究

講師 三尾 裕子

授業科目の内容：

移民に関する理論的な研究及び事例研究を主に文化人類学、歴史人類学という角度から行う。

理論的な研究については、トランスナショナリズム、グローバリゼーション、ディアスポラなどについての文化人類学的な基礎的研究を概観し、基礎固めとする。また人やモノの移動がもたらす広域的な世界の成立を、今日のグローバリゼーションだけでなくより多文的に、かつ歴史的な連続の中に位置づけて考察する。事例研究では、主に中国系移民を取り上げる。

東洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

中近世アラブ社会史史料講読（Ⅰ）

教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

中世・近世のエジプト社会に関するアラビア語年代記史料を講読する。

本年度は、マムルーク朝末期・オスマン朝初期の最重要年代記のひとつであるイブン・イヤース著『花々の驚異』のスルターン・カーンスーフ・アル＝ガウリー期（1501-16年）の部分を読解する。読解の容易な史料ではないが、詳しい記事から多様な社会史情報が得られる興味深い史料なので、内容的に掘り下げ、細かく検討を加えて行きたい。また、マムルーク朝文化・社会の爛熟期であるこの時代に関する研究文献についても理解を深める。

東洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

中東イスラーム世界史の諸問題

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

同じ中東イスラーム世界の歴史を研究するといっても大学院生ともなると、当然のことながら各自、専門を持っている。地域、時代、関心の有りようも多様である。しかし、この授業では自分の殻に閉じこもるのではなく、それを越えて中東イスラーム世界とは何かということと比較関係史の視点からみていくことを目標としている。本年度は近代におけるイスラーム知識人が書き残した回想録、自伝に焦点をあてながら個人の目を通して中東イスラーム世界の近代史の諸問題について考えていくことにしたい。

東洋史特殊講義演習ⅢC（春学期）

休講

東洋史特殊講義演習ⅢD（春学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

トルコ語で書かれた研究書、史料の講読。

東洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

中近世アラブ社会史史料講読（Ⅱ）

教授 長谷部 史彦

授業科目の内容：

春学期に引き続き、同様に『花々の驚異』を内容的に掘り下げて講読する。

東洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

中東イスラーム社会史自由研究

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

受講者がそれぞれの研究テーマに応じて実際に読み進めている史料を訳出し、それをレジュメに切って紹介するというかたちで授業を進めていくことにしたい。歴史研究を志す者にとって何よりも重要なのは自分の頭で原

典史料を解釈し、オリジナルな構想を打ちだしていくことである。この授業ではこれまでの研究史、その蓄積を無視するわけではないが、実証的な事実をまず大事にし、それを踏まえて自分の言葉で歴史を語り、理論について考えていくことをめざしたい。

東洋史特殊講義演習ⅣC（秋学期）

休講

東洋史特殊講義演習ⅣD（秋学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊講義演習ⅢD」を引き継いで近代史に関係するトルコ語史料を講読する。

＊「斯道文庫書誌学講座Ⅲ（春学期）漢籍目録著録法」に関しては53ページを参照してください。

西洋史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 吉武 憲司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 吉武 憲司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

休講

西洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

教授 清水 祐司

授業科目の内容：

17世紀イングランドの史料を読む訓練がこの授業の内容です。テキストがおもにチャールズ1世の起訴状なので、あわせてイギリス革命についての認識を（研究史も含めて）一層深めることを目標にします。

西洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 神田 順司

授業科目の内容：

ドイツ思想史または歴史理論に関する研究

西洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

16世紀イングランドの史料を読む訓練がこの授業の内容です。テキストが治安判事の「私的業務日誌」なので、あわせて「極めてイングランド的な」（メイトランド）、そして「名望家行政の典型」（ウェーバー）である治安判事制度についての認識を深めることを目標にします。

西洋史特殊講義Ⅰ（春学期）

スペイン近現代政治文化史

准教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

スペイン近現代史に関するスペイン語の研究書を一年間かけて講読します。テキストを読みながら、各自が関連事項を調べることを通して、スペイン史の基礎知識を身につけること、スペイン史を専門に研究するために必要な語学力をつけること、文献や史料の探し方を学ぶことを目標とします。スペイン史で修論を作成する場合には、論文作成のための個別指導も行います。

西洋史特殊講義Ⅱ（秋学期）

スペイン近現代政治文化史

准教授 山 道 佳 子

授業科目の内容：

春学期の「西洋史特殊講義Ⅰ」の内容を継続。

西洋史特殊講義Ⅲ（春学期）

初期北米アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大 森 雄 太 郎

授業科目の内容：

初期北米アメリカ史をフィールドとする大学院初級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊講義Ⅳ（秋学期）

初期北米アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大 森 雄 太 郎

授業科目の内容：

「西洋史特殊講義Ⅲ」と同じ。

民族学考古学特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした修士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設的な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

民族学考古学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

「民族学考古学特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

民族学考古学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

民族学考古学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

「民族学考古学特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

地理学特殊講義Ⅰ（春学期）

土地の履歴に関する地理学的解析（基礎）

経済学部 教授 松 原 彰 子

授業科目の内容：

先史時代から今日まで、人間活動の土台となってきた土地の自然環境変化（地形変化、気候変化、植生変化など）、および人間による土地の改変過程について、それぞれを復元するために用いられる地理学的解析方法の基礎を解説する。

また、受講者各自の研究成果に関して、それぞれの調査対象地域の地理学的特徴を口頭で発表してもらい、討論を行う。

地理学特殊講義Ⅱ（秋学期）

土地の履歴に関する地理学的解析（応用）

経済学部 教授 松原 彰子

授業科目の内容：

先史時代から今日まで、人間活動の土台となってきた土地の自然環境変化（地形変化、気候変化、植生変化など）、および人間による土地の改変過程について、それぞれを復元するために用いられる地理学的解析方法の具体例を紹介する。

また、受講者各自の研究成果に関して、夏休みの調査報告を口頭で発表してもらい、討論を行う。

国文学専攻

国文学研究Ⅰ（春学期）

万葉集歌研究

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

万葉集はおおよそ4500あまりの歌が集まる歌集で、日本の古い時代の息吹を広く深く宿す最大の存在である。NHKBSテレビハイビジョン番組「日めくり万葉集」（藤原監修）がはじまり、以後3年間NHK教育・総合へと放映予定が続くため、履修者においては、専門家でない読み手の判断と、注釈書や研究論文・研究書における歌の理解とのあいだに揺れを見出すことが多くなると考えられる。

この授業では、こうした事態を好い機会ととらえて、どのようにして万葉びとのことばやこころを正確に理解していけるか、学んでいくことがあってよい。授業の中で各人多くの歌を担当して、調査研究をすることとする。

国文学研究Ⅱ（秋学期）

万葉集歌研究

教授 藤原 茂樹

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅰ」と同じ。

国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

古典文学と近代文学とを問わず、わが国の文学作品を対象として、自然や環境について、受講者のレポートを中心に考察する。

国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅲ」と同じ。

国文学研究Ⅴ（春学期）

和歌読解法演習

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

新風歌人の定数歌をとりあげる。春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究Ⅵ（秋学期）

和歌読解法演習

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅴ」と同じ。

国文学研究Ⅶ（春学期）

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅷ（秋学期）

教授 石川 透

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅶ」と同じ。

国文学研究Ⅷ（春学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

受講者各自が40枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討します。

国文学研究Ⅸ（秋学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

「国文学研究Ⅸ」と同じ。

国文学研究Ⅹ（春学期）

源氏物語「夕顔」巻を読む

講師 高田 祐彦

授業科目の内容：

源氏物語を精読します。本文批判や注釈の比較検討を行うことはもちろん、可能な限り広く文献にあたるとと

もに、時には新しい研究にも目を配ることによって、高い読解力を身につけることを目的とします。

国文学研究XII（秋学期）

源氏物語「夕顔」巻を読む

講師 高田 祐彦

授業科目の内容：

源氏物語を精読します。本文批判や注釈の比較検討を行うことはもちろん、可能な限り広く文献にあたって調査考察を重ねるとともに、時には新しい研究にも目を配ることによって、高い読解力を身につけることを目的とします。

国文学研究XIII（春学期）

近世文学と画題 I

講師 佐藤 悟

授業科目の内容：

近世文学と画題の関係を考える。近世文学の作品はその享受を通じて画題に大きな影響を与えている。同時に画題が文学作品に影響を与えているものもある。それらの相互関係について概説する。

国文学研究XIV（秋学期）

近世文学と画題 II

講師 佐藤 悟

授業科目の内容：

国文学研究XIIIの対象を近世文学から『源氏物語』等の他時代の古典作品へと広げ、日本文学と画題の関係について考察する。

国文学研究XV（春学期）

1950年代の文学とメディアを読む

講師 吉田 司雄

授業科目の内容：

「1951～54年の文学とメディア状況」に関して、受講生各自が問題を発見し報告をお願いする。サンフランシスコ講和条約が結ばれ、高度成長期に向ってゆく狭間の時期を多方面から検討してゆきたい。

国文学研究XVI（秋学期）

1950年代の文学とメディアを読む

講師 吉田 司雄

授業科目の内容：

「1951～54年の文学とメディア状況」に関して、前期に引き続き受講生各自が発見した問題について報告をお願いする。

国文学研究XVII（春学期）

近代日本の一人称体小説を読む

講師 鈴木 啓子

授業科目の内容：

森鷗外の『舞姫』にはじまり、鏡花・独歩・漱石、写生文小説、自然主義、谷崎・芥川、いわゆる「私小説」を通過して、川端・太宰・三島・村上春樹に至るまで、一人称体の小説は、日本近現代の小説史において、多くの名作を生み出している。もっとも、ひとくちに一人称体といっても、その表現様式や文体は、作家・作品によって多種多様であり、描きだされる世界観もまた大きく異なっている。また、そもそも、小説文体や視点を考える上で、「一人称体／三人称体」という分別が有効かという問題も浮上しよう。本授業では、演習形式で、近代日本の「一人称体」を用いた小説を取り上げ、研究史をふまえた作品分析を通して、一人称体の成立と展開、一人称体の可能性と限界を、日記・能楽など古典文芸との関わりを視野に入れながら考察していきたい。一人称という枠組みの中で作家の文学的特質が浮上するはずである。

国文学研究XVIII（秋学期）

近代日本の一人称体小説を読む

講師 鈴木 啓子

授業科目の内容：

「国文学研究XVII」と同じ。

国文学研究XIX（春学期）

休講

国文学研究XX（秋学期）

休講

国文学研究XXI（春学期）

中世散文読解法演習

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

12～17世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時おこなう。春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究XXII（秋学期）

中世散文読解法演習

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

「国文学研究XXI」と同じ。

国語学研究Ⅰ（春学期）

日本語研究の諸問題

教授 屋名池 誠

授業科目の内容：

日本語（時代・地域・分野は問わない）について、出席者が各自の興味・関心によって設定したテーマについておこなう研究・発表について、出席者全員で検討・討議する。

国語学研究Ⅱ（秋学期）

日本語研究の諸問題

教授 屋名池 誠

授業科目の内容：

「国語学研究Ⅰ」と同じ。

芸能史Ⅰ（春学期）

日本古代芸能の基礎知識

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

文学研究のための芸能史研究を基準として立てながら、ここでは基礎的な調査報告を行う。

- 一 先行学説の収集と整理
- 二 古代芸能の芸能用語に関する認識の更新

芸能史Ⅱ（秋学期）

東アジア祭祀芸能研究

教授 野村伸一

授業科目の内容：

今年度の秋学期の授業は前半と後半の二部に分けておこないます。前半は東アジアの祭祀と芸能について歴史的に概観し、後半は現在の伝承を概観します。具体的には、沖縄、台湾、韓国、中国の特徴ある祭祀芸能の場を考察します。できるだけ直接現地で採集した映像を通してみるつもりです。これは現在の芸能伝承がどのような状況下でなされているのかということを考える手がかりになるでしょう。

演劇史Ⅰ（秋学期）

教授 石川透

授業科目の内容：

日本の古典演劇について、具体的な作品を取り上げて、さまざまな種類の演劇の姿を考察する。

演劇史Ⅱ（春学期）

西洋演劇史概説

理工学部 教授 小菅隼人

授業科目の内容：

西洋演劇史のテキストを輪読します。

斯道文庫書誌学講座Ⅰ（秋学期）

斯道文庫 教授 川上新一郎

授業科目の内容：

主として歌書・物語書の書誌のとり方を解説する。具体的には履修者と相談の上決める。

斯道文庫書誌学講座Ⅱ（秋学期）

和漢文学書の版本研究

斯道文庫 准教授 住吉朋彦

授業科目の内容：

書誌学は、書誌情報の立体化の方向に従い、蔵書研究、版本研究などの細目を含んでいる。版本とは、本文を木板に彫刻し、紙葉に印刷して順序を整えた書物をいう。和漢書の歴史を見ると、手工を用いた印刷複製術の導入が、書物の社会的役割を一変させたことがわかる。特に近世の東アジアにおける版本流通の過程は、読者の不特定多数化を進行させ、本文の社会性を高める結果をもたらした。そこで特定の本文に着目し、その伝流に添って印刷出版の意義を探ろうとするのが、版本研究の方法である。版本研究を積み重ね、より広い視角を得ようとする場合は、これを版本学と呼ぶ。本講座では、斯道文庫の収蔵する書物を取り上げ、版本研究の実修を行って文献批判の初歩を固め、版本学の可能性を望見したい。本年度は明治の漢学者古城貞吉の蔵書から、和漢の文学書を取り上げる。

斯道文庫書誌学講座Ⅲ（春学期）

漢籍目録著録法

斯道文庫 教授 山城喜憲

授業科目の内容：

書誌学の基礎的な知識を修得した上で、出来るだけ広く漢籍（中国人の著作）、準漢籍（漢籍に対する日本人の注釈書類）の多様な伝本に接しながら、調査の方法・著録の要領を習得することを目標として、実修を行います。受講者各自の研究状況に応じて、対象書目を選択することも可能です。実修と平行して、日本における漢籍の受容と伝流について概述します。

斯道文庫書誌学講座Ⅳ（秋学期）

斯道文庫 准教授 高橋智

授業科目の内容：

中国の目録学・版本学の概要

斯道文庫書誌学講座Ⅴ（春学期）

校べ勘える

斯道文庫 教授 大沼晴暉

授業科目の内容：

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を

説明します。

斯道文庫書誌学講座Ⅵ（春学期）

書誌学入門（写本）

斯道文庫 准教授 佐々木 孝 浩

授業科目の内容：

文学に限らず、日本の古典籍（特に写本）を対象あるいは材料・資料として研究に用いたいと考える学生に対する講義です。なるべく多くの現物に触れながら、古典籍の知識やその接し方、見方を学びます。

日本漢文学Ⅰ（春学期）

平安時代の駢文についての研究Ⅰ

教授 佐藤 道 生

授業科目の内容：

『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

日本漢文学Ⅱ（秋学期）

平安時代の駢文についての研究Ⅱ

教授 佐藤 道 生

授業科目の内容：

『本朝文粹』、『本朝続文粹』などに収められている駢文作品を受講者の会読というかたちで読み進める。

中日比較文学研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

弦に付して歌われた詩三百の後を継ぐ漢魏の楽府歌辞に主に相和歌辞があり、六朝に至って江南の呉声西曲と合流して清商楽と称され、隋・唐の清楽の源流となった。この時間では古代の日本でも長く親しまれ、漢詩や和歌文学と深い関係にある『文選』及び『玉台新詠』に見える楽府歌辞を取り上げ、楽府歌曲の音楽的性格を考慮に入れつつ、歌辞の移り変わりを読んでいく。

中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

日本語学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の音声

講師 野澤 素 子

授業科目の内容：

本講義では、日本語学習者の音声における誤りの発見と適切な矯正を行うため、日本語教師に求められる日本語の音声の知識と技能について、演習を交えながら概観

する。

日本語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の文法

講師 野澤 素 子

授業科目の内容：

日本語を母語としない日本語学習者に対する日本語の実用文法を学び、さらに語用論、対照研究、誤用分析を通して日本語教育を適切に行うための知識、技能を深める。

日本語学特殊講義Ⅲ（春学期）

言語教授法の歴史・日本語教授法

講師 松岡 弘

授業科目の内容：

主にヨーロッパにおける第二言語教育の歴史と主要な教授法の具体的な内容を、現代から17世紀チェコの教育学者・思想家ヤン・アモス・コメンスキー（コメニウス）にまで遡りながら解説し、それらと近現代の日本語教育並びにその教授法との方法的・思想的関連について考えます。

日本語学特殊講義Ⅳ（秋学期）

日本語教育史・日本事情

講師 松岡 弘

授業科目の内容：

主に明治以降、国内および海外植民地や占領地での日本語教育で用いられた教科書を中心に取り上げ、同時代の欧州の多言語社会における言語教育事情とも比較しながら、文法や語彙、テーマや内容、教育理念や教授法を分析・検討します。このような戦前期の日本語教育の経験を踏まえ、現在及びこれからの言語教育の中の「日本事情」または「日本文化」のあり方についても考えます。

日本語教育学特殊講義Ⅰ（春学期）

日本語の談話研究Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 准教授 田中 妙子

授業科目の内容：

日本語学の談話研究を概観し、日本語教育における口頭表現指導への応用を考える。

前半は待遇表現に関する基礎知識を学び、後半は語用論、会話分析等、近年の談話研究に関する分野を扱う。

日本語教育学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の談話研究Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 准教授 田中 妙子

授業科目の内容：

日本語教育における会話能力の育成について、特に初

級段階での指導内容・指導方法の検討を行う。実習として会話指導に必要な教材の作成も行う。

日本語教育学特殊講義Ⅲ（春学期）

日本語初級文型研究Ⅰ

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年

授業科目の内容：

直接日本語教授法の実践的能力の養成を目標とする。大学レベルの学習者を対象とする初級教材の分析を通じて、言語要素の構築方法ならびに当該レベルの指導上の問題点を概観する。また、教案作成を行うことによって、文型教育を柱とした授業の方法、教材、教具の扱い方について学ぶ。この科目では、初級レベルの前半段階（第1課～第12課あたりまで）に焦点を当てる。

日本語教育学特殊講義Ⅳ（秋学期）

日本語初級文型研究Ⅱ

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年

授業科目の内容：

日本語教育学特殊講義Ⅲの知識、内容を踏まえた上で、初級後半レベルの教材分析を行い、言語要素の体系的な構築方法ならびに直接教授法の指導上の問題点を概観する。また、教案作成を通じて文型教育を柱とした授業の展開方法、教材、教具の扱い方について学び、同時に中・上級レベルへとつながる問題点を考える。この科目では初級レベルの後半段階（第13課～第28課）に焦点を当てる。

日本語教育学特殊講義Ⅴ（春学期）

日本語中・上級文型研究

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年

授業科目の内容：

日本語教育における中・上級文型約60を取り上げ、用法ならびに指導上の問題点を概観する。また文型の中で複合辞と呼ばれる助詞相当句の使用と文章のジャンルとの関係を見ていく。

日本語教育学特殊講義Ⅵ（秋学期）

語彙論・意味論

講師 山崎 誠

授業科目の内容：

本授業では、語彙の構成要素である個々の語と語との相互の関係を整理し、語彙の体系をできるだけ客観的に捉える方法を探る。また、日本語の語彙体系はどのような特徴を持っているか、受講者の母語と対照する。併せて、類義語の記述を題材にして意味特徴、現象素、認知言語学的アプローチなど多様な意味記述の方法を通して、意味を捉える観点を学ぶ。

日本語教育学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教育実習

日本語・日本文化教育センター 教授 村田 年

授業科目の内容：

この科目では13週間にわたって教育実習を行う。教育実習は「演習準備」「演習（実習）」「演習評価」の三つに分かれる。「演習準備」は日本語教育学特殊講義演習Ⅰに当たる。「演習評価」は日本語教育学特殊講義演習Ⅱに当たる。詳細については、演習履修時に、担当者が履修者に対し、個別にオリエンテーションを行う。

日本語教育学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教育実習

日本語・日本文化教育センター 准教授 田中 妙子

授業科目の内容：

この科目では13週間にわたって教育実習を行う。教育実習は「演習準備」「演習（実習）」「演習評価」の三つに分かれる。「演習準備」は日本語教育学特殊講義演習Ⅰに当たる。「演習評価」は日本語教育学特殊講義演習Ⅱに当たる。詳細については、演習履修時に、担当者が履修者に対し、個別にオリエンテーションを行う。

日本語辞書史Ⅰ（春学期）

節用集の世界

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

江戸時代から明治中期にかけて数多く編纂・刊行された節用集を取り上げ、その内容や編集形態を、書誌的事項を含めて考察する。

日本語辞書史Ⅱ（秋学期）

外国語対訳辞書編纂の諸相

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

文禄・慶長から明治初期にかけて編纂・刊行された日本語と外国語の対訳辞書を取り上げ、同時代の日本語の辞書・字典類と比較検討する。

古典語と日本文学Ⅰ（春学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

日本語・日本文化教育に必要な古典語の基礎知識、およびその習得・研究法を整理する。対象とする「(日本)古典語」は、日本語史でいう古代語、および近代語のうち江戸期までのもので書記語の範囲。講義・演習形式を併用してすすめる。

古典語と日本文学Ⅱ（秋学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

日本語・日本文化教育に必要な古典語の基礎知識、およびその習得・研究法を整理する。対象とする「(日本)古典語」は、日本語史でいう古代語、および近代語のうち江戸期までのもので書記語の範囲。講義・演習形式を併用してすすめる。

中国文学専攻

中国文学研究Ⅰ（春学期）

唐詩のエポックを考える

講師 詹 満江

授業科目の内容：

エポックの指標を何に置くかはなかなか難しい問題です。例えば、中秋の名月を最初に詠じた詩人は初唐の李峤です。かの「百詠」で知られる詩人ですが、その「百詠」とともにその「中秋月」二首も日本に伝わって、それで日本のお月見が習慣化したのかどうかはわかりません。少なくとも、杜甫が「八月十五夜月」二首を詠じたときまでは、中国において、いわゆるお月見は一般化していなかったと思われるからです。お月見の習慣化は、やはり中唐の白居易のころまで待たなくてはなりません。また、三月晦日を詠じたのはどの詩人が最初でしょうか。賈島の「三月晦日贈劉評事」詩はよく知られていますが、白居易にも三月晦日を詠じた詩があり、どうやら中唐になって詠じられるようになったようなのです。他にも「黄葉」から「紅葉」への変化など、日中であまり時を隔てずに見られる共通する変化があります。比較文学の観点からも興味深いエポックについて考えてみましょう。

中国文学研究Ⅱ（秋学期）

唐詩のエポックを考える

講師 詹 満江

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅰ」と同じ。

中国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 杉野 元子

授業科目の内容：

20世紀の中国文学作品を講読する。テキストについては、受講生と相談のうえ決める。

あわせて、随時受講生の研究主題の発表・検討をおこなう。

中国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 杉野 元子

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅲ」と同じ。

中国文学研究Ⅴ（春学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

本講はいわゆる古白話文献をあつかう際の基礎知識を習得することを目的として、敦煌変文から宋元平話・明清小説にいたるまでの文学作品を選んで講読します。今年度は敦煌変文・宋・元・明の短篇小説から選んで読む予定。まず、古白話の史的展開の概述を聴講することによってそのアウトラインを理解し、その上で実際に作品を精読し、古白話の特徴や問題点等を把握してもらいます。

作品は輪番で読み進めます。担当者は事前に担当箇所について、テキスト上の問題点・語句の解釈・翻訳等を含めた詳細なレジュメを準備してください。授業時にはそのレジュメに基づいて内容の検討を行います。

中国文学研究Ⅵ（秋学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

「中国文学研究Ⅴ」と同じ。

中国文学研究Ⅶ（春学期）

詩経注釈精読

商学部 教授 種村 和史

授業科目の内容：

本授業では、唐・孔穎達等撰『毛詩正義』と南宋・朱熹撰『詩集伝』を精読する。経学は、儒教の經典に対する注釈の撰述を、研究の中心とし、学者の研究成果も經典の注釈というスタイルで表現された。注釈はまた、先人の研究成果を選択的に受容し踏襲した記述の中から、各学者の独自の見解が浮かび上がるように書かれている。このような注釈を読解する訓練を行うことによって、中国における学問の伝統を体感し、古典文学研究のための確かな基盤を作り上げることを目的とする。

中国文学研究Ⅷ（秋学期）

詩経注釈精読

商学部 教授 種村 和史

授業科目の内容：

『中国文学研究Ⅶ』と同じ。

中国文学研究Ⅹ（春学期）

休 講

中国文学研究Ⅺ（秋学期）

休 講

中国文学研究Ⅻ（春学期）

休 講

中国文学研究Ⅼ（秋学期）

休 講

中国文学研究ⅭⅢ（春学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

20 年代後期から 30 年代の中国大都市に展開した文学雑誌を読んでいく。対象とする雑誌は、一昨年より継続の「新月」に加え、「現代評論」などとする。

中国文学研究ⅭⅣ（秋学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

「中国文学研究ⅭⅢ」と同じ。

中国語学研究Ⅰ（春学期）

中国文法論Ⅰ

講師 内 藤 正 子

授業科目の内容：

王力、呂叔湘、高名凱、趙元任等の著作を読みながら、中国語の文法や表現について、ホリスティックに考察してゆきます。

中国語学研究Ⅱ（秋学期）

中国文法論Ⅱ

講師 内 藤 正 子

授業科目の内容：

「中国語学研究Ⅰ」と同じ。

中国語学研究Ⅲ（春学期）

中国語を言語学的に考える

教授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学研究Ⅳ（秋学期）

中国語を言語学的に考える

教授 山 下 輝 彦

授業科目の内容：

「中国語学研究Ⅲ」と同じ。

中日比較文学研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

弦に付して歌われた詩三百の後を継ぐ漢魂の楽府歌辞に主に相和歌辞があり、六朝に至って江南の呉声西曲と合流して清商楽と称され、隋・唐の清楽の源流となった。この時間では古代の日本でも長く親しまれ、漢詩や和歌文学と深い関係にある『文選』及び『玉台新詠』に見える楽府歌辞を取り上げ、楽府歌曲の音楽的性格を考慮に入れつつ、歌辞の移り変わりを読んでいく。

中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

＊「斯道文庫書誌学講座Ⅱ（秋学期）和漢文学書の版本研究」に関しては 53 ページを参照してください。

英 米 文 学 専 攻

中世英語英文学特殊講義Ⅰ A（春学期）

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

後期中英語写本と初期英語印刷本の palaeography, codicology, printing history から見た分析

中世英語英文学特殊講義Ⅰ B（春学期）

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

学会発表に益する諸相のコーチング

中世英語英文学特殊講義Ⅱ A（春学期）

教授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

後期中英語写本と初期英語印刷本の palaeography, codicology, printing history から見た分析

中世英語英文学特殊講義ⅡB（春学期）

教授 高宮利行

授業科目の内容：

学会発表に益する諸相のコーチング

中世英語英文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 松田隆美

授業科目の内容：

Middle English のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に学ぶ。特に14-15世紀のナラティブ作品を対象として、写本およびヴァージョン間の異同に注目しつつ比較研究をおこなう。

中世英語英文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

教授 松田隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。後期博士課程「中世英文学特殊研究Ⅰ」と併設。

中世英語英文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 松田隆美

授業科目の内容：

Middle English のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に学ぶ。特に14-15世紀のナラティブ作品を対象として、写本およびヴァージョン間の異同に注目しつつ比較研究をおこなう。

中世英語英文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

教授 松田隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。後期博士課程「中世英文学特殊研究Ⅱ」と併設。

近代英米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

18世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田範行

授業科目の内容：

イギリス18世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした18世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義Ⅰ（春学期）は、主に韻文（詩、演劇）を、特殊講義Ⅱ（秋学期）は、小説、批評と伝記を扱って行きます。これらの講義

や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

18世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講師 原田範行

授業科目の内容：

イギリス18世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした18世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義Ⅰ（春学期）では、主に韻文（詩、演劇）を、特殊講義Ⅱ（秋学期）では、小説、批評と伝記を扱って行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

Andrew Marvell 講読

講師 高田康成

授業科目の内容：

17世紀の英文学を代表する詩人 Andrew Marvell (1621-78) の詩作品を読みます。政治宗教的な時代背景としては、世界史に名高いピューリタンあるいはイギリス革命の動乱があり、文学的な背景としては、ルネサンスに復活した古典文学の伝統が控え、思想史的には、コペルニクスの展開をはじめとする認識論の問題が絡むといった具合に、作品解釈は容易ではありませんが、少しずつ解きほぐして行きます。

近代英米文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

19世紀英国小説研究Ⅲ

講師 高橋和久

授業科目の内容：

ヴィクトリア朝小説を読解する上で参照すべき文化的枠組や批評概念を学ぶことを目的とします。

近代英米文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

Andrew Marvell 講読

講師 高田康成

授業科目の内容：

17世紀の英文学を代表する詩人 Andrew Marvell (1621-78) の詩作品を読みます。政治宗教的な時代背景としては、世界史に名高いピューリタンあるいはイギリス革命の動乱

があり、文学的な背景としては、ルネサンスに復活した古典文学の伝統が控え、思想史的には、コペルニクスの展開をはじめとする認識論的問題が絡むといった具合に、作品解釈は容易ではありませんが、少しずつ解きほぐして行きます。

近代英米文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

19世紀英国小説研究Ⅳ

講師 高橋和久

授業科目の内容：

春学期と同じ

現代英米文学特殊講義ⅠA（春学期）

法学部 教授 武藤浩史

授業科目の内容：

20世紀イギリス小説の諸相を考察するために、今年度はD. H. Lawrenceの*Lady Chatterley's Lover*を読む。テキスト読解とともに、この作品を軸にすると20世紀イギリス小説・文化・歴史はどのように見えるのかといった同時代文脈的な問題を考えていきたい。

現代英米文学特殊講義ⅠB（春学期）

(Post)colonial Subjects: The U.S. and World Literature

講師 ナイトン, メアリ・A.

授業科目の内容：

In this year-long course, we begin in the spring semester exploring history and theories of (post)colonialism and empire. In doing so, we also consider how and why the discourse of imperialism has been so absent until only recently in the field of (U.S.) American Studies, and ask how both colonizers and colonized represent and navigate such thorny issues as atrocity, reparations, national shame, reconciliation, corruption, and gender trouble. We will read theoretical texts by Césaire, Senghor, Fanon, Du Bois, Said, Spivak, Bhabha, Singh, Appadurai, Hall, Gilroy, Hardt & Negri, and McClintock, among others. As we develop a theoretical and historical grounding in the field, we will read more widely in the aesthetics and politics of postcolonial subjects in fiction, primarily based on student research interests. Writers may include Melville, Twain, Orwell, Kipling, Conrad, Haggard, Rhys, Kincaid, Caryl Phillips, George Lamming, Mariama Bâ, Naipaul, Achebe, Ngugi, Rushdie, Monica Ali, and J.M. Coetzee. While not necessary for students to have taken the spring semester to join in fall, it is preferable.

現代英米文学特殊講義ⅠC（春学期）

講師 下河辺 美知子

授業科目の内容：

精神医学の知見(PTSD, projection, Splitting etc.)を用いてテロ・テロリズム・テロリストにまつわるテキストを読んでいく。文学研究と文化研究の新たな関係を求めて“記憶”と“恐怖”の概念からアメリカ文化の本質を考える。

現代英米文学特殊講義ⅡA（秋学期）

法学部 教授 武藤浩史

授業科目の内容：

春学期から継続となる。同時代の他の文学作品にも目配りする予定。

現代英米文学特殊講義ⅡB（秋学期）

(Post)colonial Subjects: The U.S. and World Literature

講師 ナイトン, メアリ・A.

授業科目の内容：

「現代英米文学特殊講義ⅠB」と同じ。

現代英米文学特殊講義ⅡC（秋学期）

講師 下河辺 美知子

授業科目の内容：

「現代英米文学特殊講義ⅠC」と同じ。

現代英米文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

モダニズム研究

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

モダニズム文学の多様性を考察する。

現代英米文学特殊講義演習ⅠB（春学期）

イギリス女性作家にみる国家と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

「現代英米文学特殊研究Ⅰ」と併設。

現代英米文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

モダニズム研究

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

「現代英米文学特殊講義演習ⅠA」を参照。

現代英米文学特殊講義演習ⅡB（秋学期）

イギリス女性作家にみる国家と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

「現代英米文学特殊講義研究Ⅱ」と併設。

英語学特殊講義 I A (春学期)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

This course introduces the pronunciation, spelling and grammar of Old English through reading simple prose.

英語学特殊講義 I B (春学期)

社会言語学

教授 井上逸兵

授業科目の内容:

社会言語学の文献を講読する。

英語学特殊講義 I C (春学期)

認知言語学研究 (文法と意味)

講師 西村義樹

授業科目の内容:

文法と意味の関係というテーマを中心に認知言語学の理論的基盤を多角的に検討する。

英語学特殊講義 I D (春学期)

動詞意味論—構文との関わりを中心に—

経済学部 教授 杉岡洋子

授業科目の内容:

動詞の意味的特徴が文の統語的なふるまいを決定するしくみについて学びます。最近のレキシコン研究によって動詞の意味の普遍的側面 (アспект, 概念構造, 事象構造など) が明らかになりつつあります。その性質が、個々の言語における構文のさまざまな現象 (下記参照) にどのように具体的にあらわれているかを、英語日本語等のデータを比較対照しながら、考察します。講義と演習形式の両方を用います。

英語学特殊講義 I E (春学期)

休講

英語学特殊講義 I F (春学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津由紀雄

授業科目の内容:

言語の認知科学の主要論点のいくつかをとりあげ、文献を読んだり、議論したりする。認知言語学の講義ではないので誤解のないよう。受講予定者は第一回目の講義に必ず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、必ず事前に担当者に連絡のこと。

英語学特殊講義 I G (春学期)

関連性理論の研究

名誉教授 西山佑司

授業科目の内容:

われわれは言葉を用いて情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間はなぜ、かくも不完全な言葉を用いて自分の意図を相手に伝達することが可能であるのかという問題を、関連性理論 (Relevance Theory) の立場から論じる。とくに、話し手の言葉の意味が分かるとは一体いかなることか、文の意味と発話の解釈はどのような関係にあるのか、話し手が明示的に言っている内容と暗に示唆している内容との違いは何か、発話解釈を背後で支配している原理や法則は存在するのか、メタファーやアイロニーなどの解釈はいかにして生じるか、コミュニケーション能力と他人の心を読む能力との関係は何か、といった問題を論じる。

英語学特殊講義 I H (春学期)*Beowulf*

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊講義 II A (秋学期)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

In this course, we shall read Old English prose and verse from a variety of genres.

英語学特殊講義 II B (秋学期)

言語人類学

教授 井上逸兵

授業科目の内容:

言語人類学の文献を講読する。

英語学特殊講義 II C (秋学期)

認知言語学研究 (文法と意味)

講師 西村義樹

授業科目の内容:

春学期の続き。

英語学特殊講義ⅡD (秋学期)

動詞意味論－構文との関わりを中心に－

経済学部 教授 杉岡 洋子

授業科目の内容：

動詞の意味的特徴が文の統語的なふるまいを決定するしくみについて学びます。最近のレキシコン研究によって動詞の意味の普遍的側面（アスペクト、概念構造、事象構造など）が明らかになりつつあります。その性質が、個々の言語における構文のさまざまな現象（下記参照）にどのように具体的にあらわれているかを、英語日本語等のデータを比較対照しながら、考察します。講義と演習形式の両方を用います。

英語学特殊講義ⅡE (春学期)

休講

英語学特殊講義ⅡF (秋学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

「英語学特殊講義ⅡF」の継続

英語学特殊講義ⅡG (秋学期)

関連性理論の研究

名誉教授 西山 佑司

授業科目の内容：

「英語学特殊講義ⅡG」と同じ。

英語学特殊講義ⅡH (秋学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミアン

授業科目の内容：

「英語学特殊講義ⅡH」と同じ。

英語学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

Informed Argument

教授 スネル, ウィリアム J.

授業科目の内容：

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving any necessary instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

英語学特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

Informed Argument

教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容：

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic argument. After receiving any necessary instruction in the theory and practice of English rhetoric, students will be expected to present papers for discussion in class.

英語史特殊講義演習Ⅰ (春学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容：

昨年度、*Guthlac B* の部分を読み終えることができなかったため、まずはそれを終わらせ、次に *Dream of the Rood* を読む。

英語史特殊講義演習Ⅱ (秋学期)

史的資料による英語の通時的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容：

Andreas を読む。他の *Cynewulf* の詩、また、*Beowulf* とも、表現、formulae の比較をしながら読みたい。

米文学特殊講義Ⅰ (春学期)

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義Ⅱ (秋学期)

アメリカ文学思想史

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義演習Ⅰ (春学期)

Henry James の長編小説

講師 折島 正司

授業科目の内容：

The Portrait of a Lady と *The Wings of the Dove* を読む。

米文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

Henry James の長編小説

講師 折島 正司

授業科目の内容：*The Ambassadors* と *The Golden Bowl* を読む。

比較文学Ⅰ（春学期）

小説はどのように書かれているかⅠ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

比較文学研究のひとつのありかたとして、文学作品を広く一般的な立場から分析、考察するという態度がある。本講義では、欧米の小説や日本の小説を小説の書き方—一般的な技法という観点から横断的に考察する。すなわち、小説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくと、どのようなことが分かるか、あるいは小説という文学ジャンルはどのような書かれ方をしているのかも考えてみる。様々な批評理論を参照しつつ、具体的な例に即して解説する。

比較文学Ⅱ（秋学期）

小説はどのように書かれているかⅡ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

春学期に続いて、小説の「かたち」についての考察を行う。秋学期には、小説の技法に加えて、一般的な修辞技法についても講義する。

古典文学ⅠA（春学期）

神話と図像Ⅰ

教授 西村 太良

授業科目の内容：

ギリシア神話は実際には様々な文学作品の中に題材として用いられるばかりでなく、膨大な量の図像の形で表現されている。この2つの媒体の相互関係の諸相について具体的な例をとり上げて検討したい。

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術』を読み、西洋における弁論術ないし修辞学の伝統について考える。毎回『弁論術』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

古典文学ⅡA（秋学期）

神話と図像Ⅱ

教授 西村 太良

授業科目の内容：

図像の形で表現された神話について、関連したテキスト、資料に基づいて検討する。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術』を読み、西洋における弁論術ないし修辞学の伝統について考える。毎回『弁論術』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

文芸批評史Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

文芸批評史Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文芸批評史Ⅰの応用篇。

言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

名詞句の意味論

名誉教授 西山 佑司

授業科目の内容：

日本語や英語の名詞句について、主として言語学的意味論の立場から考察する。まず、現代言語学における意味論と語用論の位置付けを概観した上で、文中に登場する名詞句の意味解釈の問題を、指示性・非指示性および飽和性・非飽和性の区別の観点から論じる。そして、これらの名詞句の意味と機能が文の意味解釈にいかに寄与するかを詳細に論じる。これらの議論を通して、コンピュータ文、変化文、存在文、所有文、潜伏疑問文、潜伏命題文、分裂文といった議論の多い構文に対する新しい分析を提示する。また、可算名詞と不可算名詞の区別、数量詞と

存在文との関係などについても議論する。

言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

名詞句の意味論

名誉教授 西山 佑 司

授業科目の内容：

「言語学特殊講義Ⅰ」と同じ

独 学 専 攻

ドイツ文学研究Ⅰ（春学期）

ゲーテ時代研究ⅩⅩ

名誉教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

「ゲーテを読む」

1. ゲーテ時代の精神史
2. 古典派とロマン派
3. ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト
4. ゲーテとヘルダー
5. ゲーテとシュレーゲル
6. ゲーテ自然学と文学
7. ゲーテとイタリア
8. ゲーテと建築
9. ゲーテと造形芸術 etc.

ドイツ文学研究Ⅱ（秋学期）

ゲーテ時代研究ⅩⅩ

名誉教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

「ドイツ文学研究Ⅰ」と同じ。

ドイツ文学研究Ⅲ（春学期）

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容：

今年度はロマン主義のイロニー理論その他を検討していくつもりです。イロニー理論はドイツ・ロマン主義美学理論の中核ですが、これまで日本ではいくつかの図式的理解で事足りていたようです。この講義の枠内では、いくつかの代表的なイロニー理論解釈を読みながら、われわれの理解を深めていくことにします。

ドイツ文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容：

「ドイツ文学研究Ⅲ」と同じ。

ドイツ文学研究Ⅴ（春学期）

思想家としてのゲーテ（１）

教授 桑 川 麻 里 生

授業科目の内容：

ゲーテの自然科学論、思想的エッセイを読みながら、その思想がどこからやってきたのか、またどのように現代まで伝わってきたかを研究します。ゲーテ的思想の先行者としてはスピノザを、後継者としてはベンヤミン、ヴィトゲンシュタイン、ハイゼンベルクなどを中心に、思想的文脈をたどっていきたいと思います。

ドイツ文学研究Ⅵ（秋学期）

思想家としてのゲーテ（２）

教授 桑 川 麻 里 生

授業科目の内容：

ドイツ文学研究Ⅴの続編です。

ドイツ文学演習Ⅰ（春学期）

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容：

Das Schreiben von Examensarbeiten, z.B. Magisterarbeiten, will gelernt und geübt sein. Es genügt nicht, das Thema zu bedenken, die Werke zu lesen, die Literatur zu konsultieren, den eigenen Interpretationsideen zu folgen. Es geht auch darum, sich den Standards und Normen zu stellen, die mit dem Anspruch auf wissenschaftliches Schreiben verbunden sind. Germanistische Propädeutik will hier gezielt Hilfen anbieten. Examenskandidaten wird die Möglichkeit gegeben, den Fortschritt ihrer Arbeiten durch konstruktive Kritik kontinuierlich überprüfen zu lassen.

ドイツ文学演習Ⅱ（秋学期）

Germanistische Propädeutik

教授 フュルンケース, ヨーゼフ

授業科目の内容：

「ドイツ文学演習Ⅰ」と同じ。

ドイツ文学演習Ⅲ（春学期）

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容：

Über Sigmund Freuds Schriften zur Literatur, Kunst und Kultur

Freud hat seine psychoanalytische Theorie nicht nur im Bereich der Klinik, sondern parallel dazu im Bereich der Kulturtheorie entwickelt. Den klinischen Fallstudien entsprechen kulturtheoretische Arbeiten auf verschiedenen

Stufen. Die Bedeutung von Literatur und Kunst für seine Theorie ist schon daran zu erkennen, dass wichtige Konzepte der Psychoanalyse ihre Bezeichnung dem antiken Mythos entlehnen, wie z.B. der Ödipuskomplex oder der Narzissmus. So erläutert er auch in seinen Aufsätzen zur Kunst und Literatur zentrale psychoanalytische Theoreme wie die Sublimierung, die Traumarbeit, die Verdrängung, das Realitäts- und Lustprinzip usw.

Je nach Interesse der Studenten wird eine Auswahl aus folgenden Schriften getroffen:

Der Dichter und das Phantasieren. (1908)
Die ‚kulturelle‘ Sexualmoral und die moderne Nervosität (1908)
Der Familienroman der Neurotiker (1909)
Über den Gegensinn der Urworte (1910)
Totem und Tabu. (Kap.III) (1912–13)
Das Motiv der Kästchenwahl (1913)
Der Moses des Michelangelo (1914)
Vergänglichkeit (1916)
Einige Charaktertypen aus der pschoanalytischen Arbeit (1916)
Eine Kindheitserinnerung aus *Dichtung und Wahrheit*. (1917) (Goethe)
Das Unheimliche (1919) (E.T.A. Hoffmann)
Dostojewski und die Vätertötung (1928)
Goethe-Preis (1930)

Über Freuds „ästhetische“ Studien gibt es natürlich eine ganze Reihe von Untersuchungen. Wir wollen uns mit einem neueren Versuch des französischen Philosophen Jacques Rancière mit dem Titel *Das ästhetische Unbewusste*. (erschienen 2001) auseinandersetzen, in dem er dem besonderen Denken Freuds nachspürt, wie es sich an Gegenständen der Kunst entfaltet.

Die Texte werden in Kopien verteilt.

Regelmäßige Teilnahme und Mitarbeit

ドイツ文学演習Ⅳ (秋学期)

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容:

「ドイツ文学演習Ⅲ」と同じ。

ドイツ文学演習Ⅴ (春学期)

パウル・ツェラン研究

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容:

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の実現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

ドイツ文学演習Ⅵ (秋学期)

パウル・ツェラン研究

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容:

ドイツ文学演習Ⅴの続きです。(以下同)

ドイツ語学研究Ⅰ (春学期)

教授 中山 豊

授業科目の内容:

ドイツ語学の分野における最近の研究論文・著書を講読します。

ドイツ語学研究Ⅱ (秋学期)

教授 中山 豊

授業科目の内容:

「ドイツ語学研究Ⅰ」と同じ。

ドイツ語学研究Ⅲ (春学期)

中高ドイツ語入門

教授 香田 芳樹

授業科目の内容:

中高ドイツ語は1050年頃から1500年頃までにドイツ中西部や上部ドイツで話されていた言葉です。『ニーベルンゲンの歌』や『トリスタンとイゾルデ』、『バルチヴァール』といった珠玉の作品はすべてこれによって書かれています。この演習では、中高ドイツ語の初級文法を簡単に解説しながら、ドイツ中世の文学作品を原典で少しずつ読んでいきます。ドイツ語の古型に触れることで、言葉の発展史も勉強できるでしょう。現代ドイツ語の知識を使えば、古語もそれほど苦勞せずに読みとれるようになる喜びを実感して下さい。新しい(古い?)言葉にふれれば、いにしへのゲルマン人の心意もきっと身近になるはずです。

ドイツ語学研究Ⅳ（秋学期）

中高ドイツ語入門

教授 香田 芳 樹

授業科目の内容：

春学期に引き続き、中高ドイツ語を学んでいきます。初級文法のおさらいをした後で、秋学期では少し背伸びをして、『トリスタンとイゾルデ』を原文で読んでみましょう。

ドイツ語学演習Ⅰ（春学期）

Deutsch in der Wissenschaft I

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容：

Gute Verständigung in einer Fremdsprache setzt nicht nur Grammatik- und Vokabelkenntnisse voraus. Ebenso wichtig ist die Kenntnis von Kommunikationsformen, um sich angemessen und situationsgerecht äußern zu können. Auch im Wissenschaftsbetrieb genügt es nicht, aus der eigenen Sprache in die Fremdsprache zu übersetzen. Darüber hinaus müssen die Regeln der anderen Wissenschaft, ihre Formen und Techniken beherrscht werden.

Diesen Aspekt der „deutschen Wissenschaft“ hat der Kurs zum Inhalt. Nach einer allgemeinen Einführung werden mündliche Formen der wissenschaftlichen Kommunikation geübt: Vorstellung des eigenen Forschungsgebiets, Moderation, Diskussionsleitung und Meinungsäußerung, Vortragstechnik.

ドイツ語学演習Ⅱ（秋学期）

Deutsch in der Wissenschaft II

訪問講師（招聘） ドゥッペルータカヤマ, メヒティルド

授業科目の内容：

Fortsetzung der Veranstaltung des Sommersemesters. Im Mittelpunkt stehen nun schriftliche Formen der wissenschaftlichen Kommunikation wie Handout und Thesenpapier, Protokoll, Expose, Resümee, Forschungsplan sowie offizielle Mails.

比較文学Ⅰ（春学期）

小説はどのように書かれているか

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

比較文学研究のひとつのありかたとして、文学作品を広く一般的な立場から分析、考察するという態度がある。本講義では、欧米の小説や日本の小説を小説の書き方—一般的な技法という観点から横断的に考察する。すなわち、小説という文学形式について、その思想やメッセージの側からではなく、「かたち」の側から読んでゆくと、

どのようなことが分かるか、あるいは小説という文学ジャンルはどのような書かれ方をしているのかも考えてみる。様々な批評理論を参照しつつ、具体的な例に即して解説する。

比較文学Ⅱ（秋学期）

小説はどのように書かれているかⅡ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

春学期に続いて、小説の「かたち」についての考察を行う。秋学期には、小説の技法に加えて、一般的な修辞技法についても講義する。

古典文学ⅠA（春学期）

神話と図像Ⅰ

教授 西村 太良

授業科目の内容：

ギリシア神話は実際には様々な文学作品の中に題材として用いられるばかりでなく、膨大な量の図像の形で表現されている。この2つの媒体の相互関係の諸相について具体的な例をとり上げて検討したい。

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術』を読み、西洋における弁論術ないし修辞学の伝統について考える。毎回『弁論術』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

古典文学ⅡA（秋学期）

神話と図像Ⅱ

教授 西村 太良

授業科目の内容：

図像の形で表現された神話について、関連したテキスト、資料に基づいて検討する。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術』を読み、西洋における弁論術ないし修辞学の伝統について考える。毎回『弁論術』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

文芸批評史 I (春学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容:

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

文芸批評史 II (秋学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容:

文芸批評史 I の応用篇。

言語学特殊講義 I (春学期)

名詞句の意味論

名誉教授 西山 佑司

授業科目の内容:

日本語や英語の名詞句について、主として言語学的意味論の立場から考察する。まず、現代言語学における意味論と語用論の位置付けを概観した上で、文中に登場する名詞句の意味解釈の問題を、指示性・非指示性および飽和性・非飽和性の区別の観点から論じる。そして、これらの名詞句の意味と機能が文の意味解釈にいかに寄与するかを詳細に論じる。これらの議論を通して、コンピュータ文、変化文、存在文、所有文、潜伏疑問文、潜伏命題文、分裂文といった議論の多い構文に対する新しい分析を提示する。また、可算名詞と不可算名詞の区別、数量詞と存在文との関係などについても議論する。

言語学特殊講義 II (秋学期)

名詞句の意味論

名誉教授 西山 佑司

授業科目の内容:

「言語学特殊講義 I」と同じ。

仏文学専攻

中世仏語仏文学特殊講義 I (春学期)

中世フランス語入門 (1)

教授 川口 順二

授業科目の内容:

13 世紀の散文を使って、中世フランス語への入門をしますが、これは同時に中世文献学への入門でもあります。

中世仏語仏文学特殊講義 II (秋学期)

中世フランス語入門 (2)

教授 川口 順二

授業科目の内容:

春学期に学習した中世フランス語の知識を広げて、12 世紀韻文を取り上げ、聖杯伝説の最初のテキストである Chretien de Troyes の Perceval を読んでいきます

中世仏語仏文学特殊講義演習 I (春学期)

16 世紀の仏語と文学

教授 荻野 安奈

授業科目の内容:

ラブレー、モンテーニュなど 16 世紀の散文作品を読み、当時のフランス語に慣れることから始めます。

中世仏語仏文学特殊講義演習 II (秋学期)

16 世紀文学と近・現代

教授 荻野 安奈

授業科目の内容:

前期の続きですが、16 世紀を試金石として近・現代の作家を読むなり、出席者の希望次第です。

近代仏語仏文学特殊講義 I (春学期)

教授 宮林 寛

授業科目の内容:

修士課程の学生諸君は学術論文を書くための基本的技術を学ばなければなりません、技術にもいろいろあって、ノウハウを教わっただけではなかなか身につかないものもあります。そこでこの授業では優れたフランス語の論文を読みながら、論文の「肌ざわり」を実感してもらうことを目標に、演習をおこないます。論文の内容については履修者の顔ぶれを見て決めたいと思います。

近代仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

ベルギー象徴派の詩人マックス・エルスカンプを題材に、言語問題と国民文学について考えてみる予定です。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

古典フランス語入門Ⅰ

教授 片 木 智 年

授業科目の内容：

古典フランス語の入門です。ラシーヌについて、「人間の言語においてこれほど美しい詩句」が書かれたことはないといったのはジードで、悲劇『アンドロマック』をして世界最高の戯曲といったのは浅利慶太です。この時代のフランス語は現代にいたるまで様々な作家のお手本となり、フランス人学生はみんな学校で一通りの作品を学びます。文字通り「クラシック」な教養となっているのです。したがって、フランス文化に親しみたい、あるいは将来的にフランス語・文学の専門家への道を考えているといった方に開かれた演習であり、現代フランス語さえできればよいという方には無益な努力を強いられる辛いだけの授業です。なお、授業では現代語つづりに書き直した古典悲劇の抜粋を題材としますが、徐々に16、17世紀のエディションも紹介していきます。

近代仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

古典フランス語入門Ⅱ

教授 片 木 智 年

授業科目の内容：

前期の授業の続きです。前期で古典フランス語の入門を終えた方、もしくはすでにその知識を持っている方が履修可能です。授業で扱われる資料は当時のフランス語そのまま（現代語つづりに直していないもの）です。人文劇、バロック劇を通じてどんな風にフランスの演劇＝幻想産業が立ち上がってきたかを通史的に追っていくことになるでしょう。

現代仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

Explication de texte

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

- Ce cours a pour objectif d'entraîner les étudiants à la pratique de l'explication de texte littéraire. L'accent sera mis les spécificités techniques de cet exercice. Les étudiants auront à présenter oralement durant le semestre une ou deux explications de texte.
- Le semestre de printemps sera consacré à l'acquisition des notions et du vocabulaire nécessaires à l'explication de

textes à travers l'étude de divers extraits.

現代仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

Explication de texte

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

- Ce cours a pour objectif d'entraîner les étudiants à la pratique de l'explication de texte littéraire. L'accent sera mis les spécificités techniques de cet exercice. Les étudiants auront à présenter oralement durant le semestre une ou deux explications de texte.
- Le semestre d'automne sera consacré à l'étude d'une œuvre littéraire en intégralité. Cette année, nous étudierons *Quai ouest*, de Bernard-Marie Koltès (1948-1989), dramaturge qui domine la scène théâtrale des années 80. La pièce sera étudiée en rapport avec l'ensemble de l'œuvre de Koltès.

現代仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

文学における都市と旅の表象

教授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：

- 1年かけて次の二つの主題について、具体的なテキストを読みながら考察する。
- 1) フランス文学とパリの表象：おそらくパリほど頻繁に文学の主題となり、絵や版面に描かれ、映画の舞台になった都市はない。18世紀以降の近代都市パリの変遷をたどりながら、文学、回想録、ジャーナリズム的著作などにおいてパリがどのように語られ、表象されてきたかを検証する。メルシエ、バルザック、フロベール、ボードレー、ゾラ、プルースト、ブルトン、アラゴン、ジュリアン・グリーンなどの作品を取り上げる。
 - 2) 旅とエキゾチスム：古くから旅は文学の大きなテーマであったが、旅が持つ文化的、知的な意味は時代によって異なる。シャトーブリアン、ラマルティエヌ、ネルヴァール、ロティらの作品をつうじて、19世紀の文学風土における「東方旅行」の系譜について考えてみる。

現代仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

文学における都市と旅の表象

教授 小 倉 孝 誠

授業科目の内容：

春学期の続き。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休 講

仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休 講

仏語仏文学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

名誉教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

ヴィリエ・ド・リラダンの短篇集『残酷物語』から短篇小説を抜粋して読みながら、なぜ19世紀後半にこのような小説が書かれたか、その時代風刺の射程を測ります。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

名誉教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

ヴィリエ・ド・リラダンの短篇集『残酷物語』から、春学期とは別の短篇を抜粋して読みながら、なぜ19世紀後半にこのような小説が書かれたか、その時代風刺の射程を測る作業を続け、同時代の作家と関係づけて論じます。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「プルーストとフロベール」

プルーストはフロベールから影響を受けているが、従来指摘されてこなかった側面に注目し、論じたい。ボードレールのモデルニテの観点からもアプローチしたい。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「プルーストとフロベール」

春学期の継続だが、秋学期はボードレールやコンパニオンを参照しつつ、より理論面の考察を行なう予定です。

古典文学ⅠA（春学期）

神話と図像Ⅰ

教授 西 村 太 良

授業科目の内容：

ギリシア神話は実際には様々な文学作品の中に題材として用いられるばかりでなく、膨大な量の図像の形で表現されている。この2つの媒体の相互関係の諸相について具体的な例をとり上げて検討したい。

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中 川 純 男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術』を読み、西洋における弁論術ないし修辞学の伝統について考える。毎回『弁論術』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

古典文学ⅡA（秋学期）

神話と図像Ⅱ

教授 西 村 太 良

授業科目の内容：

図像の形で表現された神話について、関連したテキスト、資料に基づいて検討する。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中 川 純 男

授業科目の内容：

アリストテレスの『弁論術』を読み、西洋における弁論術ないし修辞学の伝統について考える。毎回『弁論術』のテキストを読み進む。ギリシア語テキスト、あるいは最低二カ国語の近代語訳（日本語訳を含む）を比較対照しつつ読解することが求められる。

言語学特殊講義Ⅰ（春学期）

名詞句の意味論

名誉教授 西 山 佑 司

授業科目の内容：

日本語や英語の名詞句について、主として言語学的意味論の立場から考察する。まず、現代言語学における意味論と語用論の位置付けを概観した上で、文中に登場する名詞句の意味解釈の問題を、指示性・非指示性および飽和性・非飽和性の区別の観点から論じる。そして、これらの名詞句の意味と機能が文の意味解釈にいかに関与するかを詳細に論じる。これらの議論を通して、コピュラ文、変化文、存在文、所有文、潜伏疑問文、潜伏命題文、分裂文といった議論の多い構文に対する新しい分析を提示する。また、可算名詞と不可算名詞の区別、数量詞と存在文との関係などについても議論する。

言語学特殊講義Ⅱ（秋学期）

日本語の意味論研究

名誉教授 西 山 佑 司

授業科目の内容：

「言語学特殊講義Ⅰ」と同じ。

図 書 館 ・ 情 報 学 専 攻

情報学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

Rayward W.B. “The development of library and information science.” *The Study of Information*, ed. by F. Machlup; U. Mansfield. New York, Wiley, 1983, p.343-363 および関連文

献を講読することを通じて、図書館情報学の歴史、「図書館学」と「情報学」、関連分野、最近の動向とその背景などについて考えたい。

情報学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

Fisher, K. E. *et al. ed. Theories of Information Behavior*. Information Today, 2005. の中からいくつかの項目を選んで講読することを通じ、情報行動論の動向を追ってみたい。

情報学特殊講義Ⅲ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館利用者サービスの実施に係わる諸問題を、実習を交え実際に即して検討するインターンシップ科目である。

情報学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

情報学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

情報学特殊講義Ⅰに引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報メディアに関する認識を深めるとともに、共同研究を行います。

情報メディア特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

「情報メディア特殊講義Ⅰ」と同じ。

情報メディア特殊講義Ⅲ（春学期）

休講

情報メディア特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

情報メディア特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報メディア、情報検索、学術情報などにかかわる研究指導を行います。

情報メディア特殊講義演習ⅠB（春学期）

休講

情報メディア特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報メディア、情報検索、学術情報などにかかわる研究指導を行います。

情報メディア特殊講義演習ⅡB（秋学期）

休講

情報検索特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

情報検索の基本的な理論や技法を、文献の講読を通じて身に付けることを目的とします。

情報検索特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 岸田和明

授業科目の内容：

情報検索システムの実装の方法、およびそのシステムの性能を評価・検証するための検索実験の方法を身に付けることを目的とします。

情報検索特殊講義Ⅲ（春学期）

名誉教授 細野公男

授業科目の内容：

情報検索手法、情報検索システム、資料のデジタル化に関わる基本的な考え方・アプローチや問題点、さらに現在話題になっているトピックを取り上げます。

情報検索特殊講義Ⅳ（秋学期）

名誉教授 細野公男

授業科目の内容：

「情報検索特殊講義Ⅲ」で取り上げた話題を種々の側面からさらに展開します。

情報検索特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 岸田 和 明

授業科目の内容：

情報検索およびその周辺領域に関する研究の指導を行います。

情報検索特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 岸田 和 明

授業科目の内容：

「情報検索特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

情報システム特殊講義Ⅰ（秋学期）

高等教育システムと大学・学術図書館

教授（有期） 三 浦 逸 雄

授業科目の内容：

現在、さまざまな形で進行している大学改革に大学図書館はどのように対応すべきなのか、またデジタル時代に大学図書館は生き残っていけるのであろうか。あたらしい時代における図書館員にはいかなる知識や技能が求められているのであろうか。このような問題意識から大学・学術図書館にかかわる諸問題を高等教育システムという広いコンテキストの中で、構造的に検討する。さらに日米比較という視点から歴史的・制度的な考察も加える。

情報システム特殊講義Ⅱ（秋学期）

情報サービスにおける図書館と公文書館（アーカイヴズ）

名誉教授 高 山 正 也

授業科目の内容：

出版という大量複製技術が確立するまで、図書館とアーカイヴズは一体でした。電子的記録が盛んになった現在、カナダのように、図書館とアーカイヴズを再統合した国も出現しています。そこで、出版物と文書、図書館とアーカイヴズの類似点・相違点を把握することで、図書館とアーカイヴズ、更には情報サービスのより深い理解を目指します。

情報システム特殊講義Ⅲ（秋学期）

図書館の〈公共性〉

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

今年度も図書館＝無料貸本屋批判や図書館民営化論を受けて、図書館がもつ〈公共性〉とは何かを、引き続き考えることにします。

館種を問わず、多くの図書館には公的な資金が投入されていますし、「無料の原則」も貫かれています。船橋市立図書館での蔵書廃棄事件をめぐる最高裁判決は、司書による選書や廃棄という行為に一定の〈公共性〉を認めています。また、図書館資料の複製に関しても、著作権

法第31条は図書館における著作権者の権利制限を認めています。これらは、図書館が〈公共性〉を有していることの端的な表れと考えることができます。

その一方で、図書館経営に民間活力の導入が叫ばれ、業務のアウトソーシングはもとより、運営面での住民（利用者）参加や大学図書館の地域開放が自明とされる時代です。図書館をはじめとする各種の公共施設のあり方や公共政策の実施過程への住民の関与 public involvement の考え方は、広く浸透しているように見えます。

そこでこの授業では、ハーバーマスの「公共圏」ないし「公共空間」に依拠しながら、現代日本における図書館の〈公共性〉の再構築を試みることにします。

情報システム特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

情報システム特殊講義演習Ⅰ（春学期）

修士論文の研究指導

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報システム特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

修士論文の研究指導

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

「情報システム特殊講義演習Ⅰ」と同じ。

調査研究法Ⅰ（春学期）

図書館・情報学の基本的な研究方法を学ぶ

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

図書館・情報学の基本的な研究方法について学びます。国内外の具体的な研究事例をもとに、主な研究方法の概要、意義、限界などを検討する予定ですが、特に「統計的方法」について、有意差検定の基本的な考え方が修得できることを目的とします。また、図書館・情報学の主要な専門雑誌についても、それぞれの特徴を理解してもらいたいと考えています。

調査研究法Ⅱ（秋学期）

休 講

情報分析論Ⅰ（春学期）

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者

各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。秋学期の情報分析論Ⅱとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報分析論Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

情報分析論Ⅰと同じ内容です。Ⅰとあわせて継続して履修することを原則とします。

情報資源管理特殊講義Ⅰ（秋学期）

図書館マネジメントの理論と実践

教授（有期） 三浦逸雄

授業科目の内容：

現在、大学図書館や公共図書館など各種図書館は社会環境の変化および情報通信技術の進展によりその存立基盤を含め絶えざる変革を求められている。このような内外の環境変化に直面している図書館にとってマネジメント機能は従来にも増してその重要性が高まっている。こうした認識に立って、図書館マネジメントをめぐるさまざまな問題を取り上げ、理論的な考察と事例の批判的検討を加える。どのような問題を取り上げるかは履修者の問題関心を考慮して決めたい。

情報資源管理特殊講義Ⅱ（春学期）

大学図書館の運営

教授 上田修一

授業科目の内容：

大学図書館の基本的な事柄を包括的に取り上げます。2回をひと組としてそれぞれのトピックについて基礎知識を確かめるとともに、現状と新しい動向を紹介し、受講者の間で討議と、発表を行います。

情報資源管理特殊講義Ⅲ（春学期）

休講

情報資源管理特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

情報資源管理特殊講義Ⅴ（春学期）

コレクションの形成と管理

担当者名： 教授（有期） 三浦逸雄

授業科目の内容：

コレクションは図書館サービスの中核となる要素であるだけでなく、人類の知的遺産を次世代に継承していくための重要な役割を担っている。しかしながら、デジタル環境下にあつて、従来のコレクション概念の再考が求められており、新しい視点からのコレクション形成・管

理が不可欠になっている。このような問題意識にたつて、コレクション形成・管理の理論を検討し、実践上の諸問題を議論することで、新しい環境に対応した指針を受講者とともに探っていきたい。講義は受講者の問題意識とクロスしたかたちで進める。

情報資源管理特殊講義Ⅵ（秋学期）

休講

情報資源管理特殊講義Ⅶ（秋学期）

大学図書館の電子化

教授 上田修一

授業科目の内容：

大学図書館の電子化のトピックを2回をひと組として取り上げます。まず、それぞれのテーマについて、専門家の方々に解説してもらい、次に討議するという形をとります。また、受講者に発表を求めます。

情報資源管理特殊講義Ⅷ（秋学期）

レファレンス・サービス論

教授 田村俊作

授業科目の内容：

レファレンス・サービスを提供する際に課題となる事項について、実際に即して検討します。それにより、レファレンス・ライブラリアンとしての知識・技能の向上をめざします。

情報資源管理特殊講義Ⅸ（秋学期）

休講

情報資源管理特殊講義Ⅹ（秋学期）

休講

情報資源管理特殊講義Ⅺ（春学期）

講師 池内淳

授業科目の内容：

図書館情報学の調査研究を行う際に必要とされる基本的な情報リテラシーを修得するとともに、電子図書館サービスに関連する基礎的な技術や知識について、講義と演習を行います。

情報資源管理特殊講義Ⅻ（春学期特定期間集中）

講師 安形輝

授業科目の内容：

前半では図書館サービスを提供するために必要な情報技術・ネットワーク技術を取り上げ、先進的な事例の紹介やインターネット上で情報サービスを展開するさいの基盤となる技術や規格の解説などを行います。後半は、履

修者の関心ある技術を応用し、実際にウェブ上の情報サービスを構築する小規模な演習を行います。なお、履修人数に応じてグループ分けを行うことがあります。

情報資源管理特殊講義 XIII (秋学期)

データベース構築

教授 岸田和明

授業科目の内容:

データベース構築の理論について学びます。特に、現在稼動している大規模な文献データベースを事例としてデータベース構築の実際と問題点を扱います。

情報資源管理特殊講義 XIV (春学期)

図書館をめぐる法と制度

教授 糸賀雅児

授業科目の内容:

図書館をとりまく法律や諸制度の変容を取り上げます。それぞれのテーマの動向と課題を把握し、個々の図書館の状況に応じた対処法や解決策を探り出すことがねらいです。今年度は、以下のような事項を用意していますが、履修者の要望も聞きながらこの中から3つのテーマを選ぶことにします。

- ・図書館にとっての個人情報保護法
- ・図書館にとっての著作権制度
- ・図書館にとっての公会計制度
- ・地方自治法による「指定管理者制度」
- ・国際標準化機構 (ISO) による図書館関連規格
- ・教育基本法及び図書館法の改正と司書養成・研修の制度
改変

情報資源管理特殊講義 XV (春学期)

公共図書館の諸問題

教授 田村俊作

授業科目の内容:

公共図書館に関連する今日的な問題を取り上げます。関係者を講師として招き、そのお話と討論とを通じて、問題に対する理解を深めます。考えられるテーマには以下のようなものがありますが、実際にどのテーマにするか、および、誰をお招きするかについては、履修者のご意見も聞きながら決めることにします。

情報資源管理特殊講義 XVI (春学期)

休講

情報資源管理特殊講義 XVII (春学期特定期間集中)

講師 池内 淳

授業科目の内容:

図書館情報学の研究を行っていく上で、必要となる確

率・統計に関する基本的な知識を習得し、特定のデータが与えられた際に、どのような統計的手法を用いることが適切であるのかについて判断することができるようになることを目指します。併せて、統計解析のためのソフトウェアの利用方法に習熟することも目指します。

情報資源管理特殊講義 XVIII (春学期)

休講

情報資源管理特殊講義演習 I A (春学期)

教授 上田修一

授業科目の内容:

大学図書館と学術情報に関する基本的問題を扱います。また、論文指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習 I B (春学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスを主なテーマに、院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習 I C (春学期)

修士論文の研究指導

教授 糸賀雅児

授業科目の内容:

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。主要な指導領域は、公共図書館政策、公共図書館経営、図書館の測定・評価などを中心とした公共図書館の諸問題になりますが、その他のテーマについては、その都度検討させていただきます。

情報資源管理特殊講義演習 I D (春学期)

教授 岸田和明

授業科目の内容:

情報検索の技術やサービスをテーマとした論文執筆の指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習 II A (秋学期)

教授 上田修一

授業科目の内容:

「情報資源管理特殊講義演習 I A」と同じ。

情報資源管理特殊講義演習 II B (秋学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスを主なテーマに、I Bに引き続き院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅡC（秋学期）

修士論文の研究指導

教授 糸賀 雅 晃

授業科目の内容：

情報資源管理特殊講義演習ⅠCに引き続いて、修士論文の執筆に向けたテーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報資源管理特殊講義演習ⅡD（秋学期）

教授 岸 田 和 明

授業科目の内容：

「情報資源管理特殊講義演習ⅠD」と同じ。

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ（春学期）

抄読会

教授 岸 田 和 明

助教 安 形 麻 理

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館・情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。

情報資源管理特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授 岸 田 和 明

助教 安 形 麻 理

授業科目の内容：

「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」と同じ。

後期博士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊研究 I A (春学期)

Things in Themselves, Phenomena, and the Primary/
Secondary Distinction

教授 飯田 隆
准教授 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容 :

In this seminar, we are going to examine the Kantian doctrine of things in themselves through reading Rae Langton's book *KANTIAN HUMILITY* (1998, Oxford: Clarendon Press) and discussing it.

Kant's distinction between things in themselves and phenomena has baffled many interpreters and often provoked harsh dismissals from distinguished philosophers. In her book, Rae Langton has presented not only a new and exciting interpretation of this notorious doctrine, but also a philosophically sophisticated defence of it. Her arguments are based on the metaphysical distinction between intrinsic and relational properties of substances, which raises many philosophically interesting questions apart from the matters relating to an interpretation of Kant.

One of the exciting prospects Langdon claims for her interpretation is that Kant offers us a conception of the distinction between primary and secondary qualities which is superior even to modern-day counterparts. We are going to see what this claim involves and examine whether it is true.

There is almost no prerequisite for a student to read the book and participate in the discussion except some ability and willingness to observe conceptual distinctions and follow philosophical arguments. In particular, it is not necessary to have any knowledge about Kantian philosophy, although it helps to have some elementary knowledge about a general outline of it.

哲学特殊研究 I B (春学期)

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
教授 納富 信留
講師 栗原 裕次

授業科目の内容 :

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全10巻の大著である。昨年度に引き続き、第5巻の後半(正確な箇所は要問合せ)からこの作品を読み進め、いよいよ頂点をなす「善のイデア」論(6~7巻)に挑む。その際、J. Burnet や J. Adam 以来一世紀を経て新たに出版された最新の校訂(S. R. Slings の OCT 版)を用いる(旧版との異同に特に注意する)。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回相当量(2章ずつ)を読みながら、議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。

Procli diadoci, *In Platonis Rem publicam commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1889). その翻訳・訳註として, Proclus. *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A. J. Festugière, tome I: dissertations I-IV (p.1-111), Paris, 1970. Proclo. *Commento alla Repubblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo greco a fronte, Milano, 2004 を参照する。

哲学特殊研究 II A (秋学期)

教授 飯田 隆

授業科目の内容 :

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学特殊研究 II B (秋学期)

プラトン『国家』講読

教授 堀江 聡
教授 納富 信留
講師 栗原 裕次

授業科目の内容 :

春学期に引き続いてプラトン『国家』を読みすすめる。第6巻途中から始まるはずであるが、箇所の詳細は担当者にお問い合わせのこと。

哲学特殊研究 III (春学期)

教授 斎藤 慶典
工学部 専任講師 荒金 直人

授業科目の内容 :

Emmanuel Levinas と Jacques Derrida によって提起され

た「他者」にかかわる問題を、彼らの原著にあたりながら議論します。昨年度に引きつづき、Jacques Derrida, *Psyché—Inventions de l'autre* (Galilée, 1987) 所収の論考からいくつかを読みつつ、議論を重ねたいと思います。

哲学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 齋藤慶典
理工学部 専任講師 荒金直人

授業科目の内容：

「哲学特殊研究Ⅲ」と同じ。

哲学特殊研究演習ⅠA（春学期）

古典的世界観

教授 西脇与作

授業科目の内容：

古典力学を基礎につくられた古典的世界観を検討し、認識論の新しい可能性を探ってみたい。

哲学特殊研究演習ⅠB（春学期）

教授 中川純男

授業科目の内容：

修士課程の「哲学原典研究Ⅲ」と共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習ⅠC（春学期）

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

9世紀バグダードにおいてギリシア哲学の移入を先導した、アラブ最初の哲学者アル=キンディーの主著『第一哲学』をアラビア語原典で講読します。アラビア語をまったく知らない学生にアラビア文字のイロハと、テキストを読む上で必要最低限の文法の手ほどきをしたあとは、教室で一緒に辞書を繙いて、手取り足取りそれぞれ家庭教師のごとく教え導くことになるでしょう。

哲学特殊研究演習ⅡA（秋学期）

古典的世界観

教授 西脇与作

授業科目の内容：

春学期の続きとして、量子力学の認識論について議論したい。

哲学特殊研究演習ⅡB（秋学期）

教授 中川純男

授業科目の内容：

修士課程の「哲学原典研究Ⅲ」と共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習ⅡC（秋学期）

イスラーム哲学の源流から完成形まで

教授 堀江 聡

授業科目の内容：

春学期と同様

哲学特殊研究演習Ⅲ（春学期）

論理学・論理学研究

教授 岡田光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

哲学特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

論理学・論理学研究

教授 岡田光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

ロシア・ソフィオロジーの文献を講読する。扱う思想家はP.フロレンスキー、S.ブルガーコフら。

倫理学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

「倫理学特殊研究Ⅰ」と共通

倫理学特殊研究Ⅲ（春学期）

中世の存在論と倫理学

教授 山内志朗

授業科目の内容：

Étienne Gilson, *L'être et l'essence*, seconde éd., J. Vrin, 1987. を購読していく。

倫理学特殊研究Ⅳ（秋学期）

中世の存在論と倫理学

教授 山内志朗

授業科目の内容：

「倫理学特殊研究Ⅲ」の続講。

倫理学特殊研究演習 I A (春学期)

教授 谷 寿 美
教授 山 内 志 朗
准教授 エアトル, ヴォルフガング
准教授 柘 植 尚 則
准教授 奈 良 雅 俊

授業科目の内容 :

倫理学専攻のすべての教員と大学院生が参加し、学生による報告と全員による討論という形で授業を行う。学生は、論文の作成に向けた中間発表を行い、その成果を論文として提出することが求められる。

倫理学特殊研究演習 I B (春学期)

休 講

倫理学特殊研究演習 II A (秋学期)

教授 樽 井 正 義
教授 谷 寿 美
教授 山 内 志 朗
准教授 エアトル, ヴォルフガング
准教授 柘 植 尚 則
准教授 奈 良 雅 俊

授業科目の内容 :

「倫理学特殊研究演習 I A」と同じ。

倫理学特殊研究演習 II B (秋学期)

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容 :

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

美学美術史学専攻

美学特殊研究 I A (春学期)

古典詩論研究 3

講師 藤 田 一 美

授業科目の内容 :

古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊研究 I B (春学期)

教授 大 石 昌 史

授業科目の内容 :

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。論文の作成については随時指導する。

本年度のテーマは、ガイダンスおよび第1回目の授業時に説明する。

美学特殊研究 II A (秋学期)

古典詩論研究 4

講師 藤 田 一 美

授業科目の内容 :

春学期につづき、古代哲学における文藝の位置を確認するために主としてプラトンの『国家』やアリストテレスの『詩学』『弁論術』を細かく読んでゆきます。

なお、古典語未習者の参加を認めます。場合によっては日本語文献を主たるテキストとして用います。

美学特殊研究 II B (秋学期)

教授 大 石 昌 史

授業科目の内容 :

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美学特殊研究演習 I (春学期)

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前 田 富士男

授業科目の内容 :

近現代美術の問題点を、エルンスト・ブロッホの論考を基盤に討議する。あわせて同時代の色彩論も検討する。

美学特殊研究演習 II (秋学期)

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前 田 富士男

授業科目の内容 :

エルンスト・ブロッホの論考を基盤に、ドイツ表現主義美術の諸問題を検討する。あわせて同時代の色彩論も検討する。

美術史特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

博士論文作成を目指す学生を対象に、美術史学の研究方法を講義します。

美術史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 林 温

授業科目の内容：

博士論文作成を目指す学生を対象に、美術史学の研究方法を講義します。

美術史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

コレクションニズム研究

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

14世紀末から始まると考えられるコレクションは、聖遺物、自然物、古代遺物、同時代美術作品などの雑多な蒐集物の混在から始まった。基本的にそれは、長くWunderkammerと呼ばれる珍品気品展示室の状態であった。そこからどのようにアート・コレクション、ひいては美術館の成立につながっていくのかを考える。関わる問題は多数広範囲に及ぶ。宗教物・自然物からのアートの分離（アート概念の成立）、展示・開示の方法と制度、財産目録の記述や分類（美術史学の萌芽）、宮廷や教会における蒐集行為にまつわる政治性、作家の再発見再評価、美術館博物館の成立などである。問題意識を研ぎ澄ませることを目的とする。

美術史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

コレクションニズム研究

教授 遠山 公一

授業科目の内容：

14世紀末から始まると考えられるコレクションは、聖遺物、自然物、古代遺物、同時代美術作品などの雑多な蒐集物の混在から始まった。基本的にそれは、長くWunderkammerと呼ばれる珍品気品展示室の状態であった。そこからどのようにアート・コレクション、ひいては美術館の成立につながっていくのかを考える。関わる問題は多数広範囲に及ぶ。宗教物・自然物からのアートの分離（アート概念の成立）、展示・開示の方法と制度、財産目録の記述や分類（美術史学の萌芽）、宮廷や教会に

おける蒐集行為にまつわる政治性、作家の再発見再評価、美術館博物館の成立などである。問題意識を研ぎ澄ませることを目的とする。

美術史特殊研究演習Ⅴ（春学期）

コロキウム

教授 前田 富士男

教授 美山 良夫

教授 三宅 幸夫

教授 林 温

教授 大石 昌史

教授 遠山 公一

准教授 西川 尚生

准教授 内藤 正人

准教授 金山 弘昌

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

美術史特殊研究演習Ⅵ（秋学期）

コロキウム

教授 前田 富士男

教授 美山 良夫

教授 三宅 幸夫

教授 林 温

教授 大石 昌史

教授 遠山 公一

准教授 西川 尚生

准教授 内藤 正人

准教授 金山 弘昌

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）

音楽学の実践

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質疑応答、そして意見交換をおこないます。

音楽学特殊研究Ⅱ（秋学期）

音楽学の実践

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究Ⅰ」（春学期）と同じ。

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表、および学会誌への投稿についてサポートします。

音楽学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習Ⅰ」（春学期）と同じ。

史学専攻

日本史特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本古代史の諸問題に関して、史料や論文を通して具体的に検討していきたい。

日本史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

「日本史特殊研究Ⅰ」と同じ。

日本史特殊研究ⅢA（春学期）

休講

日本史特殊研究ⅣA（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

博士論文作成のための指導を行う。受講者個々の研究発表を中心に、近世史研究についての諸問題を討論する。史料収集・調査の方法や分析、整理法、さらに専門誌への発表を前提とする論文指導も行う。

日本史特殊研究ⅢB（春学期）

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

近代日本の社会経済史関係文献及び史料の講読。

日本史特殊研究ⅣB（秋学期）

教授 井奥成彦

授業科目の内容：

日本史特殊研究ⅢBと同じ。

日本史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

受講者による研究報告をもとに、日本古代史上の諸問題について検討する。

日本史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

「日本史特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

日本史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

近代移住史

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代における人の移動とアイデンティティ生成について考察する

日本史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

近代移住史

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

「日本史特殊研究演習Ⅲ」と同じ。

東洋史特殊研究ⅠA（春学期）

休講

東洋史特殊研究ⅠB（春学期）

タイにおける華人社会の歴史

教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

受講者の現地調査報告に関連した研究文献や史料の講読を行う。

東洋史特殊研究ⅡA（秋学期）

休 講

東洋史特殊研究ⅡB（秋学期）

タイにおける華人社会の歴史

教授 吉原 和 男

授業科目の内容：

春学期と同じです。

東洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

トルコ語で書かれた研究書、史料の講読。

東洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

『国語』の講読

教授 桐本 東 太

授業科目の内容：

『国語』の講読を通して中国古代人の理念・思考を考察する。

東洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

近代イスラーム史関係の史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊研究演習Ⅰ」を引き継いで近代史にかかわるトルコ語史料を講読する。

東洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

『国語』の講読

教授 桐本 東 太

授業科目の内容：

『国語』の講読を通して中国古代人の理念・思考を考察する。

西洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

休 講

西洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

初期北米アメリカ史・リサーチ・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期北米アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリサーチ・セミナーです。隔週にセミナー・ペーパーの提出を要求します。それをうけて隔週にディスカッションを行います。西洋史学専攻後期博士課程の学生で、初期北米アメリカ史の博士論文を書く学生を対象とします。

西洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

ドイツ三月前期の思想史に関する研究

西洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

初期北米アメリカ史・リサーチ・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期北米アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリサーチ・セミナーです。隔週にセミナー・ペーパーの提出を要求します。それをうけて隔週にディスカッションを行います。西洋史学専攻後期博士課程の学生で、初期北米アメリカ史の博士論文を書く学生を対象とします。

西洋史特殊研究演習ⅢA（春学期）

初期ステュアート朝期の準男爵と治安判事

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

社会移動の観点から初期ステュアート朝期の準男爵と治安判事との関係を実証的に調べる。

西洋史特殊研究演習ⅢB（春学期）

フランス、アンシアン・レジーム社会論

教授 藤田 苑 子

授業科目の内容：

フランス、アンシアン・レジーム期にかかわるフランス語文献を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅢC（春学期）

教授 吉武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, Autobiographie (Paris 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊研究演習ⅣA（秋学期）

初期ステュアート朝期の準男爵と治安判事

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

社会移動の観点から、春学期にまとめたデータを解釈する。

西洋史特殊研究演習ⅣB（秋学期）

フランス、アンシアン・レジーム社会論

教授 藤田 苑 子

授業科目の内容：

春学期にひき続き、フランス語文献を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅣC（秋学期）

教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, Autobiographie (Paris 1981) のラテン語テキストを講読します。

民族学考古学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした博士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

民族学考古学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

民族学・考古学をテーマとした博士論文の作成指導を行なう。研究会形式で、各自の発表に対して建設な討論を行い、論文を育てていく。また、自分の研究以外にも視野を広げ、方法論、知識両面での幅を広げることも目標とする。

民族学考古学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

民族学考古学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 阿 部 祥 人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。同時に先史文化等の研究者を志す人の論文指導や共同研究を行う。

国 文 学 専 攻

国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

歌謡と信仰の研究

国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 藤 原 茂 樹

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

休 講

国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

休 講

国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 岩 松 研 吉 郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起もしくは説話・物語とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 岩 松 研 吉 郎

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅴ」と同じ。

国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

朗詠註の研究Ⅰ

教授 佐 藤 道 生

授業科目の内容：

無名氏撰『和漢朗詠註抄』を受講者の会読というかた

ちで読み進める。

国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

朗詠註の研究Ⅱ

教授 佐藤道生

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅶ」と同じ。

国文学特殊研究Ⅸ（春学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村友視

授業科目の内容：

年間の統一テーマにもとづく論文発表・相互批判の形式で進めます。

テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定します。

国文学特殊研究Ⅹ（秋学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村友視

授業科目の内容：

「国文学特殊研究Ⅸ」と同じ。

国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

往来物の世界

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

江戸時代に大量に出版され、明治・大正・昭和前期の書簡・作文作法書に繋がって行く往来物を取り上げ、実物を使ってその内容や書誌的事項について考察する。

国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

参考文献・注釈辞典の諸相

名誉教授 関場 武

授業科目の内容：

日本の古典文芸作品を読み解くための参考文献・注釈書を取り上げ、その内容・諸本等につき考察する。その際、書誌学的研究方法、情報整理の仕方についても触れ、受講生諸君の論文作成について助言を与える。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡志昂

授業科目の内容：

修士課程「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡志昂

授業科目の内容：

修士課程「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

中国文学専攻

中国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

中国30年代都市のメディアと文学

教授 関根 謙

授業科目の内容：

20年代後期から30年代の中国大都市に展開した文学雑誌を読んでいく。対象とする雑誌は、一昨年より継続の「新月」に加え、「現代評論」などとする。

中国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

中国30年代都市のメディアと文学

教授 関根 謙

授業科目の内容：

「中国文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程の「中国文学研究Ⅴ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程の「中国文学研究Ⅵ」と同じ。

中国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

休講

中国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

休講

中国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

休講

中国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

休講

中国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

修士課程「中国語学研究Ⅲ」と同じ。

中国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山下 輝彦

授業科目の内容：

修士課程「中国語学研究Ⅳ」と同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

修士課程「中日比較文学研究Ⅰ」と同じ。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志昂

授業科目の内容：

修士課程「中日比較文学研究Ⅱ」と同じ。

英米文学専攻

中世英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 松田 隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆する近年の文献を読んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

学会発表に益する諸相のコーチング

中世英文学特殊研究演習Ⅱ（春学期）

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

「近代英文学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

近代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

商学部 教授 英 知明

授業科目の内容：

写本時代の中世からシェイクスピアが活躍したエリザベス朝にかけての最新の書誌学研究について、論文及び研究書を輪読して考察を深める。また学会における優れた研究発表のための研鑽の場と位置づけ、リサーチの質の向上とプレゼンテーション能力の養成も行う。

近代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

商学部 教授 英 知明

授業科目の内容：

「近代英文学特殊研究Ⅰ」の内容を継続して行う。

近代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

中世後期からルネサンスにかけてのイギリスの書物史の諸相を扱う演習。前年度からの続き。

近代英文学特殊研究演習Ⅱ（春学期）

教授 高宮 利行

授業科目の内容：

「中世英文学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

現代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

イギリス女性作家にみる国家と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

Dorothy Richardson, Sylvia Townsend Warner, Mary Butts, Virginia Woolf といった 20 世紀を代表する女性作家の各々の世界を検討しながら、国家、モダニズム、フェミニズムについてじっくり考えたい。

現代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

イギリス女性作家にみる国家と文学

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

「現代英文学特殊研究Ⅰ」を参照

現代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

休 講

現代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

休 講

米文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート（2,000～2,500語程度）提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士1年には年間50冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間2本の英文レポート（2,000～2,500語程度）提出を要求する。博士2年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士3年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

米文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

英語学特殊研究Ⅰ（春学期）

言語人類学の課題

講師 唐 須 教 光

授業科目の内容：

主として博士課程の学生が博士論文を書くのに資する演習を行なう。内容に関しては出席者と相談の上決定する。

英語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

言語人類学の課題

講師 唐 須 教 光

授業科目の内容：

前期と同一

英語学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

「英語学特殊研究演習Ⅰ」と同じ。

独 文 学 専 攻

ドイツ文学特殊研究Ⅰ（春学期）

ゲーテ時代研究XIX

名誉教授 柴 田 陽 弘

授業科目の内容：

「ゲーテを読む」

1. ゲーテ時代の精神史
2. 古典派とロマン派
3. ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト
4. ゲーテとヘルダー
5. ゲーテとシュレーゲル
6. ゲーテ自然学と文学
7. ゲーテとイタリア
8. ゲーテと建築
9. ゲーテと造形芸術 etc.

ドイツ文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

ゲーテ時代研究ⅨⅩ

名誉教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容：

「ゲーテを読む」

1. ゲーテ時代の精神史
2. 古典派とロマン派
3. ゲーテとアレクサンダー・フォン・フンボルト
4. ゲーテとヘルダー
5. ゲーテとシュレーゲル
6. ゲーテ自然学と文学
7. ゲーテとイタリア
8. ゲーテと建築
9. ゲーテと造形芸術 etc.

ドイツ文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 和泉 雅 人

授業科目の内容：

今年度はロマン主義のイロニー理論その他を検討していくつもりです。イロニー理論はドイツ・ロマン主義美学理論の中核ですが、これまで日本ではいくつかの図式的理解で事足りていたようです。この講義の枠内では、いくつかの代表的なイロニー理論解釈を読みながら、われわれの理解を深めていくことにします。

ドイツ文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 和泉 雅 人

授業科目の内容：

「ドイツ文学特殊研究Ⅲ」と同じ。

ドイツ文学特殊研究Ⅴ（春学期）

中世キリスト教文化の諸相

教授 香田 芳 樹

授業科目の内容：

近代ヨーロッパ人の精神性の出発点となったルネサンス、宗教改革、人文主義といった運動はすべて中世に対する反逆と位置づけることができます。しかし中世はこれらによって否定されてしまったのでは決してありません。ルネサンス以降もヨーロッパは、中世という偉大な先人に対し不断に自己主張を繰り返しながら発展してきました。その意味で中世は、ヨーロッパの精神史を学ぶ上で避けて通ることのできない問題を提起している時代だといえます。この演習では特に中世後期のキリスト教思想に焦点を当てて、その現代的意義を問い直したいと思います。修道院文化、異端問題、神秘思想、教会改革運動、終末論についての文学的ドキュメントや論文を読むことで、12-14世紀のキリスト教の抱えた問題点を明らかにし、その現代に対するアクチュアリティを考えたいと思います。

ドイツ文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

中世キリスト教文化の諸相

教授 香田 芳 樹

授業科目の内容：

内容は「ドイツ文学特殊研究Ⅴ」を参照。

ドイツ文学特殊演習Ⅰ（春学期）

Dadaismus

教授 フュルンケース、ヨーゼフ

授業科目の内容：

Mitten im Ersten Weltkrieg treffen 1916 im Emigrantenzentrum Zürich Künstler und Literaten verschiedener Herkunft und Zukunft zu einer internationalen Avantgarde zusammen. „Man muß Dadaist genug sein, um seinem eigenen Dadaismus gegenüber eine dadaistische Stellung einnehmen zu können“ schreibt Huelsenbeck im Berliner „Dada Almanach“ 1920. Die Dadaisten betreiben zwischen 1916 und 1922 ihre radikale Absage an die traditionellen Kunstformen des Bildungsbürgertums, die bis zur Zerstörung der Institutionen von „Kunstwerk“ und „Sinn“ geht. „Jedermann sein eigener Fußball“ heißt 1919 der programmatische Titel einer Berliner Dada-Zeitung. Überliefert sind uns heutigen Lesern dadaistische Manifeste, Texte, Gedichte, „Wortkunstwerke“: Sie lassen die damals eröffneten neuen Möglichkeiten einer faktischen und materialen Ästhetik noch erahnen, die mittlerweile zu großen Teilen in unserer neuen Medienkultur aufgegangen sind.

Von der Analyse dadaistischer „Wortkunstwerke“ ausgehend soll im Seminar versucht werden, diese ehemals neuen, nunmehr vergangenen Möglichkeiten einer faktischen Ästhetik zu extrapolieren.

ドイツ文学特殊演習Ⅱ（秋学期）

Dadaismus

教授 フュルンケース、ヨーゼフ

授業科目の内容：

「ドイツ文学特殊演習Ⅰ」と同じ。

ドイツ文学特殊演習Ⅲ（春学期）

18世紀ドイツ思想研究

講師 渡邊 直 樹

授業科目の内容：

Gotthold Ephraim Lessing の市民劇 Emilia Galotti (1772) をテキストとします。ゲーテがこの作品を「頭だけでこしらえた作品」、F. シュレーゲルが「劇的代数学」と批評しましたが、この意味を Fred Otto Nolte の Lessings “Emilia Galtotti” im Lichte seiner “Hamburgischen Dramaturgie (1938) の論文を参照して考察していきます。

使用するテキスト等は渡邊が用意します。

なお、「エミーリア・ガロッティ」の近年の翻訳は「レッシング名作集」（白水社，1972）、「世界文学全集・レッシング」（講談社，1976）が、また「ハンブルク演劇論」については奥住綱男訳（現代思潮社，1972）、南大路振一訳（鳥影社，2003）があります。随時参照します。

ドイツ文学特殊講習Ⅳ（秋学期）

18世紀ドイツ思想研究

講師 渡邊直樹

授業科目の内容：

Günther RohrmoserのLessing und die religionsphilosophische Fragestellung der Aufklärungをテキストとして宗教・神学において特徴的であったドイツ啓蒙主義について考察します。その際、ドイツ啓蒙主義時代の社会を概観する資料としてRudolf VierhausのDeutschland im 18.Jahrhundert: soziales Gefüge, politische Verfassung, geistige Bewegungを参照します。

ドイツ文学特殊演習Ⅴ（春学期）

パウル・ツェラン研究

教授 大宮勸一郎

授業科目の内容：

詩人パウル・ツェランは難解という評判と、特定の歴史的出来事の表現者という先入見とに埋もれている。どちらも間違った見方ではないが、むしろそれで全てが片付くわけではない。いずれにしてもツェランを読む場合大事なのは、一語一語、あるいは一音一音、さらには一文字一文字読んでゆく、という基礎的作業であろう。この授業はその練習である。

ドイツ文学特殊演習Ⅵ（秋学期）

パウル・ツェラン研究

教授 大宮勸一郎

授業科目の内容：

ドイツ文学特殊演習Ⅴの続きです。（以下同）

ドイツ語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 中山豊

授業科目の内容：

ドイツ語学の分野における最近の研究論文・著書を講読します。

ドイツ語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 中山豊

授業科目の内容：

ドイツ語学の分野における最近の研究論文・著書を講読します。

仏文学専攻

中世仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

文献解読、学会発表・博士論文などの準備

教授 川口順二

授業科目の内容：

受講者と相談して決めます。

中世仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

文献解読、学会発表・博士論文などの準備

教授 川口順二

授業科目の内容：

「中世仏文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

近代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマとテキストは、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 小倉孝誠

授業科目の内容：

「近代仏文学特殊研究Ⅰ」と同じ。

近代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

休講

近代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

名誉教授 鷲見洋一

授業科目の内容：

近年充実のめざましい『百科全書』研究の流れに倣って、基本文献を丁寧に読破することを目的とする。春学期に続いて、Marie Leca-Tsiomis, *Ecrire l'Encyclopédie* を取り上げる。

現代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 宮林寛

授業科目の内容：

学術論文を書くうえで欠かせない技術を実践的に学んでいただく予定ですが、詳細は履修者と相談のうえ決定します。

現代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 宮 林 寛

授業科目の内容：

現代仏文学特殊講義Ⅰと同じ。

現代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

ブルーストとマラルメ

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

「ブルーストとマラルメ」

論叢集「Marcel Proust 5」（レットル・モデルヌ・ミナル社）に2006年に掲載された上記の仏語論文の執筆までの過程について語ります。作品全体と関連のある論文です。

いかに発想が得られたか、先行研究に敬意を払いつつどうそれを引用したか、テキストや書簡や草稿や他の研究をどう扱ったか、時代背景をどう考慮したか、またレフェリー付の学術雑誌で論文がどう評価されたか、などについて話します。

現代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

ブルーストとモデルニテ

教授 牛 場 暁 夫

授業科目の内容：

春学期が実践だとすれば、秋学期は理論篇となります。

仏語学特殊研究Ⅰ（春学期）

Cours de dissertation française

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du trimestre, les étudiants se verront proposer plusieurs sujets de dissertation qui seront préparés en classe en commun à travers la lecture de textes relatifs au sujet tirés de la littérature française ainsi que d'extraits de la littérature critique. Les sujets proposés seront pour la plupart tirés des annales du Concours des Bourses du Gouvernement Français.

Ce cours doit être considéré comme une opportunité offerte aux étudiants de rédiger en langue française sur des questions de littérature générale. Les aspects techniques de l'exercice spécifique que constitue la dissertation feront l'objet d'une attention particulière.

仏語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Cours de dissertation française

訪問准教授（招聘） ブランクール、ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du trimestre, les étudiants se verront proposer plusieurs sujets de dissertation qui seront préparés en classe en commun à travers la lecture de textes relatifs au sujet tirés de la littérature française ainsi que d'extraits de la littérature critique. Les sujets proposés seront pour la plupart tirés des annales du Concours des Bourses du Gouvernement Français.

Ce cours doit être considéré comme une opportunité offerte aux étudiants de rédiger en langue française sur des questions de littérature générale. Les aspects techniques de l'exercice spécifique que constitue la dissertation feront l'objet d'une attention particulière.

図書館・情報学専攻

情報学特殊研究Ⅰ（春学期）

休 講

情報学特殊研究Ⅱ（秋学期）

休 講

情報学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。秋学期の情報学特殊研究Ⅳとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 上 田 修 一

授業科目の内容：

情報学特殊研究Ⅲと同じです。Ⅲとあわせて連続して履修することを原則とします。

情報学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

後期博士課程（夜間）の院生を対象に、図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅠB」との

併設である。

情報学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

「情報学特殊研究Ⅴ」に引き続き、後期博士課程（夜間）の院生を対象に、図書館情報サービスに関する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習ⅡB」との併設である。

情報学特殊研究Ⅶ（春学期）

抄読会

教授 岸田和明
助教 安形麻理

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館・情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅲ」との併設である。

情報学特殊研究Ⅷ（秋学期）

抄読会

教授 岸田和明
助教 安形麻理

授業科目の内容：

毎回3人程度の受講生に図書館・情報学分野の最新の論文に関して読んできたものを発表してもらい、出席者全員で討論を行う。なお、本科目は「情報資源管理特殊講義演習Ⅳ」との併設である。

情報メディア特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

情報メディア特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅰ」と同じ。

情報メディア特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅲ」に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅴ（春学期）

休講

情報メディア特殊研究Ⅵ（秋学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅰ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅱ（秋学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村俊作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館の経営・サービスに関する特定の問題を、実習を交え実際に即して研究するインターシップ科目である。

情報検索特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

図書館・情報学をテーマとする学位論文のための研究指導を行います。

情報検索特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 上田修一

授業科目の内容：

「情報検索特殊研究Ⅴ」と同じ。

情報システム特殊研究Ⅰ（春学期）

博士論文の研究指導

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅱ（秋学期）

博士論文の研究指導

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

「情報システム特殊研究Ⅰ」と同じ。

情報システム特殊研究Ⅲ（春学期）

休 講

情報システム特殊研究Ⅳ（秋学期）

休 講

情報システム特殊研究Ⅴ（春学期）

博士論文の研究指導

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅵ（秋学期）

博士論文の研究指導

教授 糸 賀 雅 児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月4日(金) 矢上 11-41 番教室 12:00~13:00 4月5日(土) 三田 528 番教室 10:45~12:15
4月4日(金) SFC Ω11 番教室 16:30~18:00 4月5日(土) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月13日(日)
- (2) 募集期間 4月14日(月), 15日(火)
- (3) 一次合格発表 4月24日(木)
- (4) 面接審査 4月26日(土)
- (5) 選考結果発表 5月2日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

① ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~9月3日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前), ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)。エッセイ作成(週末)。

【開講予定科目】

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior(予定)。

【単位数】4単位

【募集人数】60名

② ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2008年7月29日(火)~8月12日(火)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス, ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク, フィールドワーク, プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

③ ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2008年8月4日(月)~8月26日(火)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ, ディスカッション, フィールドワーク, プレゼンテーション, 体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

④ オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

〔現地研修期間〕2008年8月22日（金）～9月6日（土）（予定）

〔研修内容〕講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、演劇の見学など

〔単位数〕4単位（予定）

〔募集人数〕20名

⑤ 西安交通大学中国語・中国文化夏季講座

西安交通大学は、工学、医学のみならず文学、法学まで9つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で2006年に創立110周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており、中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の1つです。研修を通じて中国語だけでなく、中国文化全般を理解することができます。

〔現地研修期間〕2008年8月28日（木）～9月14日（日）（予定）

〔研修内容〕中国語授業、中国文化講義、太極拳などのアクティビティ、中国の大学生との交流活動、西安市の名所旧跡の見学

〔単位数〕2単位

〔募集人数〕15名（学部生対象）

⑥ パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2007年度参考〕2008年2月16日～2008年3月16日

〔講義内容 2007年度参考〕共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕定員：20名

⑦ 延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2007年度参考〕2008年2月9日～2008年2月27日

〔講義内容 2007年度参考〕

- 1 Modern and Pre-modern Korea: A Historical Overview
- 2 Modernization and Social Transformation in Korea: A Sociological Perspective
- 3 Confucian Korea: Past and Present
- 4 Korean Economy
- 5 Political Economy of Korean Development
- 6 North-South Korean Relations: South Korean Perspective & Policies
- 7 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of “Hallyu” in Asia and Beyond
- 8 Information Technology in Korea
- 9 Modern Art in Korea
- 10 Korea in a Newly Emerging Regional Security Order

〔単位数〕2単位（予定）

〔募集人数〕20名（学部生対象、大学院生は要相談）

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目 2 単位
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

7. その他

2008 年 7 月、イタリア・ミラノのボッコニー大学がサマースクールを三田キャンパスで行うことになりました（概要は下記参照）。ボッコニー大学は経営学・経済学・法学で知られており、特にその MBA プログラムは常に世界ランキングの上位に入っています。

このサマースクールの日本での開催は今回が初めてで、ボッコニー大学の教員がすべて英語で講義し、ボッコニー大学学生が参加するものですが、慶應義塾大学の学部学生・大学院生も自分の希望する授業を受講できることになりました。

日程、時間割、講義内容等の詳細は国際センター WEBSITE で公開し、5 月下旬ごろに受講希望者を募集する予定です。単位には該当しませんが、知識の幅を広げ、学問を通じた交流を行う絶好の機会となりますので、興味のある学生は WEBSITE を参照してください。

ボッコニー大学サマースクール（Bocconi University Campus Abroad Program）概要

日 時：2008 年 7 月第 2 週～第 4 週 火曜～土曜の 1・2 限集中（予定）

授業分野：経済、経営、ビジネス等：計 24 コマ、日本事情研究：2 コマ

使用言語：英語

参 加 者：ボッコニー大学学部 2、3 年生 20～30 名

2008-2009 Keio University International Center: International Studies Courses (2008年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

Field	Semester	Day	Slot	CourseTitle	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
	Spring	Wed	3	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrer, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Spring	Wed	2	SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2	Yamamoto, Nobuto	現代東南アジア論特殊研究II	山本 信人	F(Law)
	Spring	Thu	3	INTERNATIONAL RELATIONS 2	Yamamoto, Nobuto	国際政治論II	山本 信人	F(Law) Note: HIYOSHI Campus
	Fall	Thu	4	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究II	添谷 秀秀	F(Law)
Area Study: Asia, Oceania	Fall	Wed	5	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究 (*)	山本 信人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nomura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Fri	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソクソクする	ウィリアムス, ムケーシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T.M.	アジアの音楽	ホッフマン, T.M	
	Spring	Wed	5	AUSTRALIAN STUDIES	Carter, David	オーストラリア研究	カーター, デイヴィッド	
Area Study: North America, South America	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論 (アメリカ)	奥田 暎代	
	Fall	Fri	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	ウィリアムス, ムケーシュ	
	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yelloweas, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローエース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
Area Study: Europe, Russia	Spring	Fri	3	UKRAINE AND RUSSIA	Nakorchevski, Andriy	ウクライナとロシア	ナコルチエフスキー, アンドリイ	
	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクト科目II - 欧州統合 (*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hideki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀敏	F(Economics)
Area Study: Africa	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
	Spring	Tue	4	THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	Bambang, Rudyanto	国際協力の実態	バンバン, ルディアント	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Malik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Wed	4	INTERNATIONAL RELATIONS	Seth, Aftab	国際関係	セツ, アフターブ	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
Global Community	Fall	Wed	5	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘	
	Spring	Wed	5	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
	Spring	Mon	3	NGOS, NPFS AND CBOS	Castro-Vazquez, Genaro	ヘルスクエア組織論	カストロ, ヴァスケス, ヘナロ	
	Spring	Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
	Spring	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B (*)	Erti, Wolfgang	倫理学特殊講義III B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B (*)	Erti, Wolfgang	倫理学特殊講義IV B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)

(*) This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (*) のついていた科目は学部生履修不可) Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (*)のついた科目は学部生履修不可)
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	CourseTitle	Lecturer	Course title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:
Global Economy, Global Business	Spring	Thu	4	ACCOUNTING (*)	Ito, Makoto	会計学 (*)	伊藤 真	GS (Business&Commerce)
	Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論 (*)	深尾 光洋	GS (Business&Commerce)
	Fall	Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済 (*)	柏木 茂雄	GS (Business&Commerce)
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Chandra, Elizabeth	歴史としての文学	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Tue	3	THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM	Chandra, Elizabeth	ナショナリズム研究	チャンドラ, エリザベス	
	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Ainge, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Fri	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化・文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Spring	Wed	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
Science	Fall	Wed	3	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Spring	Fri	3	HUMAN ENGINEERING	Waniek, Jacqueline	人間工学	ワニエック, ヤクリーン	

2008-2009 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2008年度 慶應義塾大学国際センター 日本研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (*)のついた科目は学部生履修不可)
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by:	
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela A-Jeoung	日本語の話しことばと言外の意味	キム, アジヨン		
	Fall	Wed	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela A-Jeoung	日本語の話しことばと言外の意味	キム, アジヨン		
Culture	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raesside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス		
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー		
	Fall	Wed	4	INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	Murai, Noriko	美術を「よむ」 - 日本美術史入門	村井 則子		
	Fall	Thu	6	ARTS/ ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	泰山 裕子		
	Fall	Wed	1	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Tech) Note: YAGAMI Campus	
	Spring	Mon	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン		
	Fall	Fri	3	RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	Nakorchevski, Andriy	日本の宗教: 救済の探求	ナコルチェフスキ, アンドリイ		
	Fall	Tue	3	CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	Bailhatchet, Helen	日本キリスト教史	ポールハチエット, ヘレン		
	History	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Ikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人権から見る明治期日本外交	飯倉 尊	
		Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kinmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
Society	Fall	Mon	4	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kinmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール		
	Fall	Fri	4	THE ART OF WAR	Dorsey, James	芸術と戦争	ドーシー, ジェームズ		
	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ		
	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashiwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子		
	Fall	Mon	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Notter, David	家族の近代	ノッター, デビッド		
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子		
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子		
	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学 (1)	手塚 千鶴子		
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学 (2)	手塚 千鶴子		
	Politics	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
	Fall	Mon	3	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	昇 亜美子		
	Fall	Wed	3	JAPANESE ECONOMY	Kojima, Akira	ジャパニーズ・エコノミー	小島 明	GS(Business&Commerce)	
	Fall	Thu	3	ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	Ichikawa, Hiroya	日本経済の展望	市川 博也		
Economy, Business	Spring	Tue	5	CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	Inaba, Etsu	日本企業の経営戦略と管理手法	稲葉 エツ		
	Spring	Tue	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)	
	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghrian, Parissa	日本のビジネス・マネジメント	ハギリアン, パリッサ		
	Fall	Thu	4	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一		
	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umezui, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘		
Law	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Setsu	日本法の制度と実態	小林 節		

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

Lecturer, International Center

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 2

(Spring)

現代東南アジア論特殊研究Ⅱ

Yamamoto, Nobuto

Professor, Faculty of Law

山本 信人

法学部教授

Sub Title:

History of Human Trafficking in Southeast Asia

Course Description:

The phrase "human trafficking" has come up frequently as of late, mostly in mass media, generally described as an excess of globalization. It refers to the recruitment, transportation, transfer, harboring or receipt of people for the purpose of exploitation. Some argue that trafficking is a modern-day slavery. What most people do not realize when talking about trafficking is that patterns and characteristics of it can be found aplenty in the history of Southeast Asia, or anywhere else for that matter.

In this seminar we will dissect the concept of human trafficking and the range of practices it encompasses. As such we will look at practices such as slavery, bondage, domestic service, and prostitution in colonial Southeast Asia. We will subsequently attempt comparisons to contemporary practices of similar nature.

INTERNATIONAL RELATIONS 2

(Spring)

国際政治論Ⅱ

Yamamoto, Nobuto

Professor, Faculty of Law

山本 信人

法学部教授

(Hiyoshi Campus)

<日吉開講>

Sub Title:

International Relations of Southeast Asia

Course Description:

The aim of this course is to provide an overview of international relations of Southeast Asia. Southeast Asia has a unique history being "crossroad of the world" since pre-modern age. During the colonial period in particular, Southeast Asia was exposed to the world-economy system and formed embryonic modern states. During the Cold War, the region witnessed intense rivalry, conflicts, and negotiations between the superpowers and among its states. In the aftermath of the Cold War, it served as an engine of the global economy while undergoing major shifts in the configuration of power, whose trajectory and outcome remain uncertain.

This course will examine the sources of conflict and cooperation in "modern" period, assessing competing explanations for key events in Southeast Asia's international relations. The lectures will expound the international relations of the region against the backdrop of the global systemic rivalry, the legacy of colonialism, the significance of nationalism, as well as the interlinkages in the global, regional and local level. They will also touch upon the implications of the Asian financial crisis in 1997 and the event of 9/11 for Southeast Asian international relations.

東アジアの国際関係特殊研究Ⅱ

Soeya, Yoshihide

添谷 芳秀

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Course Description:

This course gives a general overview to the postwar history of international relations in East Asia, including Japan's role therein and Japan's relations with the countries in the region. Each class will be divided into two parts; an introductory lecture by the instructor and discussions by the participants. There will be one or two articles in English assigned for each week. Detailed course plans with the reading assignments will be distributed in the first week of the course.

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

(Spring)

開発と社会変容

Kurasawa, Aiko

倉沢 愛子

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

(Fall)

東南アジア世界の諸相

Nomura, Toru

野村 亨

Professor, Faculty of Policy Management

総合政策学部教授

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

CONSTRUCTING INDIA

(Spring)

インドをソウゾウする

Williams, Mukesh K.

ウィリアムス, ムケーシュ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to

explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a “grand” unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan’s policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

INDIA TODAY

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師（駒澤大学教授）

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the ‘the middle class’, studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India’s new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

LISTENING TO ASIA

(Spring)

アジアの音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T・M

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師（日印音楽交流会会長）

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSRTRALIAN STUDIES

(Spring)

オーストラリア研究

Carter, David

カーター, デイヴィッド

Lecturer, International Center (Professor, The University of Queensland)

国際センター講師（クイーンズランド大学教授）

Sub Title:

Environment, Identity and Culture

Course Description:

This course examines Australia as a *society*, a *culture* and a *nation*. It focuses on the main forces shaping contemporary Australia — its environment, its Indigenous population, immigration and multiculturalism, cultural influences, political structures, its regional and global relations — and shows how these have changed over time. What kind of society, culture or nation is Australia? How has Australia been defined or

understood by its own people? Is it a 'European' or 'British' society, a multicultural nation, an Asian-Pacific nation? What are the sources of conflict and change in Australian society? How far is Australia a unique country and how far are the issues and conflicts within Australian society those facing other modern, developed nations?

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

(Spring)

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo

Professor, Faculty of Law

奥田 暁代

法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES

(Fall)

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.

Lecturer, International Center

ウィリアムス, ムケーシュ

国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS**(Spring)**

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

UKRAINE AND RUSSIA**(Spring)**

ウクライナとロシア

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Sub Title:

Two countries

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called "standard" interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be a approaches of different people to one and the same historical episode personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined so called "historical memory". Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukraine and Russia history is required.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS**(Fall)**

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed, Related statistics and case studies are also introduce.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES**(Spring)**

アフリカン イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and

AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

(Fall)

グローバルヴィレッジ構築に向けて

Freedman, David

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

フリードマン, デビッド

環境情報学部教授

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face an renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

(Spring)

国際協力の実態

Bambang, Rudyanto

Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

バンバン, ルディアント

国際センター講師 (和光大学准教授)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution(JBIC), the International Organization on Disaster Reduction(ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field. Some special guests from International Organizations will be invited.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

現代の国際問題と国連の役割

Malik, Rabinder N.

マリク, ラビンダー

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

INTERNATIONAL RELATIONS

(Fall)

国際関係

Seth, Aftab

セツ, アフターブ

Professor, Keio University Global Security Research Center

グローバルセキュリティ研究所教授

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

(Fall)

国際開発協力論

Goto, Kazumi

後藤 一美

Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

国際センター講師 (法政大学教授)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

開発法学

Matsuo, Hiroshi

松尾 弘

Professor, Law School

法務研究科教授

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

国際人権法

Hosotani, Akiko

細谷 明子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other illtreatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

ヘルスケア組織論

Castro-Vázquez, Genaro

カストロ ヴァスケス, ヘナロ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

But the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff

members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

Objectives

- To define the concepts of citizenship and civil society
- To identify the role of the State in the provision of health care
- To understand the origin, function, and classification of NGOs, NPOs and CBOs
- To debate the current circumstances surrounding the provision of health care through NGOs, NPOs and CBOs.

INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM

(Spring)

プリントジャーナリズム入門

Holley, David

ホーリー, デイヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

LITERATURE AS HISTORY

(Spring)

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such "sensitive" historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people's particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of "power" further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

THEORY AND PRACTICE OF NATIONALISM

(Fall)

ナショナリズム研究

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

What makes a nation?

Course Description:

This course focuses on the theoretical problems in the formation of nations. Where do we locate the conceptual origin(s) of the nation? Is it really, as they say, a modern creation? What makes a polity a nation? What constitutes sovereignty? What are the legitimizing principles of the

nation? Where do we place culture, myth, and capitalism in the study of nationalism? Is the nation really, ultimately, masculine?

The course is designed to be an interdisciplinary undertaking as we will deal with writings by historians, political scientists, anthropologists, philosophers, and novelists. In addition to required texts, we will also consider a film by the Taiwanese director Hou Hsiao-hsien.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

Associate Professor, Faculty of Economics

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries.

Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media.

We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal?

These and other questions will constitute the core of our discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川真理子

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Spring)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Fall)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden

cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline

Lecturer, International Center

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as “Universal Design”, “Accessibility” or “Emotional Design”, demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

国際政治論特殊研究

Yamamoto, Nobuto Professor, Faculty of Law

山本 信人 法学部教授

Sub Title:

Crime and Politics in Southeast Asia

Course Description:

What is a crime? In what ways do crimes become inseparable from politics?

The questions of criminality are traditionally researched under the Legal Studies. However, inquiries in social histories have proven that even the notion of crime itself – what is lawful and not lawful – is a social reconstruction. In many instances, what constitutes legal or illegal is very much intertwined with politics and criminality itself is a political notion.

In this seminar we will look at the historical formation of notions of “crime” in Southeast Asia, and particularly their social and political implications. We will read articles on colonial Southeast Asia, postcolonial Indonesia, the Philippines, Vietnam, Singapore, and ASEAN.

PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

(Fall)

プロジェクト科目Ⅱ・欧州統合

Tanaka, Toshiro Professor, Jean Monnet Chair

田中 俊郎 ジャン・モネチェア教授

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Reform Treaty, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 27 member states by January 2007.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B

(Spring)

倫理学特殊講義 III B

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エアトル, ヴォルフガング 文学部准教授

Sub Title:

Immanuel Kant: Critique of Practical Reason I

Course Description:

This class is meant to be a successor to last year’s seminar on the Groundwork, but it is of course open to those who did not participate. In the spring term we concentrate on the question whether Kant changed his strategy to vindicate the moral law or whether he is using the same type of argument and just shifts the emphasis. In any case, the connection between freedom, autonomy and the moral law is still crucial for Kant’s moral theory. Kant thinks that we are bound by the moral law, because we are free. We need to find out, what reason Kant has for making this paradoxical sounding claim. This can be achieved by getting clear about important metaphysical assumptions concerning ontology and natural theology Kant is subscribing to. We will therefore have to consult passages from Kant’s lectures on metaphysics which he gave around the time of the publication of his second critique and in which he makes these assumptions explicit.

SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B

(Fall)

倫理学特殊講義 IV B

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エアトル, ヴォルフガング 文学部准教授

Sub Title:

Immanuel Kant: Critique of Practical Reason II

Course Description:

In the autumn term we focus on the so-called dialectics of pure practical reason. According to Kant the good will is not good because it is directed to a certain object external to it, but nevertheless the good will has an object, namely the highest good. We will have to understand what this highest good is and what dimensions it has. An important question, for example, is whether Kant is thinking of a political or social dimension or whether it is construed in individualistic terms.

In the context of the dialectics Kant claims that we need to believe in God and in the immortality of the soul to guarantee

the rationality of moral conduct. This move has often been ridiculed by his critics, most prominently by Heine and Schopenhauer. Certainly a difficult problem arises from this strategy in that this thesis might undercut his ethical core idea that we should do the right thing simply because it is the right thing and for no other reason. We will have to see, whether Kant has the means to solve this problem. It is possible that he is simply modifying the scholastic doctrine of the theological virtues here within his sketches of a moral religion and a rational theology. We shall also discuss his theory of moral feeling, in particular in relation to moral sense theorists.

Again, Kant's lectures on metaphysics will provide important clues for addressing these exegetical puzzles.

ACCOUNTING

(Fall)

会計学

Ito, Makoto Professor, Graduate School of Business and Commerce

伊藤 眞 商学研究科教授

Course Description:

International Accounting Standards (IASs) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRSs) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which had been restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepares new and improves IFRSs and improve IASs under the conversion projects with FASB of U.S. and ASB of Japan.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, are required to report in accordance with IFRSs, including IASs from year 2005. Also foreign enterprises, which are listed in EU, are required to report based on IFRs from year 2009. Many countries require the listed enterprises to use IFRs, or are taking steps to harmonize their national accounting standards with IFRSs with some modifications to allow for local environment. In this course, we will study the history of IAS, IASC and IASB briefly, then Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS39 "Financial Instruments: Recognition and Measurement" and IAS12 "Income Taxes", which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IFRSs, each student will be assigned in advance to report on a Standard, which such student selects, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

ADVANCED STUDY OF FINANCE

(Fall)

金融特論

Fukao, Mitsuhiro Professor, Faculty of Business and Commerce

深尾 光洋 商学部教授

Course Description:

Corporate Governance and Financial System

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002 - 152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol. 11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

INTERNATIONAL ECONOMY

(Fall)

国際経済

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand how international economic issues are addressed by policymakers around the world.

The course will take up issues such as those related to economic globalization, macroeconomic policy coordination, trade, financial markets and capital flows, economic development, the role of international institutions, and regional integration. The class will examine historical experiences in these areas and discuss current issues in an international context. By doing so, the discussions during the class will enable students to follow and understand the policy issues currently discussed in various international fora and to engage in more informed and effective discussions.

The discussions will be assisted by my 34 years of experience with the Japanese Government, including 12 years of secondment to international financial institutions.

The course will be organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English.

日本研究講座 (Japanese Studies)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring) (Fall)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A. Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジヨン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know*, *I mean*, *like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *datte*, *maa*, *nan(i)*, *no*, and *yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeside, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short—wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

The texts will be read in roughly chronological order.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

(Fall)

美術を「よむ」—日本美術史入門

Murai, Noriko

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

村井 則子

国際センター講師 (テンプル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE

(Fall)

アートワークショップ／日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

Lecturer, International Center

菱山 裕子

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING

(Spring)

日本仏教と現代社会

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center, Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

(Fall)

日本の宗教：救済の探求

Nakorchevski, Andriy

Professor, Faculty of Letters

ナコルチェフスキー, アンドリイ

文学部教授

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and visiting different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus.

This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY**(Fall)**

日本キリスト教史

Ballhatchet, Helen

ボールハチェット, ヘレン

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA**(Fall)**

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Iikura, Akira

飯倉 章

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION**(Spring)**

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN**(Fall)**

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific

War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

THE ART OF WAR

(Fall)

芸術と戦争

Dorsey, James

ドーシー, ジェームズ

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, songs, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly, to the wars in first China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

“Civic engagement” refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. “Civic Engagement” and “Civil Society” are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

(Fall)

多民族社会としての日本

Kashiwazaki, Chikako

柏崎千佳子

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to ‘multiethnic Japan’. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various ‘newcomer’ immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority ‘Japanese’ population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

(Fall)

家族の近代

Notter, David

ノッター, デビット

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a ‘new history of the family’. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan, and this text will serve as the basis for four formal class discussions spread over the semester. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the ‘modern family’ and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, and traditional family arrangements will also be examined.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

(Spring)

異文化コミュニケーション 1

Tezuka, Chizuko

手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

(Fall)

異文化コミュニケーション 2

Tezuka, Chizuko

手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

(Spring)

日本人の心理学 (1)

Tezuka, Chizuko

手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

(Fall)

日本人の心理学 (2)

Tezuka, Chizuko

手塚千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since

then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko
青木 裕子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko
昇 亜美子

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kojima, Akira
小島 明

Guest Professor, Graduate School of Business and Commerce
商学研究科特別招聘教授

Course Description:

Japan's economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through video and tapes etc.

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

(Fall)

日本経済の展望

Ichikawa, Hiroya
市川 博也

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)
国際センター講師 (上智大学教授)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

日本企業の経営戦略と管理手法

Inaba, Etsu

Lecturer, International (Center Director, Human Resource Development Department,
Institute for International Studies and Training)

稲葉 エツ

国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Sub Title:

Understanding Successful Strategy Implementation

Course Description:

This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussions, we will look at the micro-level management strategies and practices.

The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills of students.

Under the increasingly globalized economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations include their ability to modify and change, as the environment changes, their management practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as “good practice” will be pursued through case studies, company visit and students’ own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

日本における外資系企業

Harris, Graham

Lecturer, Faculty of Business and Commerce (President, Harris Consultancy)

ハリス, グレアム

商学部講師 (ハリス・コンサルタンシー社長)

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

日本のビジネスマネジメント

Haghirian, Parissa

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

ハギリアン, パリッサ

国際センター講師 (上智大学専任講師)

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

国際経営比較

Yoshida, Fumikazu

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

吉田 文一

国際センター講師 (産業能率大学教授)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the “post-bubble” period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

(Fall)

日本の経営

Umezu, Mitsuhiro

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

梅津 光弘

商学部准教授

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

INTRODUCTION TO JAPANESE LAW

(Fall)

日本法の制度と実態

Kobayashi, Setsu

Professor, Faculty of Law

小林 節

法学部教授

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - ①Administration
 - ②Judges and Public Prosecutors
 - ③Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

Sub Title:

Science and Technology in Space and Time

Course Description:

This course is intended for students from various backgrounds. The main purpose of the course is to introduce students to the cultural bases that the development of science and technology stands on.

In the first half of each class hour, a topic from the latest Japanese news in science or technology fields will be selected for discussion. Here, the instructor will provide some materials to refer to, but students are encouraged to throw in their ideas, insights, and interpretations of the Japanese cultural context to which the topic is related.

In the second half of each class hour, students will take turns and give presentations on the place science and technology hold in the past, present, and future of their own home countries.

The topics will depend on students' special fields as well as current topics, but will probably include issues such as:

- anything light, thin, and small in Japanese household appliance industry
- from walkman to iPod in small things forgotten in mobile culture

アート・センター設置講座

アート・センターはこれまでに、身体表現・美術・環境デザイン・音楽・評論にまたがる四つのアート・アーカイヴ、すなわち土方巽、瀧口修造、ノグチ・ルーム、油井正一のアーカイヴを構築してきました。本講座は、その実績をふまえ、また世界のアート・アーカイヴの実践活動を参照しつつ、アート・アーキヴィストの養成およびリカレント的な教育を目的として開設されました。アート・アーキヴィストとは、美術資料の収集・保存・調査・研究・公開・普及を目的とする学芸員の活動にくわえ、対象とする資料の範囲を音楽、演劇、舞踊、身体表現、文学などの芸術領域とし、またデジタル情報化を中心に知的財産、公共財、社会受容の視点から資料の研究と活用を行う専門家です。現代社会は、文化活動を支える創造的なコンテンツ・デザインを要請しています。この講座は、そうした求めに対応しうる新しいアーキヴィスト概念を追究し、人材の育成をめざします。

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学大学院生が対象です。受講資格・条件等はありませんが、履修の取り扱いについて各研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

2. ガイダンス

履修希望者は、4月7日（月）12:30～13:00（524 番教室）に出席してください。秋学期にはガイダンスは行いません。

アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）2 単位

文学部 教授 前田 富士男
アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子
講師 上崎 千

授業科目の内容：

講義，講読，討論を行う。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

『Booklet 06 ジェネティック・アーカイヴ・エンジン——デジタルの森で踊る土方巽』慶應義塾大学アート・センター，2000 年。

授業の計画：

- ① 基本概念の検討（ミュージアム，アーカイヴ，造形（美術工芸）資料，音響資料，書写資料ほか）
- ② 芸術資料論（収集・保存・調査・公開の方法，システム論，情報化の手法，データベース概念）
- ③ 制度としてのアーカイヴ論（博物館法・文化財保護法・著作権法関連，IT 環境など）
- ④ 価値概念の検証（情動的価値と芸術的価値，文化情報と公共性デザイン）

履修者へのコメント：

履修希望者は、ガイダンスおよび初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）とあわせて履修するのが望ましい。

成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）2 単位

文学部 教授 前田 富士男
アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子
講師 上崎 千

授業科目の内容：

ケース・スタディ，実習，討論を行う。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- ① 芸術資料調査（資料の分類，形状，性質の検討，調書作成法，データ化手法）
- ② 研究アーカイヴ特殊資料論（制作関連資料，二次資料の運用，造形系資料・音響系資料・身体表現系資料・言語系資料の分類）
- ③ ケース・スタディ（絵画資料，楽譜資料，書写資料，写真資料，動画像資料，録音資料）
- ④ アート・アーカイヴの設計と構築と運用

履修者へのコメント：

原則として 10 名程度とする。履修希望者がこれを大きく超える場合には履修者数を制限するので、ガイダンスおよび春学期初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）とあわせて履修するのが望ましい。

成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程および学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結

平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程または博士前期課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程または博士前期課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

慶應義塾大学大学院文学研究科および早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結

平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教

員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則 (平成14年11月1日)

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

(単位互換協定)

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

(受 入)

第1条 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

(受入学生の身分)

第2条 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

(学生数)

第3条 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

(履修期間)

第4条 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

第5条 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

第6条 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

(学費等)

第7条 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚 書)

第8条 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

第9条 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

3. 履修可能科目および単位数

(1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。

(2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

4. 施設利用の便宜

交流学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科における大学院特別聴講生制度に関する協定

※平成13年度新生より哲学専攻が哲学・倫理学専攻に改組されました。

1. 慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科に在籍する学生が、研究上の必要により相手側研究科設置の授業科目の履修を希望する場合、所属研究科の定める範囲内で履修することができる。

2. 第1項に該当する学生は大学院特別聴講生と称する。

3. 定められた手続きを経て、相手側研究科生の履修申込みを受けたときは、当該研究科は正規の授業に支障のないかぎり、履修を許可する。

4. 履修が許可された科目については、受入側研究科は相手側

研究科の学則に基づいて、成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。但し、後期博士課程の学生については、聴講のみとし、単位・成績の認定は行わないこととする。

5. 本制度に関する諸手続は別に定める。

6. 本制度に関する内規は別に定める。

7. 本制度の実施に関する変更は両研究科間の協議により行うものとする。

附 則

本制度は1995年4月1日より施行する。

大学院特別聴講生制度に関する諸手続について

1. 大学院特別聴講生届(所属大学の学事担当部署にあり)に必要な事項を記入して、指導教員の承認をうける。次に相手校に赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認を受けた後、相手校学事担当部署へ提出すること。

2. 履修が許可された場合、指定の期間内に各学事担当部署窓口にて特別聴講生届用紙本人控と引換えに特別聴講生証を交付する。

3. 相手校の授業科目の履修を希望する場合は、履修決定以前の聴講の段階でも必ず講義担当者の許可を得ること。

4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手校学事担当部署および所属大学の学事担当部署に連絡すること。

5. 相手校の授業に関する連絡事項は、所属大学に掲示するので充分注意すること。

関係規程抜粋

文学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規

〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科
その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1-1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成20年2月12日改正

(目的)

第1条 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 ① 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科

哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経済学部

法 学 部

商 学 部

医 学 部

理工学部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) または 学士 (工学)

総合政策学部

環境情報学部

看護医療学部

学士 (哲学)
学士 (哲学)
学士 (美学)
学士 (史学)
学士 (史学)
学士 (史学)
学士 (史学)
学士 (文学)
学士 (文学)
学士 (文学)
学士 (文学)
学士 (図書館・情報学)
学士 (人間関係学)
学士 (人間関係学)
学士 (人間関係学)
学士 (人間関係学)
学士 (経済学)
学士 (法学)
学士 (商学)
学士 (医学)
学士 (工学)
学士 (工学)
学士 (工学)
学士 (工学)
学士 (工学)
学士 (理学)
学士 (工学)
学士 (理学)
学士 (理学)
学士 (工学)
学士 (工学)
学士 (工学) または 学士 (工学)
学士 (総合政策学)
学士 (環境情報学)
学士 (看護学)

薬学部

薬学科	学士 (薬学)
薬科学科	学士 (薬科学)
薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)
医療薬学科 (旧課程)	学士 (薬学)

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学) または 修士 (日本語教育学)

中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)

経済学研究科

法学研究科

社会学研究科

社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)

医学研究科

医科学専攻	修士 (医科学)
-------	----------

理工学研究科

基礎理工学専攻	修士 (理学) または 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) または 修士 (工学)

開放環境科学専攻

経営管理研究科

政策・メディア研究科

政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)
-----------	--------------

健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	修士 (看護学) または 修士 (健康マネジメント学)
------------------------	--------------------------------

システムデザイン・ マネジメント研究科

システムデザイン・ マネジメント専攻	修士 (システムエンジニアリ ング学) または修士 (システ ムデザイン・マネジメント学)
-----------------------	---

メディアデザイン研究科

メディアデザイン専攻	修士 (メディアデザイン学)
------------	----------------

薬学研究科

薬学専攻	修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)
医療薬学専攻	修士 (薬学) または 修士 (医療薬学)

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)

中国文学専攻	博士（文学）
英米文学専攻	博士（文学）
独文学専攻	博士（文学）
仏文学専攻	博士（文学）
図書館・情報学専攻	博士（図書館・情報学）
経済学研究科	博士（経済学）
法学研究科	博士（法学）
社会学研究科	
社会学専攻	博士（社会学）
心理学専攻	博士（心理学）
教育学専攻	博士（教育学）
商学研究科	博士（商学）
医学研究科	博士（医学）
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
総合デザイン工学専攻	博士（理学）または 博士（工学）
開放環境科学専攻	博士（工学）
経営管理研究科	博士（経営学）
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士（政策・メディア）
健康マネジメント研究科	
看護・医療・スポーツ マネジメント専攻	博士（看護学）または 博士（健康マネジメント学）
システムデザイン・ マネジメント研究科	
システムデザイン・ マネジメント専攻	博士（システムエンジニアリ ング学）または博士（システ ムデザイン・マネジメント学）
メディアデザイン研究科	
メディアデザイン専攻	博士（メディアデザイン学）
薬学研究科	
薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）
医療薬学専攻	博士（薬学）または 博士（医療薬学）

4 専門職学位

法務研究科

法務専攻

法務博士（専門職）

② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

（学士学位の授与要件）

第2条の2 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

（修士学位の授与要件）

第3条 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

（課程による博士学位の授与要件）

第4条 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

（論文による博士学位の授与要件）

第5条 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。

（専門職学位の授与要件）

第5条の2 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

（学識の確認の特例）

第6条 ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

第7条 ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

第8条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

第9条 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者	50,000円
2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者	70,000円
3 前2号のいずれにも該当しない者	100,000円
4 本塾専任教職員である者	20,000円

（医学研究科については40,000円）

（審査ならびに期間）

第10条 ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

（審査委員会）

第11条 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

第12条 ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

第13条 ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当

該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。

- ② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

(学位論文要旨の公表)

第14条 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。

(学位論文の公表)

第15条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

(学位の表示)

第16条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

(学位の取消)

第17条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

(学位記および書類)

第18条 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表6までのとおりとする。

(規程の改廃)

第19条 この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則

- ① この規程は平成20年4月1日から施行する。

[以下省略]

与する。

- ② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず、次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し、課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

- ③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

- ④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

- ⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

- ⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

- ⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則(平成12年5月16日)

この内規は、平成12年4月1日から実施する。

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取り扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で、再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

- 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。
- 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。
- 学位の授与手続きは、次の通りとする。
 - 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。
 - 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。
- 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て、当該年度末(3月23日)をもって学位を授

2 奨 学 金

2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成10年4月21日改正

平成17年6月3日改正

第1章 総 則

(根拠)

第1条 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。)第16節奨学制度に基づき、貸費および給費の奨学制度を置く。

(奨学金の種類・金額)

第2条 ① 奨学金の種類は、次のとおりとする。

- 貸費奨学金(無利子) 修士課程(前期博士課程)学生対象(ただし、外国人留学生を除く。)

- 給費奨学金 後期博士課程(以下「博士課程」という。)学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次のとおりとする。

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1 文, 経済, 法, 社会, 商学研究科 | 400,000 円 |
| 2 医学, 経営管理研究科 | 600,000 円 |
| 3 理工学, 政策・メディア研究科 | 500,000 円 |

第2章 貸費生

(資格)

第3条 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（ただし、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

(期間)

第4条 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。ただし、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

(申請)

第5条 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

第6条 貸費生は、第3条の条件により選考する。

(決定)

第7条 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。（家計急変者に対する救済措置等）

第8条 天災その他の災害および家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

(誓約書)

第9条 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。（身分等変更の届出）

第10条 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(貸与の休止)

第11条 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

(貸与の復活)

第12条 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。ただし、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

(失格)

第13条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適格と認められた場合

(貸与の辞退)

第14条 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

(貸与金借用証書の提出)

第15条 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人および保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人および保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

(貸与金の返還)

第16条 ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。ただし、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

(返還猶予)

第17条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害または疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。ただし、原則として3か年を越えて延長することはできない。

(返還免除)

第18条 ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人または連帯保証人の申請により、貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。ただし、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。

- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人または相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書または戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

(資格)

第19条 給費生の資格は、大学院博士課程学生および私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

(期間)

第20条 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

（申請）

第21条 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

（選考）

第22条 給費生は、第19条の条件により選考する。

（決定）

第23条 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

（身分等変更の届出）

第24条 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

（失格）

第25条 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

（返還）

第26条 ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、すでにその年度に給付された金額の全部または一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上で定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請によりすでに給付された奨学金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 前条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

（事務）

第27条 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

（規定の改廃）

第28条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長が行う。

附 則（平成10年4月21日）

- ① この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- ② 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。
- ③ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。
- ④ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）入学者を、本規程第2条第1項第2号および第19条の対象に加えるものとする。

附 則（平成17年6月3日）

この規程は、平成17年6月3日から施行する。

2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定

平成16年3月15日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程（昭和52年4月12日制定）第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

附 則（平成16年3月15日）

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定

平成16年3月15日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること。
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること。
- 3 健康であること。

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認め

た場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく前条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

附 則（平成16年3月15日）

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

3 授業料減免

3-1 慶應義塾大学授業料等減免規程

平成元年7月18日制定

平成16年7月27日改正

(目的)

第1条 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等(大学院にあつては在学科等。以下「授業料等」という。)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

(対象)

- 第2条** ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。
- ② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。
- ③ 法務研究科(法科大学院)については別に定める。

(申請)

第3条 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

(減免額)

- 第4条** ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部については授業料等の半額および実験実習費の半額とする。なお、経済学研究科、法学部政治学科、理工学研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科および看護医療学部は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。
- ② 正課または課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。
- ③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

(審査)

第5条 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

(減免の取消し)

第6条 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた授業料等の全部または一部を納入させることができる。

(就学の届出)

第7条 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

(所管)

第9条 この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成16年7月27日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定

平成18年3月24日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則(大正9年5月5日制定)第153条および慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定)第124条により外国の大学に留学する学生(以下「留学生」という。)の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次のとおりとする。

- 1 留学の始まる日(以下「留学開始日」という。)の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することができる。
- 2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内(医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内)の場合は、留学開始日から1年(医学研究科博士課程は2年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。
- 3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内(医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内)の場合は、留学開始日から2年(医学研究科博士課程は3年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。

第3条 前条にかかわらず、大学院在学中に私費により留学する場合は別に定める。

第4条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

第5条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第6条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成18年3月24日）

- ① この規程は平成18年4月1日から施行する。
- ② 平成18年4月1日以前に留学が開始した場合は、第3条は適用外とする。

3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

平成18年3月24日制定

第1条 「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第3条については、この内規の定めるところによる。

第2条 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いは次のとおりとする。

〈取扱単位〉

1 留学期間は学期（春学期・秋学期）を単位として取り扱う。

〈対象学期〉

2 減免の対象となる学期とは留学により在学しなかった学期とする。

〈減免額〉

3 前項で減免の対象となった学期の属する年度の在学科および実験実習費について、年額の4分の1を各学期において免除する。

〈減免期間〉

4 免除される期間は最長6学期までとする。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとする。

第3条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て塾長がこれを決定する。

附 則

① この内規は平成18年4月1日から施行する。

② この内規は、留学開始日が平成18年4月1日以降の者に適用する。

③ この内規の施行前、すでに留学を許可され留学している者の学費については、「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第2条第1項～3項を適用する。

4 その他

4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する充分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研

究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

附 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 附則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

1 在学科（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額

2 施設設備費（毎年）

大学院学則第131条に定める金額

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

1 在学科（毎年）

大学院学則第131条に定める金額の4分の3

2 施設設備費（毎年）

免除

3 実験実習費（毎年）

大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士

課程)に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

- ② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、塾長が決定する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

○○論文 平成○年度（20○○）	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 論 題 </td> </tr> </table>	論 題
論 題	
慶應義塾大学 大学院 文学研究科 ○○○ 専攻 ○○○ 分野	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 氏 名 </td> </tr> </table>	氏 名
氏 名	

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
20○○	} 1.0 cm
○ ○ 論文	} 1.0 cm
	} 1.0 cm
論 題	
氏 名	
	} 5.0～6.0 cm

塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
 - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
 - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号(自宅および緊急連絡先)・本人との続柄等
 - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど

- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。

- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
 - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
 - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
 - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
 - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
 - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
 - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項

- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。

- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。

- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。

- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL(<http://www.keio.ac.jp/kojinjoho/kojinjoho-toriatukai>)でご覧頂くことができます。

三田キャンパス構内マップ

